

資料 -1

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」 第 79 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 27 年 4 月 2 日（木） 18:00～18:25

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：（福岡歯科大学）大星博明教授、小島 寛教授、大城希美子助教
（北海道医療大学）溝口到教授 （岩手医科大学）千葉俊美教授
（神奈川歯科大学）本間義郎講師 （鶴見大学）子島 潤教授
（昭和大学）弘中祥司教授 （福岡大学）喜久田利弘教授
（オブザーバー：島根大学）関根淨治教授

欠席者：（九州歯科大学）清水博史教授

協議事項

1. 平成 27 年度医歯学連携演習について

（資料 1）

福岡歯科大学の小島教授は、標記について、4月6日（月）からの開始へ向けたリハーサル結果について報告し、不具合があつたため、初回授業日の8時30分から講義配信大学間において最終リハーサルを行う旨述べた。加えて、予習用として次回資料を毎時間講義終了後配布することとしているが、2回目担当の神奈川歯科大学から資料が受領できていないので、2回目講義の冒頭にて配布することとした旨説明した。また、TV 授業アンケートについては資料 1 のとおり昨年同様の内容で既に各大学へ送付している旨を述べ、アンケート実施について協力を依頼した。

なお、岩手医科大学から配信される講義については、前年同様中居賢司先生が担当する旨が確認された。

2. 歯周医学について

（資料 2）

福岡歯科大学の大城助教は、各大学の歯周医学関連授業のまとめに島根大学の現況を追加した旨報告し、概要を説明した。加えて福岡歯科大学の大星教授は、資料 2 に記載がないため、資料の差替えを指示し、改めて送付する旨説明した。

○次回会議の開催予定

次回の第 70 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は、平成 27 年 5 月 14 日（木）17 時から実施担当者会議と合同開催することとした。

以上

平成 27 年 5 月 14 日

第 76 回戦略連携事業実施担当者・ 第 80 回口腔医学カリキュラム作成担当者 合同 TV 会議記録

日 時 平成 27 年 5 月 14 日 (木) 17 時 00 分～17 時 35 分

場 所 福岡歯科大学 本館 8 階第 3 会議室他 各大学 TV 会議室

出席者 (福岡歯科大学) 小島寛 教授、大星博明 教授、佐藤博信 教授、晴佐久悟 講師、
児玉淳 講師、赤坂 学務課係長、長池 企画課員
(北海道医療大学) 佐藤惇 講師 (代理出席)
(岩手医科大学) 千葉俊美 教授
(神奈川歯科大学) 菅谷彰 教授、櫻井孝 教授、本間義郎 講師
(鶴見大学) 子島潤 教授、大久保力廣 教授、阿部道生 学内准教授
(昭和大学) 石川健太郎 講師 (代理出席)
(福岡大学) 出石宗仁 教授
(オブザーバー: 島根大学) 秀島克巳 助教 (代理出席)

(以上 18 名)

欠席者 (福岡歯科大学) 石川博之 学長 (九州歯科大学) 清水博史 教授
(北海道医療大学) 安彦善裕 教授、溝口到 教授
(岩手医科大学) 小豆島正典 教授 (昭和大学) 弘中祥司 教授
(鶴見大学) 前田伸子 副学長 (福岡大学) 喜久田利弘 教授
(オブザーバー: 島根大学) 関根淨治 教授

1. 協議事項

①医歯学連携演習について (資料 1)

福岡歯科大学の小島教授は、5 月 11 日の医歯学連携演習での配信不具合についてお詫びを述べた。続いて、福岡歯科大学情報図書館長の佐藤教授からファイアウォールの障害で学外との通信に障害が発生した旨の説明があった。今後は同様の事態が発生した場合に備えて、昨年度の授業 DVD を配布し、授業中の映像として使用する旨を確認した。その後、福岡歯科大学の小島教授は、資料 1 に基づき、授業アンケートの結果について説明した。自由記載意見の中に講義の時間配分に関する意見があり、講義時間に 70 分、各大学のまとめに 10 分という時間配分を周知する旨を確認した。

②災害口腔医学について (資料 2)

福岡歯科大学の児玉講師は、災害口腔医学モデルシラバスについて資料 2 に基づき、説明を行った。各大学へ意見を求めたところ、「歯科以外の分野も網羅できている」、「コマ数は適切であるかどうか」、「暫間義歯を作る演習を入れてはどうか」等の意見があり、来月以降のカリキュラム作成担当者会議で議論して、より充実した内容にしていく旨を確認した。

③平成 27 年度口腔医学シンポジウムについて

福岡歯科大学の小島教授は、本年度口腔医学シンポジウム (平成 28 年 1 月 9 日 (土) 開催、会場: 福岡大学) について、九州歯科大学・福岡大学・福岡歯科大学の三大学でテーマ選定をすすめて、6 月の実施担当者会議でテーマ案を提出する旨を述べた。あわせて各連携大学へテーマ案があれば提出していただく旨を依頼した。

2. その他

次回開催予定日時について、下記のとおり開催することを確認した。

- ・第 81 口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議

6 月 4 日(木) 18:00~

- ・第 77 回戦略連携事業実施担当者 TV 会議

6 月 11 日(木) 17:00~

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 81 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 27 年 6 月 4 日（木） 18:00～18:20

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：（福岡歯科大学）大星博明教授、小島 寛教授、児玉 悅講師、大城希美子助教
（九州歯科大学）清水博史教授 （岩手医科大学）千葉俊美教授

欠席者：（神奈川歯科大学）本間義郎講師 （昭和大学）石川健太郎講師《機器不良のため》
（福岡大学）喜久田利弘教授 （鶴見大学）子島 潤教授
（北海道医療大学）溝口到教授 （島根大学）関根淨治教授《機器不良のため》

協議事項

1. 平成 27 年度医歯学連携について（資料 1－1～4）

福岡歯科大学の小島教授は、医歯学連携演習の実施状況について、5 月 11 日の講義においてトラブルが発生した件を謝罪し、機器を交換したあとは問題なく授業の送受信ができていることを報告した。その後資料 1 に基づき、アンケート結果は概ね良好であること、自由記載意見に記載された事項については、今後の講義を改善する上で参考にしていく旨説明した。

また、医歯学連携演習の試験問題作成について、資料 1－2～4 に基づき、客観試験形式にて作成し、資料 1－3 の作成数を、資料 1－4 のフォーマットにて 7 月 1 日（水）までに提出するよう各大学へ依頼した。

2. 災害口腔医学について（資料 2）

福岡歯科大学の大星教授は、資料 3 に基づき、災害口腔医学モデルカリキュラムについて、前回の会議時に指摘された事項等にかかる修正箇所の説明を行った。また、講義だけでなく、実習にも対応できるよう作成した旨説明した。

3. その他

福岡歯科大学の大星教授は、歯周医学について、今後も意見交換しながら進めていきた旨述べ、各大学に協力を依頼した。

○次回会議の開催予定

次回の第 82 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は、平成 27 年 7 月 2 日（木）18 時から開催することとした。

以上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 82 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 27 年 7 月 2 日（木） 18:00～18:20

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：（福岡歯科大学）小島 寛教授

（九州歯科大学）清水博史教授

（北海道医療大学）中山英二教授

（岩手医科大学）千葉俊美教授

（神奈川歯科大学）本間義郎講師

（福岡大学）喜久田利弘教授

（鶴見大学）大久保力廣教授

（島根大学）秀島克己助教

欠席者：（昭和大学）石川健太郎講師 《機器不良のため》

協議事項

1. 平成 27 年度医歯学連携演習の実施状況について（資料 1）

福岡歯科大学の小島教授は、医歯学連携演習の実施状況について、6 月実施分のアンケート結果について説明し、動画音声不具合の改善要望が多かったことについて、特定の講義においてここ数年十分対応できていなかったので、次年度は事前調整をきちんと行う必要がある旨述べた。また、他学の講義を聴けて良かった旨の意見は、各大学が提供可能な専門性の高い講義を TV 授業により配信できていることを示すものだと述べた。

最後に小島教授は、平成 28 年度の本講義のシラバスについて、新しい内容を取り入れつつ、トラブル発生時の対策を踏まえながら、10 月以降作成していきたいので、協力願いたい旨述べた。

○次回会議の開催予定

次の第 83 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は、第 79 回実施担当者会議と合同にて平成 27 年 8 月 6 日（木）17 時から開催予定とし、決定次第改めて連絡することとした。

以 上

平成 27 年 8 月 6 日

第 79 回戦略連携事業実施担当者・ 第 83 回口腔医学カリキュラム作成担当者 合同 TV 会議記録

日 時 平成 27 年 8 月 6 日 (木) 17 時 00 分～17 時 45 分

場 所 福岡歯科大学 本館 8 階第 3 会議室他 各大学 TV 会議室

出席者 (福岡歯科大学) 小島寛 教授、大星博明 教授、佐藤博信 教授、坂上竜資 教授、内藤徹 教授、田中慎二 情報図書館課長、長池淳 企画課員
(九州歯科大学) 清水博史 教授
(北海道医療大学) 越野寿 教授 (代理出席)
(岩手医科大学) 小豆島正典 教授、千葉俊美 教授
(神奈川歯科大学) 櫻井孝 教授、本間義郎 講師
(鶴見大学) 大久保力廣 教授
(福岡大学) 出石宗仁 教授、喜久田利弘 教授

(以上 16 名)

欠席者 (福岡歯科大学) 石川博之 学長 (北海道医療大学) 安彦善裕 教授、溝口到 教授
(昭和大学) 弘中祥司 教授 (神奈川歯科大学) 菅谷彰 副学長
(鶴見大学) 前田伸子 副学長、阿部道生 学内准教授
(オブザーバー:島根大学) 秀島克巳 助教(代理出席) ※TV 配信不具合のため

※会議に先立ち、本事業立ち上げの際からカリキュラム作成にご尽力された鶴見大学教授の故子島潤先生（平成 27 年 7 月 18 日逝去、享年 63 歳）へ黙祷を参加者全員で捧げた。

1. 協議事項

①一般医学教育について (資料 1)

福岡歯科大学の大星教授は、資料 1 に基づき、一般医学教育の録画授業一覧について説明を行った。各連携大学には、録画内容をコピーした DVD を貸し出すことができ、授業や補助教材として活用してほしい旨を述べた。

②平成 27 年度口腔医学シンポジウムについて (資料 2)

福岡歯科大学の小島教授は、資料 2 に基づき、平成 27 年度口腔医学シンポジウムのプログラム案について説明を行った。講演の順番や講演時間は暫定的なものであり、講演者に確認する旨を述べた。また討論のモデュレータについて、学校法人福岡学園・常務理事の北村憲司先生へ依頼する案が提案され、了承された。

③平成 27 年度 FD 研修について (資料 3)

北海道医療大学の越野教授は、資料 3 に基づき、平成 27 年度 FD ワークショップについて説明を行った。テーマ「今求められている多（他）職種連携授業」と企画趣旨が提案され、了承された。また開催日時について、11 月 4 日（水）もしくは 18 日（水）17:00～20:00 が提案され、後日、各連携大学にメールで日程調整する旨を述べた。

④平成 26 年度自己点検・評価報告書について

福岡歯科大学の佐藤教授は、平成 26 年度自己点検・評価報告書について、後日、各連携大学にメールで最終校正を依頼する旨を述べた。

2. その他

次回開催予定日時について、下記のとおり開催することを確認した。

- ・第 84 口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議

9月3日(木) 18:00~

- ・第 80 回戦略連携事業実施担当者 TV 会議

9月10日(木) 17:00~

以上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 84 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 27 年 9 月 3 日（木） 18:00～18:25

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：（福岡歯科大学） 大星博明教授、小島 寛教授、坂上竜資教授
（九州歯科大学） 清水博史教授 （昭和大学） 石川健太郎講師
（福岡大学） 喜久田利弘教授 （神奈川歯科大学） 本間義郎講師
欠席者：（北海道医療大学） 溝口到教授 （岩手医科大学） 千葉俊美教授
（鶴見大学） 大久保力廣教授 （島根大学）秀島克己助教《機器不良のため》

協議事項

1. 医歯学連携演習について

福岡歯科大学の小島教授は、医歯学連携演習の試験結果の分析を行いたい旨説明し、各大学へ依頼した。また、来年度の医歯学連携演習について、1月の学長学部長会議にてシラバスを提示することとし、次回以降のカリキュラム作成担当者会議にて内容の検討を行う予定のため、意見等あれば提案して欲しい旨依頼した。

2. 歯周医学について（資料 1）

福岡歯科大学の坂上教授は、資料 1 に基づき、歯周医学コアカリキュラムについて説明した。続いて福岡歯科大学の大星教授は、今後もブラッシュアップを重ね、歯周医学シラバスを完成させていく予定である旨述べた。

○次回会議の開催予定

次回の第 85 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は、平成 27 年 10 月 1 日（木）18 時から開催することとした。

以上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 85 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期　日：平成 27 年 10 月 1 日（木） 18:00～18:20

場　所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：（福岡歯科大学）大星博明教授、小島 寛教授、坂上竜資教授
（北海道医療大学）溝口到教授 （岩手医科大学）千葉俊美教授

欠席者：（昭和大学）弘中祥司教授【機器不良】（神奈川歯科大学）本間義郎講師
（鶴見大学）大久保力廣教授 （九州歯科大学）清水博史教授
（福岡大学）喜久田利弘教授
(オブザーバー：島根大学)秀島克己助教【機器不良】

協議事項

1. 医歯学連携演習について（資料 1-1、1-2）

福岡歯科大学の小島教授は、来年度の医歯学連携演習について、引き続き実施することを各大学へ確認した結果、来年度も継続は可能である旨確認した。また、12月末を目処にシラバスを作成したい旨述べ、了承された。なお、本日の会議に出席できなかつた大学が多かつたため、次回会議までにメール連絡で意見を取りまとめ、次回会議にて検討していく旨述べた。

加えて福岡歯科大学の大星教授は、各大学に対し、ライブ配信にて講義を受講できるようにするため、講義開催曜日と時間について意見を確認した結果、要望や変更の申し出はなく、できるだけライブ配信にて受講するよう努めるとの回答を得た。

2. 歯周医学について

福岡歯科大学の坂上教授は、歯周医学について、前回会議時に提出したモデルシラバス案及び医学・歯学コアカリキュラム対比表の作成に続き、各大学からの意見を踏まえ、今年度中にモデルシラバスを作成する予定である旨説明した。

○次回会議の開催予定

次の第 86 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は、平成 27 年 11 月 5 日（木）18 時から開催することとした。

以　上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 86 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期　日：平成 27 年 11 月 5 日（木） 18:00～18:30

場　所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：（福岡歯科大学）大星博明教授、小島寛教授、坂上竜資教授

（北海道医療大学）溝口到教授 （岩手医科大学）千葉俊美教授

（神奈川歯科大学）本間義郎講師 （昭和大学）石川健太郎講師

（九州歯科大学）清水博史教授 （福岡大学）喜久田利弘教授

欠席者：（鶴見大学）大久保力廣教授

（島根大学）秀島克己助教 【機器不具合】

協議事項

1. 医歯学連携演習について（資料 1-1、1-2）

福岡歯科大学の小島教授は、来年度の医歯学連携演習に向けて、各大学に意見を伺ったところ、神奈川歯科大学から担当講義内容の量が多く、時間が足りない旨の意見があり、内容を吟味し、次回会議にて報告するよう依頼した。

また、小島教授は薬剤に関する講義を 3 コマから 2 コマへ減らし、アレルギーに関する講義を新たに設ける案を検討中である旨説明した。続いて各大学に意見を伺ったところ、アレルギーに関しては、レジンアレルギーも含めた方がいいのではないかとの意見や、皮膚科のベーシックな講義内容を行うといいのではないかとの意見があった。また、減らす薬剤講義の内容について確認があった。

以上の意見を受け、小島教授は、内容の変更へ向けて、次回の会議にて行動目標等の詳細を提示できるように、準備を進める旨述べた。

2. 歯周医学について

福岡歯科大学の坂上教授は、既にシラバス案を提示しているが、各大学から伺った意見を集約中であり、次回会議で最終案を提示する旨説明した。

○次回会議の開催予定

次回の第 87 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は、平成 27 年 12 月 3 日（木）18 時から開催することとした。

以　上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 87 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

日：平成 27 年 12 月 3 日(木) 18:00～18:40

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：(福岡歯科大学) 大星博明教授、小島寛教授、坂上竜資教授
(北海道医療大学) 溝口到教授 (岩手医科大学) 千葉俊美教授
(鶴見大学) 小川匠教授 (昭和大学) 弘中祥司教授
(神奈川歯科大学) 本間義郎講師 (島根大学) 秀島克己助教
欠席者：(九州歯科大学) 清水博史教授 (福岡大学) 喜久田利弘教授

協議事項

1. 医歯学連携演習について（資料 1）

福岡歯科大学の小島教授は、来年度の医歯学連携演習に向けて、平成 28 年度医歯学連携演習シラバス（案）を資料 1 に基づき、変更箇所を中心に説明し、各大学からの意見を伺った。字句の修正のほかはシラバス（案）が了承されたが、16 回目の「ユニット 9 栄養管理」の中に歯科の視点をどのように組み入れるかについて、昭和大学の弘中教授との間で検討することとした。

また、小島教授は、講義日程について、12 月中に日程の確定を行うため、各大学のカリキュラム担当者にて確認を行い、変更がある場合は 2 週間以内に福岡歯科大学へ連絡するよう依頼した。

なお、福岡歯科大学の大星教授は、担当者が未定となっている鶴見大学の講義担当者は、決定次第福岡歯科大学へ連絡するよう依頼した。

2. 歯周医学について（資料 2）

福岡歯科大学の坂上教授は、資料 2 に基づき、歯周医学講義モデルシラバスについて説明した。これを受け福岡歯科大学の大星教授は、本案を最終案とし、学長・学部長会議に提出する旨述べた。

3. その他

福岡歯科大学の大星教授は、今後の口腔医学モデルカリキュラムとして、周術期口腔ケアや嚥下リハビリを扱う口腔ケアモデルカリキュラムについて検討していきたい旨提案し、了承された。

○次回会議の開催予定

次回の第 88 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は、平成 28 年 1 月 7 日（木）18 時から開催することとした。

以 上

平成 28 年 1 月 7 日

第 84 回戦略連携事業実施担当者・ 第 88 回口腔医学カリキュラム作成担当者 合同 TV 会議記録

日 時 平成 28 年 1 月 7 日 (木) 17 時 00 分～17 時 35 分

場 所 福岡歯科大学 本館 8 階第 3 会議室他 各大学 TV 会議室

出席者 (福岡歯科大学) 石川博之 学長、小島寛 教授、大星博明 教授、佐藤博信 教授、内藤徹 教授、石橋慶憲 企画課長、赤坂竜之介 学務課学生係長、長池淳 企画課員
(九州歯科大学) 清水博史 教授
(岩手医科大学) 小豆島正典 教授
(昭和大学) 石川健太郎 講師 (代理出席)
(神奈川歯科大学) 菅谷彰 副学長、本間義郎 講師
(鶴見大学) 前田伸子 副学長
(福岡大学) 出石宗仁 教授、喜久田利弘 教授

(以上 16 名)

欠席者 (北海道医療大学) 安彦善裕 教授、溝口到 教授
(岩手医科大学) 千葉俊美 教授
(昭和大学) 弘中祥司 教授 (神奈川歯科大学) 櫻井孝 教授
(鶴見大学) 阿部道生 学内准教授、大久保力廣 教授
(オブザーバー:島根大学) 秀島克巳 助教(代理出席) ※TV 配信不具合のため

1. 協議事項

①医歯学連携演習について (資料 1-1～2)

福岡歯科大学の小島教授は、資料 1 に基づき、平成 28 年度医歯学連携演習の授業担当および TV 授業参加の有無を説明した。次に鶴見大学の前田副学長は、第 4 回講義においてクラウンブリッジ補綴学講座の重田優子講師が担当者に加わる旨を報告した。続いて小島教授は、授業日程と行動目標の変更箇所について説明した。また上記の箇所を修正した内容で、1 月 9 日 (土) の連携大学学長・学部長会議及び戦略連携事業実施担当者会議合同会議に提出する旨を述べた。

②口腔医学カリキュラムについて (資料 2-1～2)

福岡歯科大学の大星教授は、資料 2 に基づき、今年度に完成した災害口腔医学モデルカリキュラムと歯周医学モデルカリキュラムについて、学習目標のフォーマットを整えたものであり、1 月 9 日 (土) 開催の連携大学学長・学部長会議及び戦略連携事業実施担当者会議合同会議に提出する旨を述べた。

③平成 27 年度 FD 研修について (資料 3-1～2)

福岡歯科大学の小島教授は、本 TV 会議に出席できない主催校の北海道医療大学・安彦教授に代わって、資料 3 に基づき、FD 研修報告書について説明した。また FD 研修の成果や浮き彫りになつた問題点については、今後のモデルカリキュラム作成に活かせるのではないかと述べた。

④平成 28 年度事業計画および予算案について (資料 4)

福岡歯科大学の小島教授は、資料 4 に基づき、平成 28 年度事業計画案について、来年度 FD 研修は福岡歯科大学で担当することを説明して、出席者から特に異論はなかった。上記を追加した内容で、1 月 9 日 (土) 開催の連携大学学長・学部長会議及び戦略連携事業実施担当者会議合同会議に

提出する旨を述べた。また TV 会議・授業システム予算案について、昭和大学の保守料においては今年度に新しいゲートキーパーを導入したことに伴い、他大学と比べて TV 会議システム保守料が増額となっている旨を説明した。

2. その他

次回開催予定日時について、下記のとおり開催することを確認した。

・第 85 回戦略連携事業実施担当者・第 89 回口腔医学カリキュラム作成担当者
合同 TV 会議
2 月 4 日(木) 17:00~

以 上

平成 28 年 2 月 4 日

第 85 回戦略連携事業実施担当者・ 第 89 回口腔医学カリキュラム作成担当者 合同 TV 会議記録

日 時 平成 28 年 2 月 4 日 (木) 17 時 00 分～17 時 45 分

場 所 福岡歯科大学 本館 8 階第 3 会議室他 各大学 TV 会議室

出席者 (福岡歯科大学) 小島寛 教授、大星博明 教授、内藤徹 教授、赤坂竜之介 学務課学生係長
長池淳 企画課員
(九州歯科大学) 清水博史 教授
(神奈川歯科大学) 菅谷彰 教授、本間義郎 講師
(鶴見大学) 前田伸子 副学長、阿部道生 学内准教授
(福岡大学) 出石宗仁 教授、平瀬正康 助手 (代理出席)

(以上 12 名)

欠席者 (福岡歯科大学) 石川博之 学長
(北海道医療大学) 安彦善裕 教授、溝口到 教授
(岩手医科大学) 小豆島正典 教授、千葉俊美 教授
(昭和大学) 弘中祥司 教授 (神奈川歯科大学) 櫻井孝 教授
(鶴見大学) 大久保力廣 教授 (福岡大学) 喜久田利弘 教授
(オブザーバー:島根大学) 秀島克巳 助教(代理出席) ※TV 配信不具合のため

1. 協議事項

①医歯学連携演習について

福岡歯科大学の小島教授は、平成 28 年度の TV 授業に向けて 2 月下旬から配信・受信のリハーサルを行いたい旨を述べた。また各大学のリハーサル担当者を 2 月 15 日 (月) までに連絡していただき、連絡を受けた後にリハーサルの日程調整を行いたい旨を述べた。

②新たな口腔ケアモデルカリキュラムの作成について

福岡歯科大学の大星教授は、新たな口腔ケアモデルカリキュラムについて、周術期医療や嚥下リハビリ等の内容を含んだモデルカリキュラムの作成に取り組みたい旨を述べた。モデルカリキュラムのタイトルや詳しい内容について、今後のカリキュラム作成担当者会議で検討していく旨を述べた。

③平成 27 年度口腔医学シンポジウムについて (資料 1-1～3)

福岡歯科大学の小島教授は、資料 1-1 により、1 月 9 日 (土) に福岡大学で開催された口腔医学シンポジウムについて、一般参加者 82 名・連携大学関係者 89 名で合計 171 名の参加があり、盛況であった旨を報告した。また資料 1-2 により、シンポジウムのアンケート結果について報告した。続いて資料 1-3 により、シンポジウムに係る経費について、当初予算の範囲内で開催することができた旨を報告し、決算および按分額については特に指摘事項等はなく了承された。

④平成 28 年度 FD 研修の開催について

福岡歯科大学の小島教授は、平成 28 年度 FD 研修について、福岡歯科大学で担当する旨を述べた。FD 研修のテーマや日程等について、今後の実施担当者会議で検討していく旨を述べた。

⑤平成 28 年度口腔医学シンポジウム等の開催について (資料 2)

福岡歯科大学の小島教授は、本 TV 会議に出席できない岩手医科大学・小豆島教授に代わって、

資料 2 に基づき、平成 28 年度口腔医学シンポジウム等の開催案について、平成 29 年 1 月 7 日（土）に岩手医科大学を会場として開催したい旨を述べ、各大学の学長・学部長および実施担当者の日程調整を依頼した。

2. その他

次回開催予定日時について、下記のとおり開催することを確認した。

- ・第 90 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議
3 月 3 日（木）18:00～

- ・第 86 回戦略連携事業実施担当者 TV 会議
3 月 10 日（木）17:00～

以上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 90 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 28 年 3 月 3 日（木） 18:00～18:25

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：（福岡歯科大学）大星博明教授、小島寛教授

（北海道医療大学）溝口到教授 （九州歯科大学）清水博史教授

（福岡大学）喜久田利弘教授 （神奈川歯科大学）本間義郎講師

（島根大学）秀島克己助教

欠席者：（岩手医科大学）千葉俊美教授 （鶴見大学）大久保力廣教授

（昭和大学）弘中祥司教授

協議事項

1. 医歯学連携演習について

（資料 1）

福岡歯科大学の小島教授は、標記について、4月 11 日と 18 日の講義日程を入れ替えた旨を説明した。また、3月 7 日に TV 授業配信のリハーサルを実施する旨説明し、4月からの講義に備える旨報告した。

また、福岡歯科大学の大星教授は、講義準備を行う際の注意事項を説明した。

2. 新たな口腔ケアモデルカリキュラムの作成について

福岡歯科大学の大星教授は、標記について、これまでのカリキュラム作成と同様に、各大学における担当者の推薦を実施担当者に依頼することを提案し了承された。

3. 福岡歯科大学の大星博明教授は、次年度にはまとめの活動として、アンケートによる活動の評価等を計画していることを説明した。

○次回会議の開催予定

次回の第 91 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は、平成 28 年 4 月 7 日（木）18 時から開催することとした。

以 上

資料 I -2-(1)

H27 医歯学連携演習シラバス

(一般目標)

口腔医学の観点から歯科診療上重要な疾患の病因・病態と診断・治療を学び、口腔と全身の関わりを理解する。

回	日程	授業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	口腔医学キーワード
1	4/6 1限	福岡歯科大学 内科学 (大星 博明) 総合歯科学 (廣藤 卓雄)	ユニット1 歯科診療時の 全身状態の把握	歯科診療時に全身状態を把握する習慣を身につける。	1) 診察時に貧血および黄疸の有無を判断する。 2) 末梢血検査データを評価できる。 3) 血液生化学検査データを評価できる。	眼瞼結膜、眼球結膜、口唇・爪・手掌の色、舌炎、脈拍数、バイタルサイン 鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、巨赤芽球性貧血、白血病、血小板減少症 肝・腎機能、糖・脂質代謝、逸脱酵素
2	4/13 1限	神奈川歯科大学 顎顔面外科学 (本間 義郎) 麻酔科学 (有坂 博史)			1) 末梢血液検査データを評価できる。 2) 出血凝固系に関するデータを評価できる。 3) 血液生化学検査データを評価できる。 4) 尿検査データを評価できる。 5) 免疫血清学的検査が理解できる。 6) 呼吸器系の検査が理解できる。	炎症、貧血、造血系腫瘍（白血病） 肝硬変、血友病、紫斑病、DIC、抗血小板薬・抗凝固薬服用と出血凝固異常 肝臓機能障害、腎機能障害、糖尿病、甲状腺疾患 腎障害とタンパク尿、尿路感染と血尿、糖尿病と尿糖・ケトン体 ウイルス感染症と血清抗体、自己免疫疾患と抗核抗体、造血系腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）の検査 胸部エックス線写真、スパイログラム、血液ガス分析
3	4/20 1限	北海道医療大学 歯科麻酔科学 (三浦 美英) 口腔外科学 (柴田 考典) 内科学 (高橋 伸彦)	ユニット2 救急医療	歯科診療上重要な救急時の初期対処方法と救命・救急の基本を理解する。	1) A E Dを活用することができる。 2) 意識消失した患者の対応と鑑別疾患を列挙できる。 3) 呼吸困難を訴える患者の対応と鑑別疾患を列挙できる。 4) 胸痛を訴える患者の対応と鑑別疾患を列挙できる。	気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ、A E D、心室細動 気道確保、気道異物除去、気管支鏡、気管切開、上部消化管内視鏡、バイタルサイン、脳梗塞、脳出血、ハリーコール 過換気症候群、喘息発作、肺塞栓症 狭心症、心筋梗塞、解離性大動脈瘤、自然気胸
4	4/27 1限	鶴見大学 内科学 (子島 潤) クラウンブリッジ補綴学 (小川 匠) 口腔顎顔面外科学 (濱田 良樹)	ユニット3 頭頸部領域の 診断と治療	歯科診療上重要な頭頸部領域の主な疾患の病因・病態と診断・治療を学び、歯科疾患との関わりを理解する。	1) 睡眠時無呼吸症候群の病態を説明できる。 2) 終夜睡眠ポリグラフ検査結果を評価できる。 3) 睡眠時無呼吸症候群に対する各種治療法を列挙し、口腔内装置の奏効機序と適応基準を説明できる。 4) 睡眠時無呼吸症候群に対する外科的治療法を説明できる。	いびき、エプワース眠気尺度、終夜睡眠ポリグラフ検査 P S G、鼻腔通気試験、無呼吸低呼吸指数A H I、閉塞型睡眠時無呼吸症候群O S A、口腔内装置O A、鼻持続陽圧呼吸n C P A P、口蓋垂軟口蓋咽頭形成術U P P P、顎変形症

回	日程	授業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	口腔医学キーワード
5	5/11 1限	福岡歯科大学 耳鼻咽喉科学 (山野 貴史) 口腔外科学 (池邊 哲郎)			1) 中耳疾患と頸関節疾患を鑑別できる。 2) 鼻・副鼻腔疾患と口腔疾患との関連性について説明できる。 3) 咽頭疾患の病因・病態と診断・治療を説明できる。 4) 歯科診療時に診断できる頸部腫瘤を列挙できる。	中耳炎、頸関節炎 副鼻腔炎、歯性上頸洞炎、術後性頸部囊胞、上頸洞癌 咽頭炎、咽頭癌、扁桃周囲炎 頸部正中囊胞、側頸部囊胞、頸部リンパ節炎、甲状腺炎、甲状腺腫瘍、転移性リンパ節腫脹、悪性リンパ腫
6	5/11 2限	福岡歯科大学 口腔外科学 (池邊 哲郎) 内科学 (大星 博明) 眼科学 (川野 康一)	ユニット4 口腔症状から発見できる全身疾患	口腔症状から発見できる全身疾患を症候別に理解する。	1) 口腔粘膜のびらん・潰瘍性病変から発見できる全身疾患を列挙する。 2) 歯肉出血や抜歯後出血から発見できる全身疾患を列挙する。 3) 口腔頸顔面領域の疼痛から発見できる全身疾患を列挙する。 4) 口腔頸顔面領域の神経学的異常から発見できる全身疾患を列挙する。 5) 口腔内の色素沈着から発見できる全身疾患を列挙できる。	ウイルス感染症、悪性リンパ腫、シェーグレン症候群、ベーチェット病、結核、梅毒、白血病、特発性血小板減少性紫斑病、血友病、抗癌剤による骨髄抑制 多型滲出性紅斑、尋常性天疱瘡、クローン病 三叉神経痛、心身症、帶状疱疹、脳腫瘍、白血病、悪性リンパ腫、帶状疱疹 von Recklinghausen 病、アジソン病、Peutz-Jeghers 症候群
7	5/18 1限	福岡大学 産婦人科学 (宮本 新吾) 福岡歯科大学 歯周病学 (坂上 竜資) 口腔インプラント学 (城戸 寛史) 内科学 (大星 博明)	ユニット5 歯科診療に影響する疾患	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	1) 妊婦の口腔保健状態を良好に維持するための留意点とその医学的背景について説明できる。 2) 糖尿病患者の歯科治療上の注意点を述べられる。 3) 歯科治療と関連が深い細菌感染症の病態を説明できる。 4) 歯科診療時に注意を要する内分泌疾患有について説明できる。	妊娠徵候、つわり、全身の変化(循環器・呼吸器・泌尿器・内分泌)、妊娠中毒症 糖尿病、低血糖症、糖尿病の慢性合併症(網膜症、腎症、神経障害)、易感染性、創傷治癒遅延 レンサ球菌感染症、感染性心内膜炎、敗血症、弁膜症、一過性菌血症 副腎不全、副腎クリーゼ、甲状腺機能亢進症(バセドー病)、クリーゼ、血管収縮剤
8	5/18 2限	岩手医科大学 歯科内科学 (中居 賢司)			1) 虚血性心疾患、不整脈疾患、チアノーゼ性心疾患、弁膜症、感染性心内膜炎、心不全などの病態と歯科治療上の注意点を説明できる。 2) 虚血性心疾患、不整脈疾患など歯科診療で重要な疾患の心電図の判読と緊急対応について説明できる。	安定狭心症(労作性、冠攣縮性)、急性冠症候群(急性心筋梗塞、不安定狭心症)、心電図(心筋虚血、心筋梗塞、ST上昇、ST低下、期外収縮、心房細動、房室ブロック、心室頻拍、心室細動、心静止、など)、心臓ペースメーカー、植込み型除細動器(ICD)、電磁干渉、チアノーゼ性心疾患、心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心不全(左心不全、右心不全)

回	日程	授業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	口腔医学キーワード
9	5/25 1限	福岡歯科大学 内科学 (大星 博明) (徳本 正憲) 高齢者歯科学 (内藤 徹)	ユニット6 高齢者	加齢・老化に伴い増加する疾患を学び、高齢者の歯科治療上の注意点を理解する。	1) 高齢者に多く見られる全身疾患を列挙できる。 2) 高齢者によく見られる病態を学び、その治療と予防を説明できる。 3) 加齢・老化に伴う臓器の変化と治療上の留意点を説明できる。 4) 高齢者の嚥下障害の特徴と対応を説明できる。 5) 認知症の症候、診断と治療を説明できる。	高血圧、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、脳血管障害、認知症、骨粗鬆症、肺炎、脱水 誤嚥、転倒、失禁、褥瘡、ADL（日常生活動作能力）低下、腎機能障害、肝機能障害、視力・聴力障害、動脈硬化、呼吸機能低下、運動機能低下、高齢者の薬物療法、脳卒中、球麻痺、仮性球麻痺、認知症、誤嚥性肺炎 アルツハイマー病、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、加齢、認知能
10	5/25 2限	九州歯科大学 外科学 (中島 秀彰) 九州歯科大学 口腔内科学 (吉岡 泉)	ユニット5 歯科診療に影響する疾患	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	1) 担がん患者の歯科治療上の注意点を説明できる。 2) 免疫不全状態の患者とその歯科治療上の注意点を説明できる。 3) 周術期の口腔管理を説明できる。	抗がん剤、免疫不全、予後・余命、緩和医療、臓器・骨髄移植、免疫抑制剤、癌終末期、膠原病およびリウマチ性疾患、ステロイドホルモン、GVHD
11	6/1 1限	神奈川歯科大学 精神科学 (宮岡 等)	ユニット7 精神医療と歯科心身症	歯科診療に必要な精神疾患や心身両面への配慮が必要な疾患を理解する。	1) 精神医学・心身医学の考え方の概略を理解する。 2) 主な精神疾患を6つあげ、診断法と治療法を述べられる。 3) 歯科領域における精神面への対応の仕方や心身両面への配慮が必要な疾患を理解する。	心身相関、統合失調症、気分障害（躁うつ病を含む）、不安障害、薬物依存、てんかん、認知症、せん妄、慢性疼痛、自殺、退薬微候、見当識、抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、抗てんかん薬
12	6/1 2限	神奈川歯科大学 精神科学 (宮岡 等)				
13	6/8 1限	福岡歯科大学 心療内科学 (金光 芳郎) 麻酔管理学 (谷口 省吾)			1) 歯科治療で見られる不安による疾患について説明できる。 2) 慢性疼痛に対する治療法について説明できる。 3) 歯科領域における精神面への対応の仕方や心身両面への配慮が必要な疾患を理解する。	歯科治療恐怖症、血管迷走神経失神、過換気症候群、不安障害、パニック障害、系統的脱感作法、自律訓練法、慢性疼痛、心身医学的治療、疼痛性障害、心因性疼痛、抗不安薬、抗うつ薬、神経ブロック、理学療法
14	6/8 2限	福岡歯科大学 小児科学 (岡田 賢司) 小児歯科学 (岡 晃子)	ユニット8 小児	小児疾患を学び、小児の歯科治療上の注意点を理解する。	1) 先天性心疾患と歯科治療との関係を説明できる。 2) 血液・造血器疾患と歯科治療との関係を説明できる。 3) 悪性新生物と歯科治療との関係を説明できる。 4) アレルギー疾患および免疫疾患について説明できる。	Fallot 四徴症、単心室 血友病、血小板減少性紫斑病、白血病 小児癌 喘息、アトピー性皮膚炎、食物・薬物アレルギー

回	日程	授業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	口腔医学キーワード
15	6/15 1限	福岡歯科大学 外科学 (篠原 徹雄) 耳鼻咽喉科学 (山野 貴史)	ユニット9 栄養管理	栄養管理の基礎を理解する。	1) 経口摂取困難患者への対応を説明できる。 2) 栄養状態を簡潔に評価できる。 3) 経静脈栄養と経腸栄養の長所・短所を説明できる。	VF、VE、嚥下機能訓練 体重変化、皮下脂肪、BMI 中心静脈栄養、高カロリー輸液、胃瘻、空腸瘻、経鼻経管栄養、PEG
16	6/15 2限	福岡歯科大学 分子機能制御学 (山崎 純) 内科学 (大星 博明)	ユニット10 薬理学・薬剤学	歯科診療時に処方する、あるいは他施設において処方されている代表的な薬剤の適応、効能、副作用を学び、特に歯科治療に関連する注意点と対処方法を理解する。	1) 出血傾向をきたす薬剤を列挙し、その効果、必要性、半減期、対処法を述べる。 2) 降圧薬、抗不整脈薬、強心薬の副作用を説明できる。 3) 糖尿病治療薬の副作用を説明できる。 4) 高齢患者の薬物治療における注意点を説明する。	ワルファリン、アスピリン、クロピドグレル、シロスタゾール、抗凝固療法、抗血小板療法 強心剤 経口糖尿病薬、インスリン、低血糖 薬剤投与量、腎機能、クレアチニンクリアランス、抗生物質、抗菌薬、抗真菌薬
17	6/22 1限	福岡歯科大学 分子機能制御学 (山崎 純) 外科学 (篠原 徹雄)			1) 細菌・真菌・ウイルス感染症治療に使用される代表的な薬剤の適応、効能、副作用を説明する。 2) 非ステロイド性消炎鎮痛剤 (NSAID) の適応、効能、副作用を説明する。	抗ウイルス薬、感受性試験、薬剤耐性、菌交代現象、MRSA (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)、腎障害 シクロオキシゲナーゼ阻害剤、消化管出血、アスピリン喘息、ライ症候群
18	6/29 1限	福岡歯科大学 分子機能制御学 (山崎 純) 口腔外科学 (池邊 哲郎)			1) 歯肉増殖症をきたす薬剤と、その適応となる疾患を列挙できる。 2) 頸骨壊死・骨髓炎、治癒不全をきたす薬剤と、その適応となる疾患を列挙できる。 3) 歯の着色をきたす薬剤と、その適応となる疾患を列挙できる。 4) 口腔ジスキネジアを誘発する薬剤と、その適応となる疾患を列挙できる。 5) 口腔乾燥を誘発する薬剤と、その適応となる疾患を列挙できる。	フェニトイン、シクロスボリンA、カルシウム拮抗薬 ビスフォスフォネート、ステロイド テトラサイクリン 向精神薬、抗パーキンソン薬、抗てんかん薬 向精神薬、抗うつ薬、抗ヒスタミン薬、抗コリン薬、精神安定剤、降圧剤

資料 I -2-②

平成27年度前期 医歯学連携演習

H27日程	回	学習目標 G I O	講義内容	担当	福歯大		神歯大		北医療大		鶴見大		岩手医大		九歯大		昭和大		福大医	
					80分		90分		80分		80分		90分		90分		60分		90分	
					授業担当	参加の有無	授業担当	参加の有無	授業担当	参加の有無	授業担当	参加の有無	授業担当	参加の有無	授業担当	参加の有無	授業担当	参加の有無	授業担当	参加の有無
4/6(月) 1限	1	歯科診療時に全身状態を把握する習慣を身につける。	1) 医歯学連携演習の目的 2) バイタルサイン 3) 貧血および黄疸 4) 検査データの評価（末梢血／血液生化学）	福岡歯科大学 大星博明 廣藤卓雄	担当	有		担当	有		有（録画）		担当	有						
4/13(月) 1限	2		1) 検査データの評価（末梢血／血液生化学／尿） 2) 出血凝固系データの評価 3) 呼吸器系検査データの理解	神奈川歯科大学 本間義郎 有坂博史		有	担当	有		有（録画）			有							
4/20(月) 1限	3	歯科診療上重要な初期対処方法と救命・救急の基本を理解する。	1) 呼吸困難を訴える患者の鑑別と対応 2) 胸痛を訴える患者の鑑別と対応 3) 意識消失した患者への対応	北海道医療大学 三浦美英 高橋伸彦 柴田考典		有		有	担当	有			有							
4/27(月) 1限	4	歯科診療上重要な頭頸部領域の主な疾患の病因・病態と診断・治療を学び、歯科疾患との関わりを理解する。	1) 睡眠時無呼吸症候群の病態 2) 終夜睡眠ポリグラフ検査結果の評価 3) 睡眠時無呼吸症候群に対する各種治療法、口腔内装置の奏効機序と適応基準 4) 睡眠時無呼吸症候群に対する外科的治療法	鶴見大学 子島潤 小川匠 濱田良樹		有		有		有（録画）		担当	有		有（録画）					
5/11(月) 1限	5		1) 中耳疾患と頸関節疾患を鑑別 2) 鼻・副鼻腔疾患と口腔疾患との関連性 3) 咽頭疾患の病因・病態と診断・治療 4) 歯科診療時に診断できる頸部腫瘍	福岡歯科大学 山野貴史 池邊哲郎	担当	有		有		有（録画）			有							
5/11(月) 2限	6	口腔から発見できる全身疾患を症候別に理解する。	1) 口腔出血との原因疾患 2) 口腔粘膜病変とその原因疾患 3) 口腔と眼に発症する全身疾患	福岡歯科大学 池邊哲郎 大星博明 川野庸一	担当	有		有		有（録画）			有							
5/18(月) 1限	7	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	1) 妊婦の口腔保健状態を良好に維持するための留意点とその医学的背景 2) 糖尿病患者の歯科治療上の注意点 3) 出血傾向のある患者の歯科治療上の注意点 4) ステロイド・甲状腺ホルモン治療中の患者の歯科治療上の注意点	福岡大学 宮本新吾 福岡歯科大学 坂上竜資 城戸寛史 大星博明				有		有（録画）			有						担当	
5/18(月) 2限	8		1) 高血圧患者の歯科治療上の注意点 2) 虚血性心疾患の既往のある患者の歯科治療上の注意点 3) 不整脈患者の歯科治療上の注意点 4) 弁膜症・心内膜炎患者の歯科治療上の注意点	岩手医科大学 中居賢司		有		有		有（録画）			有	担当						
5/25(月) 1限	9	加齢・老化に伴い増加する疾患を学び、高齢者の歯科治療上の注意点を理解する。	1) 腎疾患を有する患者の歯科治療 2) 慢性期の脳卒中患者の歯科治療 3) 認知症患者の歯科治療上の注意点	福岡歯科大学 大星博明 徳本正憲 内藤徹	担当	有		有		有（録画）			有							
5/25(月) 2限	10	歯科診療中に遭遇しやすい疾患の概要を再学習し、その疾患と関連する歯科治療上の注意点を理解する。	1) 担がん患者の歯科治療上の注意点 2) 免疫不全患者の歯科治療上の注意点 3) 口腔ケア、周術期の口腔管理	九州歯科大学 中島秀彰 吉岡泉		有		有		有（録画）			有		有（録画）	担当				
6/1(月) 1限	11		1) 精神疾患の診断 2) 精神疾患の病態と薬物療法 3) 精神疾患の病理療法	神奈川歯科大学 宮岡等		有	担当	有						有						
6/1(月) 2限	12	歯科診療に必要な精神疾患や心身両面の配慮が必要な疾患を理解する。	1) 心身症 2) 口腔心身症1（舌痛症候） 3) 口腔心身症2（自臭症候）	神奈川歯科大学 宮岡等		有	担当	有						有						
6/8(月) 1限	13		1) 歯科診療で見られる不安による疾患 2) 慢性疼痛のペインコントロール（心療内科から） 3) 慢性疼痛のペインコントロール（ペインクリニックから）	福岡歯科大学 金光芳郎 谷口省吾	担当	有		有						有						
6/8(月) 2限	14	小児の疾患を学び、小児の歯科治療上の注意点を理解する。	1) 先天性心疾患と歯科治療 2) 小児癌の治療と口腔領域との関連 3) 歯科診療時に注意を要するアレルギー性疾患	福岡歯科大学 岡田賢司 岡 晓子	担当	有		有		有（録画）			有							
6/15(月) 1限	15	栄養管理の基礎を理解する。	1) 経口摂取困難患者への対応 2) 経口摂取不能患者への対応	福岡歯科大学 山野貴史 篠原徹雄	担当	有		有		有（録画）			有							
6/15(月) 2限	16		1) 抗血栓薬の注意点 2) 降圧薬の注意点 3) 糖尿病治療薬の注意点 4) 高齢者での薬物治療	福岡歯科大学 山崎純 大星博明	担当	有		有		有（録画）			有							
6/22(月) 1限	17	歯科診療時に処方する、あるいは他施設において処方される代表的な薬剤の適応・効能、副作用を学び、特効作用を理解する。	1) 抗菌薬の使い方と注意点 2) NSAIDの適応・効能・副作用	福岡歯科大学 山崎純 篠原徹雄	担当	有		有		有（録画）			有							
6/29(月) 1限	18	歯科診療に関連する注意点と対処方法を理解する。	1) 薬剤と歯肉病変 2) 薬剤と頸骨病変 3) 薬剤と歯の着色 4) 口腔ジスキネジアとその原因薬剤 5) ドライマウスとその原因薬剤	福岡歯科大学 山崎純 池邊哲郎	担当	有		有		有（録画）			有							

資料 I -3-①

医歯学連携演習 TV授業アンケート

1. 受講前に授業資料に目を通しましたか。

- a.よく読んで関連することを調べた。
- b.よく読んだ。
- c.ざっと目を通した。
- d.ほとんど見なかった。

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

- a.高度過ぎた。
- b.適切だった。
- c.もの足りなかつた。

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

- a.とてもわかりやすかつた。
- b.わかりやすかつた。
- c.わかりにくかつた。
- d.まったくわからなかつた。

5. 授業の内容に触発されましたか。

- a.かなり触発された。
- b.ある程度触発された。
- c.それほど触発されなかつた。
- d.まったく触発されなかつた。

3. プリントはわかりやすかったです。

- a.とてもわかりやすかつた。
- b.わかりやすかつた。
- c.内容が見にくかつた。
- d.内容が不足していた。

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

- a.速かつた。
- b.ちょうどよかつた。
- c.遅かつた。

7. 要望や意見を自由に記入してください。

資料 -3-

4月6日 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
よく読んで関連することを調べた	1	1	5	4
よく読んだ	4	6	11	8
ざっと目を通した	33	22	42	53
ほとんど見なかつた	25	11	26	20
無回答	1	0	4	0
計	64	40	88	85

2. 授業の内容はわかりやすかったですか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	17	4	23	12
わかりやすかった	46	23	59	68
わかりにくかった	0	11	5	5
まったくわからなかつた	0	2	0	0
無回答	1	0	1	0
計	64	40	88	85

3. プリントはわかりやすかったです。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	17	5	20	16
わかりやすかった	46	25	63	64
内容が見にくかった	0	7	4	3
内容が不足していた	0	3	0	2
無回答	1	0	1	0
計	64	40	88	85

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
高度過ぎた	2	3	6	5
適切だった	61	27	76	77
もの足りなかつた	0	7	6	3
無回答	1	0	0	0
計	64	37	88	85

5. 授業の内容に触発されましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
かなり触発された	12	3	12	6
ある程度触発された	49	21	62	61
それほど触発されなかつた	2	12	13	15
まったく触発されなかつた	0	3	1	3
無回答	1	0	0	0
計	64	39	88	85

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
速かった	7	6	9	19
ちょうどよかつた	54	29	75	65
遅かった	1	5	4	1
無回答	2	0	0	0
計	64	40	88	85

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・1回1回あてていると時間がなくなるため、どんどん進めてほしい。
- ・目の前に先生がいるときは、授業の内容が頭に入ってきやすいと思うが、TV状態だと全然違うんじゃないかなと不安に思う
- ・楽しかったです
- ・大星先生分かりやすかったです

○鶴見大学

- ・とてもためになりました。
- ・ところどころ授業のスピードが速かったので、大切なところは少しゆっくり進めてほしいです。
- ・通常の講義とはちがい、自分の目の前に先生がいないので、ほとんど音(声)だけをたよりに聴講しなければならず、集中しにくいです。
- ・とてもよく分かりやすかったです。
- ・ライブ感がよい。
- ・図が多いと助かります。
- ・他大学の先生の授業を受講する機会は滅多にないのですごく勉強になりました。
- ・画像がみにくい
- ・ポインターの動きにタイムラグがあってどこを差しているのか分かりづらかったです。
- ・前の方の座席に座ってる学生ばかりに解答を求めるのはフェアじゃない。

○神奈川歯科大学

- ・TVの映像が少しほやけていた。
- ・復習できてとても良かったです。
- ・もう少しゆっくりやってほしい。
- ・プリントのスライドの位置が見づらい。
- ・総合医学の先生の内容をもっと基礎的なところからやってほしかった。
- ・配布プリント以外のスライドがしばしば見られたので足して欲しいです。

4月13日 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
よく読んで関連することを調べた	1	7	4	2
よく読んだ	5	7	12	25
ざっと目を通した	29	15	23	47
ほとんど見なかつた	23	8	34	12
無回答	0	1	4	0
計	58	38	77	86

2. 授業の内容はわかりやすかったですか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	5	5	6	9
わかりやすかった	44	9	56	58
わかりにくかった	8	10	13	18
まったくわからなかつた	1	13	1	1
無回答	0	1	1	0
計	58	38	77	86

3. プリントはわかりやすかったですか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	7	6	7	8
わかりやすかった	40	18	57	59
内容が見にくかった	11	10	12	18
内容が不足していた	0	3	0	1
無回答	0	1	1	0
計	58	38	77	86

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
高度過ぎた	2	7	4	9
適切だった	55	20	64	72
もの足りなかつた	1	9	8	5
無回答	0	2	1	0
計	58	38	77	86

5. 授業の内容に触発されましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
かなり触発された	6	4	5	5
ある程度触発された	42	12	56	59
それほど触発されなかつた	8	12	15	21
まったく触発されなかつた	1	8	0	1
無回答	1	2	1	0
計	58	38	77	86

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
速かった	17	4	17	37
ちょうどよかったです	38	21	54	42
遅かったです	3	10	5	7
無回答	0	3	1	0
計	58	38	77	86

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・国試の問題の答え合わせが時間の都合上出来ない場合があるので、答えをプリントにしておいてもらいたいです。

○鶴見大学

- ・福岡歯科さんも学生さんを映しましょうよ。Fairじゃない。プライバシーが叫ばれる時代に神歯と鶴見だけしか顔をさらしていない。
- ・当てられても答えられないで、レジュメを事前に渡してもらえたうれしい。
- ・もっとはっきり話してほしい。
- ・時々スライドの画像が乱れて見にくい。

○神奈川歯科大学

- ・時間の都合上、授業スピードが速くなってしまうのは仕方ないが、説明とスライドを送るスピードが速く、「ここが大事」と先生が言ったところを見逃すことが多かった(メモの途中などで)。なので、大事なところは先に赤字などにしていただけると助かります。
- ・プリント中にのっている問題は全て答えを出してほしいです。
- ・時間が足りないのは仕方ないと思います。
- ・もう少しゆっくり授業を受けたかった。
- ・授業スピードが早く感じた。もう少しゆっくりやってほしい。
- ・麻酔のヘンダーソン・ハッヒルパルヒの式の説明をもう一度してほしい。
- ・速い。最初から70分用に授業プリントを設定してほしい。
- ・ありがとうございました。

4月20日 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
よく読んで関連することを調べた	2	7	1	3
よく読んだ	13	17	13	22
ざっと目を通した	26	15	24	48
ほとんど見なかつた	15	2	15	11
無回答	1	0	2	0
計	57	41	55	84

2. 授業の内容はわかりやすかったですか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	7	9	3	6
わかりやすかった	44	23	41	71
わかりにくかった	5	8	8	6
まったくわからなかつた	0	0	1	1
無回答	1	1	2	0
計	57	41	55	84

3. プリントはわかりやすかったですか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	8	8	3	9
わかりやすかった	40	28	41	65
内容が見にくかった	6	5	8	8
内容が不足していた	0	0	1	2
無回答	3	0	2	0
計	57	41	55	84

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
高度過ぎた	7	8	4	8
適切だった	49	27	44	72
もの足りなかつた	0	6	5	3
無回答	1	0	2	1
計	57	41	55	84

5. 授業の内容に触発されましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
かなり触発された	7	7	5	4
ある程度触発された	40	26	32	63
それほど触発されなかつた	9	8	13	14
まったく触発されなかつた	0	0	3	3
無回答	1	0	2	0
計	57	41	55	84

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
速かった	8	10	9	15
ちょうどよかったです	48	24	38	68
遅かったです	0	5	7	0
無回答	1	2	1	1
計	57	41	55	84

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・相手の先生方をもっと大きく写して欲しい。音声だけだと、授業のたれ流しになつて
るようと思える。リアリティが足りない。

○鶴見大学

- ・画面が見にくいです。

○神奈川歯科大学

- ・声が少し小さくて聞き取りづらかった。
- ・声が小さかった。
- ・ありがとうございました。

4月27日 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
よく読んで関連することを調べた	2	6	5	4
よく読んだ	4	6	11	20
ざっと目を通した	32	17	21	49
ほとんど見なかつた	17	13	8	10
無回答	2	0	1	0
計	57	42	46	83

2. 授業の内容はわかりやすかったですか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	6	7	8	7
わかりやすかった	39	18	33	66
わかりにくかった	9	14	4	10
まったくわからなかつた	1	3	0	0
無回答	2	0	1	0
計	57	42	46	83

3. プリントはわかりやすかったですか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	6	8	10	7
わかりやすかった	42	19	25	60
内容が見にくかった	7	13	10	15
内容が不足していた	0	2	0	1
無回答	2	0	1	0
計	57	42	46	83

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
高度過ぎた	6	5	5	8
適切だった	48	26	38	70
もの足りなかつた	1	11	2	5
無回答	2	0	1	0
計	57	42	46	83

5. 授業の内容に触発されましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
かなり触発された	5	5	9	8
ある程度触発された	43	20	31	61
それほど触発されなかつた	5	15	5	14
まったく触発されなかつた	2	2	0	0
無回答	2	0	1	0
計	57	42	46	83

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
速かった	8	8	8	8
ちょうどよかったです	36	23	33	61
遅かったです	11	11	3	14
無回答	2	0	2	0
計	57	42	46	83

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・スライドの背景が黒だと書き込みにくいので、白など書き込みやすい色にしてほしい。
- ・スライドの背景に色を付けると書き込みがしにくいため、色を付けないで欲しい
- ・授業時間が長すぎた。
- ・毎回、量が多すぎると思います。
- ・レベル、内容、スピードはいいと思うが量多すぎ。
- ・スライドの背景を「白」にして下さい。書き込みにくい。授業内容 자체はすごくわかりやすく良かったです。時間内に終わるように調整してほしい。
- ・時間配分をちゃんとしてほしい
- ・内科的な話が長すぎて、クラブリの範囲が速すぎた ちゃんと連携して講義を！
授業終了時間くらい伝えとけば？10分前に終わって質問タイムやないん？
- ・内容が多かった

○鶴見大学

- ・とても参考になりました。
- ・背景が黒いのは見づらいし書き込めない。

○神奈川歯科大学

- ・紺地のスライドはラインを引いたり書き込んだりしづらいです。。。
- ・カラーは見やすいが、書き込みにくいので改善してほしい。
- ・背景が黒いスライドは書き込みが写らないので使いにくいです。
白にして下さい。あと写真はありがたいけど、説明が早すぎて
書けない。結局あとから見返して分からないので説明文ものせ
て頂けるとありがとうございます。あとで読めるので。。。
- ・ありがとうございました。

5月11日 1限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	5	5	5	2
よく読んだ	8	6	18	23
ざっと目を通した	23	24	13	42
ほとんど見なかつた	14	7	5	17
無回答	0	0	0	0
計	50	42	41	84

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	9	5	4	4
わかりやすかった	41	20	30	66
わかりにくかった	0	16	6	14
まったくわからなかつた	0	1	1	0
無回答	0	0	0	0
計	50	42	41	84

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	10	5	5	8
わかりやすかった	37	22	31	60
内容が見にくかった	3	12	5	15
内容が不足していた	0	3	0	1
無回答	0	0	0	0
計	50	42	41	84

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	4	5	5	7
適切だった	46	30	31	67
もの足りなかつた	0	7	5	10
無回答	0	0	0	0
計	50	42	41	84

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	5	6	5	5
ある程度触発された	40	22	28	60
それほど触発されなかつた	4	13	7	16
まったく触発されなかつた	0	1	0	3
無回答	1	0	1	0
計	50	42	41	84

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	6	5	3	6
ちょうどよかつた	44	29	34	68
遅かった	0	8	4	10
無回答	0	0	0	0
計	50	42	41	84

自由記載意見

○鶴見大学

- ・書き足す所がもう少しあっても良いのかも。
- ・音声がクリアでない。
- ・講義が始まても、鶴見はとても騒がしい。遅刻や入退出も多い。
ビデオでは、騒ぐ人も遅刻や入退出も見受けられなかった。
- ・私語が多くてよく分からなかった。
- ・カメラを通してスライドをみるので見づらかったです。

○福岡歯科大学

- ・内容量が多い気がする。
- ・暑い！！節電がどうのこうの言わず、エアコンをつけてほしい。80分間閉ざされて暑いのをちゃんと理解してほしい。

5月11日 2限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
よく読んで関連することを調べた	5	0	1	
よく読んだ	8	14	22	
ざっと目を通した	26	29	52	
ほとんど見なかつた	12	4	9	
無回答	0	1	0	
計	51	0	48	84

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	8	1	3	
わかりやすかった	39	23	69	
わかりにくかった	4	23	12	
まったくわからなかつた	0	0	0	
無回答	0	1	0	
計	51	0	48	84

3. プリントはわかりやすかったです。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	8	2	5	
わかりやすかった	37	21	63	
内容が見にくかった	6	23	13	
内容が不足していた	0	0	3	
無回答	0	2	0	
計	51	0	48	84

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
高度過ぎた	6	1	2	
適切だった	45	24	70	
もの足りなかつた	0	22	11	
無回答	0	1	1	
計	51	0	48	84

5. 授業の内容に触発されましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
かなり触発された	6	1	2	
ある程度触発された	40	23	65	
それほど触発されなかつた	5	21	16	
まったく触発されなかつた	0	1	1	
無回答	0	2	0	
計	51	0	48	84

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
速かった	5	0	5	
ちょうどよかつた	46	26	67	
遅かった	0	19	12	
無回答	0	3	0	
計	51	0	48	84

自由記載意見

○神奈川歯科大学

- ・ありがとうございました。
- ・わかりやすかったです。

○鶴見大学

- ・教学課の方々ありがとうございました。
- ・音声不明瞭です。

○福岡歯科大学

- ・時間がおすことが多い。
- ・暑いのでエアコンつけるようにしてほしい。

5月18日 1限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	4	2	3	1
よく読んだ	12	22	11	21
ざっと目を通した	28	11	18	43
ほとんど見なかつた	15	5	7	17
無回答	0	0	0	0
計	59	40	39	82

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	14	3	3	4
わかりやすかった	41	30	34	62
わかりにくかった	4	6	2	15
まったくわからなかつた	0	1	0	1
無回答	0	0	0	0
計	59	40	39	82

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	17	5	3	4
わかりやすかった	41	27	31	58
内容が見にくかった	1	8	5	15
内容が不足していた	0	0	0	5
無回答	0	0	0	0
計	59	40	39	82

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	5	5	3	2
適切だった	53	32	34	68
もの足りなかつた	1	3	2	12
無回答	0	0	0	0
計	59	40	39	82

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	13	2	4	5
ある程度触発された	40	29	29	58
それほど触発されなかつた	5	9	5	16
まったく触発されなかつた	1	0	1	3
無回答	0	0	0	0
計	59	40	39	82

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	11	6	6	10
ちょうどよかつた	45	31	31	65
遅かった	3	3	2	7
無回答	0	0	0	0
計	59	40	39	82

自由記載意見

○鶴見大学

- ・画面の切り替えが遅い。

○福岡歯科大学

- ・めちゃめちゃ眠たいですよ。

5月18日 2限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	4	4	2	0
よく読んだ	13	15	12	22
ざっと目を通した	28	15	20	50
ほとんど見なかつた	10	3	12	10
無回答	0	0	3	0
計	55	37	49	82

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	8	5	3	2
わかりやすかった	41	23	29	66
わかりにくかった	5	9	8	13
まったくわからなかつた	1	0	4	1
無回答	0	0	5	0
計	55	37	49	82

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	9	5	3	4
わかりやすかった	39	25	30	62
内容が見にくかった	7	6	9	13
内容が不足していた	0	1	2	3
無回答	0	0	5	0
計	55	37	49	82

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	4	4	4	7
適切だった	51	28	33	68
もの足りなかつた	0	5	6	6
無回答	0	0	6	1
計	55	37	49	82

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	6	3	3	4
ある程度触発された	42	24	31	63
それほど触発されなかつた	7	10	8	12
まったく触発されなかつた	0	0	4	3
無回答	0	0	3	0
計	55	37	49	82

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	8	4	4	9
ちょうどよかつた	46	30	35	67
遅かった	1	3	6	5
無回答	0	0	4	1
計	55	37	49	82

自由記載意見

○神奈川歯科大学

- ・スライドが赤字になっているところをチェックする前にスライドが飛ばされていくことが何度かあった。もう少しだけ待ってほしいです。
- ・授業スピードが速い。
- ・プリントを前に配っておいてほしい。
- ・ありがとうございました。

○鶴見大学

- ・もう少しプリントに書き込む要素があつても良いのかもしれません。
スライドや授業の内容がプリントにほとんど載っていると人によってはモチベーションが下がるのかも。

○福岡歯科大学

- ・なまつてましたね。

5月25日 1限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	3	6	1	1
よく読んだ	14	16	14	23
ざっと目を通した	16	13	20	47
ほとんど見なかつた	13	6	4	12
無回答	0	0	1	0
計	46	41	40	83

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	8	6	4	5
わかりやすかった	38	26	26	68
わかりにくかった	0	7	8	10
まったくわからなかつた	0	2	1	0
無回答	0	0	1	0
計	46	41	40	83

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	9	8	3	5
わかりやすかった	36	25	29	64
内容が見にくかった	1	8	7	12
内容が不足していた	0	0	0	2
無回答	0	0	1	0
計	46	41	40	83

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	5	4	2	7
適切だった	41	27	32	70
もの足りなかつた	0	10	5	6
無回答	0	0	1	0
計	46	41	40	83

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	8	4	4	2
ある程度触発された	34	26	25	65
それほど触発されなかつた	4	10	10	15
まったく触発されなかつた	0	1	0	1
無回答	0	0	1	0
計	46	41	40	83

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	6	5	2	7
ちょうどよかつた	39	28	31	70
遅かった	1	8	6	6
無回答	0	0	1	0
計	46	41	40	83

自由記載意見

○鶴見大学

- ・もう少し自分で書き足せるようにできた良いかも。

○福岡歯科大学

- ・今日の授業はすごく聞きやすかった。人工透析のことって意外と知らなかつたので、ためになりました。
- ・この授業に限った話ではないが、現状合同でやる意味を特に感じない。ほとんど本学の先生が講義しているし、内容も以前の復習のようなものが多いので、だったらもっと別のことについて使いたい。
- ・文字が小さい レジメが多い。
- ・テーマが書かれたスライドが抜けていた様に思いました。発熱をくり返すのは誤嚥性肺炎の可能性がありますか？のプリントの1枚前の脳卒中の為に…から始まるプリントです。表示も短時間だったので書きとれませんでした。
患者さんの個人情報で配布できない資料以外は全て配布してもらえるとありがたいです。

5月25日 2限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	3	6	3	2
よく読んだ	15	17	11	19
ざっと目を通した	26	13	18	52
ほとんど見なかつた	12	2	5	10
無回答	0	0	0	0
計	56	38	37	83

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	7	4	5	4
わかりやすかった	40	30	23	69
わかりにくかった	8	4	8	10
まったくわからなかつた	0	0	1	0
無回答	1	0	0	0
計	56	38	37	83

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	6	4	4	5
わかりやすかった	44	24	23	61
内容が見にくかった	2	10	6	12
内容が不足していた	4	0	4	5
無回答	0	0	0	0
計	56	38	37	83

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	4	3	3	6
適切だった	51	30	30	72
もの足りなかつた	1	5	4	5
無回答	0	0	0	0
計	56	38	37	83

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	8	4	5	1
ある程度触発された	39	28	26	69
それほど触発されなかつた	8	6	6	12
まったく触発されなかつた	1	0	0	1
無回答	0	0	0	0
計	56	38	37	83

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	5	5	3	3
ちょうどよかつた	50	28	30	75
遅かった	1	5	3	5
無回答	0	0	1	0
計	56	38	37	83

自由記載意見

○神奈川歯科大学

- ・ありがとうございました。

○鶴見大学

- ・もう少し書き足す要素があっても良いかも。
- ・スライドは全て配布プリントに載せてほしいと思いました。
- ・明るすぎる。

○福岡歯科大学

- ・ゆっくりで分かりやすかったです。
- ・速いです。サッカーの話を入れてスピードアップするならば、サッカーの話を少なくして、スピードを下げてほしかったです。
- ・どこの説明をしているのか分かりにくかったです。
- ・中島先生のプリントは、少し見づらかったです。スライドとどこが対応していてどこが載っていないのかが分かりづらかったです。

6月1日 1限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	3	2	3
よく読んだ	8	8	24
ざっと目を通した	20	14	44
ほとんど見なかつた	13	6	11
無回答	0	1	0
計	44	31	82

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	5	5	3
わかりやすかった	21	16	67
わかりにくかった	12	7	11
まったくわからなかつた	6	2	1
無回答	0	1	0
計	44	31	82

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	4	5	4
わかりやすかった	27	16	60
内容が見にくかった	9	5	15
内容が不足していた	3	4	3
無回答	1	1	0
計	44	31	82

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	4	2	5
適切だった	33	21	68
もの足りなかつた	6	7	9
無回答	1	1	0
計	44	31	82

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	5	5	5
ある程度触発された	26	18	61
それほど触発されなかつた	6	5	13
まったく触発されなかつた	7	2	3
無回答	0	1	0
計	44	31	82

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

速かった	3	3	3
ちょうどよかったです	36	22	68
遅かった	2	6	11
無回答	3	0	0
計	44	31	82

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・音量がうるさくなったり小さくなったり騒音が入ったりして聞きにくい
- ・ビデオが音めっちゃでかいですね、ちょっと耳が痛いです
- ・意味が分からぬ。聞こえない。やはり大学ごとの講義がいいのでは？
授業料がもったいない。うるさいときもあるし、全く聞こえない時もあるし、苦痛でした。
- ・音声の調子が悪かった。聞きとりにくかったです。今回の授業は他大学の授業に参加しているというよりは外から客観的に見ているだけの様な感じがしました。
- ・連携して授業をする必要性がないことを改めて感じた。音声が聞こえなさすぎた。
来年からは絶対やらないほうがいい。
- ・授業が聞こえなかつた
- ・音声が聞き取りにくかったです。

○鶴見大学

- ・今回、通信の状態が悪く、ろくに聞こえません。
- ・特に大事なところがよく聞こえません。
- ・音声が悪くあまり聞こえなかつたので残念です。
- ・音声が途切れ、全く聞こえなくなり、時々非常に小さい音声になる。内容が全く分からない。
とても困る。
- ・音声の通信状態が悪く、聞き取れない場面が多かったです。
- ・本日は少し難しかつたです。

6月1日 2限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	2	2	6
よく読んだ	10	7	20
ざっと目を通した	24	12	45
ほとんど見なかつた	12	4	11
無回答	1	1	0
計	49	26	82

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	4	2	4
わかりやすかった	31	15	65
わかりにくかった	8	7	11
まったくわからなかつた	5	1	2
無回答	1	1	0
計	49	26	82

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	4	2	5
わかりやすかった	32	15	59
内容が見にくかった	7	5	15
内容が不足していた	5	1	3
無回答	1	3	0
計	49	26	82

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	3	2	6
適切だった	39	18	69
もの足りなかつた	6	4	7
無回答	1	2	0
計	49	26	82

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	4	5	3
ある程度触発された	33	13	62
それほど触発されなかつた	4	5	15
まったく触発されなかつた	7	1	2
無回答	1	2	0
計	49	26	82

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

速かった	6	1	1
ちょうどよかったです	37	19	72
遅かった	5	4	9
無回答	1	2	0
計	49	26	82

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・音量の調節って大変ですね
- ・動画を再生しながら話さないでほしい。何を言っているか分からぬ。
- 音量のボリュームに差がありすぎて不快な感じがした
- ・音声がマイクとPCラインでバランスとれてなく、ききずらかった
- ・映像がボリューム大きすぎた
- ・動画がうるさいし、小さくしたら先生の声が聞こえないし、前から思ってるけど
　　TV授業は本当に効率が悪い。

○神奈川歯科大学

- ・ちゃんと大事などこのプリント下さい。
- ・ありがとうございました。

○鶴見大学

- ・雑音が入って聞きにくかった。
- ・当ててばかりでよくわかりにくかった。
- ・私語が多すぎます。
- ・声はききとりやすかったのはよかったです、わかりにくかったです。私語が多くてききにくかったです。
- ・穴埋めや他に重要なことをプリントアウト以外で書き足したりする方が生徒も知識になりやすい
　　かもしれません。

6月8日 1限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	1	2	2
よく読んだ	7	13	25
ざっと目を通した	19	12	43
ほとんど見なかつた	9	4	12
無回答	1	0	0
計	37	31	82

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	7	2	4
わかりやすかった	27	25	72
わかりにくかった	2	4	5
まったくわからなかつた	0	0	1
無回答	1	0	0
計	37	31	82

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	7	3	5
わかりやすかった	29	25	70
内容が見にくかった	0	3	6
内容が不足していた	0	0	1
無回答	1	0	0
計	37	31	82

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	3	1	3
適切だった	32	26	73
もの足りなかつた	1	4	6
無回答	1	0	0
計	37	31	82

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	4	2	3
ある程度触発された	30	23	70
それほど触発されなかつた	1	6	8
まったく触発されなかつた	1	0	1
無回答	1	0	0
計	37	31	82

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 鶴見大 神歯大

速かった	4	2	3
ちょうどよかったです	31	27	76
遅かった	1	2	3
無回答	1	0	0
計	37	31	82

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・ねむ気をさそわれました
- ・カラーの方が見やすいです。

○鶴見大学

- ・CBTでも出来なかった所だったので努力して勉強します。

6月8日 2限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	5	6	4	3
よく読んだ	10	18	15	25
ざっと目を通した	21	14	13	43
ほとんど見なかつた	9	0	3	11
無回答	2	0	0	0
計	47	38	35	82

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	13	3	4	5
わかりやすかった	31	25	29	71
わかりにくかった	2	10	2	6
まったくわからなかつた	0	0	0	0
無回答	1	0	0	0
計	47	38	35	82

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	12	6	5	6
わかりやすかった	31	26	26	69
内容が見にくかった	3	6	4	6
内容が不足していた	0	0	0	1
無回答	1	0	0	0
計	47	38	35	82

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	4	6	5	3
適切だった	41	24	28	74
もの足りなかつた	1	8	2	5
無回答	1	0	0	0
計	47	38	35	82

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	8	4	7	2
ある程度触発された	37	26	24	72
それほど触発されなかつた	1	8	4	8
まったく触発されなかつた	0	0	0	0
無回答	1	0	0	0
計	47	38	35	82

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	5	4	3	2
ちょうどよかったです	41	28	27	77
遅かった	0	6	4	3
無回答	1	0	1	0
計	47	38	35	82

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・すごく分かりやすかったです。

○神奈川歯科大学

- ・ありがとうございました。

○鶴見大学

- ・神奈川歯科さんの真面目さがVを通して見受けられます。
- ・麻酔と口外を交えての講義は鶴見の講義は分かり辛かったので、福岡歯科さんの講義を受けられて良かったです。
- ・口外・小児などで色々からめて国試で出そうだな。と思いました。
- ・亡くなられた患者さんの親御さんにはこういった講義で学ばさせて頂きありがとうございます。
- ・今日の様に赤字で書く所や書き足す所を増やした方が理解が深まるのかもしれません。

6月15日 1限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	3	5	3	3
よく読んだ	12	21	12	30
ざっと目を通した	17	10	44	42
ほとんど見なかつた	9	1	5	9
無回答	0	0	1	0
計	41	37	65	84

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	5	4	5	4
わかりやすかった	31	25	28	74
わかりにくかった	5	8	30	6
まったくわからなかつた	0	0	2	0
無回答	0	0	0	0
計	41	37	65	84

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	6	5	4	5
わかりやすかった	33	25	26	74
内容が見にくかった	2	7	33	5
内容が不足していた	0	0	0	0
無回答	0	0	2	0
計	41	37	65	84

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	4	5	4	3
適切だった	36	25	28	77
もの足りなかつた	1	7	31	4
無回答	0	0	2	0
計	41	37	65	84

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	5	4	5	3
ある程度触発された	32	24	24	69
それほど触発されなかつた	4	9	35	12
まったく触発されなかつた	0	0	1	0
無回答	0	0	0	0
計	41	37	65	84

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	6	5	5	2
ちょうどよかつた	35	25	26	78
遅かった	0	7	33	4
無回答	0	0	1	0
計	41	37	65	84

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・とても眠くなつた

○鶴見大学

- ・気管カニューレ等器具も資料に刷り込んでほしい。国家試験で画像問題が多く、イメージで記憶することも大事なので。
- ・今日は音声クリアでした。いつもクリアだといいです。
- ・ウチの大学では高齢者歯科の先生が教えて下さるのであまり分かりにくいのですが、耳鼻科のご専門の先生が教えて下さったので色々と分かりやすかったです。
福岡歯科行きたかったなあって思いました。

6月15日 2限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	4	2	3	3
よく読んだ	16	19	8	29
ざっと目を通した	19	11	68	43
ほとんど見なかつた	9	4	4	9
無回答	0	0	0	0
計	48	36	83	84

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	5	3	4	4
わかりやすかった	37	24	24	72
わかりにくかった	6	8	55	8
まったくわからなかつた	0	1	0	0
無回答	0	0	0	0
計	48	36	83	84

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	7	2	3	5
わかりやすかった	35	26	23	71
内容が見にくかった	6	7	57	8
内容が不足していた	0	1	0	0
無回答	0	0	0	0
計	48	36	83	84

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	6	4	3	2
適切だった	41	26	23	78
もの足りなかつた	1	6	56	4
無回答	0	0	1	0
計	48	36	83	84

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	7	2	3	3
ある程度触発された	34	25	20	69
それほど触発されなかつた	6	8	59	12
まったく触発されなかつた	1	1	1	0
無回答	0	0	0	0
計	48	36	83	84

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	6	3	3	3
ちょうどよかったです	41	28	20	77
遅かった	1	5	60	4
無回答	0	0	0	0
計	48	36	83	84

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・(プリントと)スライドと全く同じではなかったので時々見にくいく箇所があった。
- ・薬理のページが小さくて見にくかった。

○神奈川歯科大学

- ・ありがとうございました。

○鶴見大学

- ・福岡歯科大さんいつもお疲れ様です。ありがとうございます。
- ・今回、音声はクリアでした。聞き取りやすくよかったです。

6月22日 1限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
よく読んで関連することを調べた	2	4	27	2
よく読んだ	7	18	11	27
ざっと目を通した	25	6	9	45
ほとんど見なかつた	6	1	2	10
無回答	0	0	1	0
計	40	29	50	84

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	9	3	29	4
わかりやすかった	27	22	16	72
わかりにくかった	4	4	4	8
まったくわからなかつた	0	0	0	0
無回答	0	0	1	0
計	40	29	50	84

3. プリントはわかりやすかったです。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
とてもわかりやすかった	9	5	29	4
わかりやすかった	28	20	18	71
内容が見にくかった	3	4	2	9
内容が不足していた	0	0	0	0
無回答	0	0	1	0
計	40	29	50	84

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
高度過ぎた	3	3	29	3
適切だった	37	22	19	79
もの足りなかつた	0	4	2	2
無回答	0	0	0	0
計	40	29	50	84

5. 授業の内容に触発されましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
かなり触発された	7	4	28	2
ある程度触発された	27	19	19	73
それほど触発されなかつた	5	6	2	9
まったく触発されなかつた	1	0	0	0
無回答	0	0	1	0
計	40	29	50	84

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

	福歯大	北医療大	鶴見大	神歯大
速かった	8	4	28	7
ちょうどよかつた	31	21	20	74
遅かった	1	3	1	3
無回答	0	1	1	0
計	40	29	50	84

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・レジュメのそれぞれの先生のリンクマイシン系の分類に矛盾がある。
マクロライドに含まれるか、含まれないか。
- ・国試の問題をプリントに入れてほしい

○神奈川歯科大学

- ・ありがとうございました。

6月29日 1限 TV授業アンケート集計

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

よく読んで関連することを調べた	2	29	3
よく読んだ	9	17	29
ざっと目を通した	13	14	43
ほとんど見なかつた	9	9	7
無回答	0	3	0
計	33	0	72
			82

2. 授業の内容はわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	3	32	4
わかりやすかった	27	32	73
わかりにくかった	3	5	5
まったくわからなかつた	0	1	0
無回答	0	2	0
計	33	0	72
			82

3. プリントはわかりやすかったです。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

とてもわかりやすかった	3	32	4
わかりやすかった	27	32	72
内容が見にくかった	3	6	6
内容が不足していた	0	0	0
無回答	0	2	0
計	33	0	72
			82

4. 授業内容のレベルについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

高度過ぎた	3	30	4
適切だった	30	37	77
もの足りなかつた	0	2	1
無回答	0	3	0
計	33	0	72
			82

5. 授業の内容に触発されましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

かなり触発された	2	31	2
ある程度触発された	29	30	73
それほど触発されなかつた	2	8	6
まったく触発されなかつた	0	1	1
無回答	0	2	0
計	33	0	72
			82

6. 授業のスピードについてどう感じましたか。

福歯大 北医療大 鶴見大 神歯大

速かった	2	30	4
ちょうどよかったです	31	35	76
遅かった	0	3	2
無回答	0	4	0
計	33	0	72
			82

自由記載意見

○福岡歯科大学

- ・うちの教授の講義が多いので他大学の授業をもっと聞きたい

○鶴見大学

- ・書き足す部分がもう少し多くても良いかも
- ・3ヶ月間、福岡歯科大さん神奈川歯科大さん貴重な講義ありがとうございました。山近先生もお忙しいところ、ありがとうございました。

一般目標

大規模災害・事故が多発している現在、歯科医師として災害現場での特殊な対応・行動を認識し、さらには災害時のチーム医療としての実働や、歯科医師もしくは人として行うことの出来る後方支援を理解する。

教育方法

口授、スライド、プリントならびに実習による演習

学習方法

演習前後に指定教科書や配付資料による予習・復習を行う。

評価**教科書**

例

災害医学 2009年 第2版 南山堂 等

内容概略：国内外を問わず津波、地震、列車事故、戦争等、大きな災害を経験し、災害に対する危機管理が行政、医療現場、関係職種の人々に浸透してきている。本書は前版の啓蒙的なニュアンスから脱却し、更に1歩前進させた内容となっている。災害現場の特殊性、教育、病院における備え、対処法などはもちろん、心得ておかなければならぬ知識やテクニックが具体的に網羅されている。（南山堂HPから引用紹介）

参考書

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	平成22年度医学コアカリキュラム	平成22年歯学コアカリキュラム
1			ユニット1 災害について	災害の実態について学習する。	①災害の経時的变化を説明できる。 ②災害の種類を列挙できる。 ③災害の規模を説明できる。 ④災害支援の必要性を説明できる。 ⑤災害に対する関連法規について列挙できる。	B 医学・医療と社会(2) 地域医療 6) 災害時における医療体制確立の必要性と、現場におけるトリアージを説明できる。	B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *⑨災害時の歯科医療の必要性について説明できる。
2			ユニット2 災害と医療 災害と法	災害時の医療活動について理解する。	①災害と医療の関連性を説明できる。 ②災害時に必要な医療支援を説明できる。 ③受傷度に応じた医療を説明できる。 ④災害医療に関する法律問題を説明できる。	B 医学・医療と社会(2) 地域医療 6) 災害時における医療体制確立の必要性と、現場におけるトリアージを説明できる。	
3			ユニット3 災害への援助 ボランティア論	ボランティア論の実際について学習する。	①一般ボランティアについて説明できる。 ②専門ボランティアについて説明できる。 ③自己管理に必要な装備と使用法を説明できる。 ④災害時のボランティア活動について列挙できる。	2 医療における安全性確保 コミュニケーションとチーム医療	A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション
4			ユニット4 災害時の衛生管理	災害時の衛生管理について理解する。	①災害時の衛生環境を説明できる。 ②災害時に特有な感染症を列挙できる。 ③災害時に必要な衛生施設を説明できる。 ④災害時の衛生管理について説明できる。	B 医学・医療と社会(2) 地域医療 6) 災害時における医療体制確立	
5			ユニット5 災害時の口腔衛生管理	災害時の口腔衛生管理について理解する。	①災害時の口腔衛生環境を説明できる。 ②災害時に必要な口腔清掃器具を列挙できる。 ③災害状況に応じた口腔清掃法を説明できる。 ④災害状況に応じた機材を列挙できる。 ⑤災害時の口腔衛生管理を説明できる。 ⑥災害時における患者とのコミュニケーションについて説明できる。	A 基本事項 2 医療における安全性確保 コミュニケーションとチーム医療 (1) コミュニケーション 1) コミュニケーションの方法と技能(言語的と非言語的)を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。	A-7 対人関係能力 A-7-1) コミュニケーション *①コミュニケーションの目的と技法(言語的と非言語的)を説明できる。 【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】 *②信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	平成22年度医学コアカリキュラム	平成22年歯学コアカリキュラム
					<p>2) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>B 医学・医療と社会(2) 地域医療</p> <p>6) 災害時における医療体制確立の必要性と、現場におけるトリアージを説明できる。</p> <p>(2) 患者と医師の関係</p> <p>1) 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。</p> <p>2) 患者に分かりやすい言葉で対話できる。</p> <p>3) 患者の心理的および社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。</p> <p>5) 患者の要望(診察・転医・紹介)への対処の仕方を説明できる。</p> <p>6) 患者のプライバシーに配慮できる。</p> <p>7) 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱ができる。</p>	<p>A-7-2) 医療面接</p> <p>*①医療面接の役割を説明できる。</p> <p>②主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考え方や治療に対する希望を把握できる。</p> <p>③患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。</p> <p>④患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。</p> <p>⑤患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。</p> <p>*⑥必要に応じて、他の医療機関への適切な紹介を行うための手続きを説明できる。</p> <p>*⑦患者のプライバシーに配慮できる。</p> <p>*⑧患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。</p>	

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標(GIO)	行動目標(SB0s)	平成22年度医学コアカリキュラム	平成22年歯学コアカリキュラム
6			ユニット6 災害と口腔医療	災害と口腔医療について学習する。	①災害時における口腔医療を説明できる。 ②災害時における全身と口腔疾患の関連性を説明できる。 ③災害時の口腔診断に必要な項目を列挙できる。 ④災害時の診断方法について説明できる。		
7			ユニット7 災害時歯科治療	災害時歯科治療について理解する。	①災害時に必要な歯科治療を説明できる。 ②災害時に必要な歯科治療機材を説明できる。 ③災害時に必要な他職種との連携について説明できる。 ④災害時歯科治療マニュアルを説明できる。 ⑤災害時に必要な口腔外科治療を説明できる。 ⑥災害時に必要な口腔外科治療機材を列挙できる。		
8			ユニット8 災害の精神医学 被災者と従事者への心のケア	災害時の心理について学習する。	①被災地・被災者におけるストレス要因を列挙できる。 ②被災地・被災者に特有なストレス緩和の必要性を説明できる。 ③グリーフケアの重要性を説明できる。 ④従事者が受けるストレスを説明できる。 ⑤従事者へのストレス緩和を説明できる。 ⑥PTSDについて説明できる。	2 医療における安全性確保 コミュニケーション	
9			ユニット9 災害時の情報収集	災害時における現地調査と情報収集の方法について理解する。	①災害時の後方支援について説明できる。 ②災害地での情報収集や現地調査の方法を説明できる。 ③関連法規について説明できる。	2 医療における安全性確保 コミュニケーション	

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標(GIO)	行動目標(SB0s)	平成22年度医学コアカリキュラム	平成22年歯学コアカリキュラム
10			ユニット10 災害時の組織運営	災害時に求められる組織運営や準備体制について学習する。	①災害の現場で必要な組織運営や準備体制の重要性について説明できる。 ②災害発生時間、被災範囲、人口構成、ライフラインの復旧状況、物資の供給ルートについて説明できる。	2 医療における安全性確保 コミュニケーション	
11			ユニット11 災害時におけるチーム医療	医科的知識と多職種間の重要性について理解する。	①災害時の歯科医師が知るべき医科的知識と多職種間連携の重要性を説明できる。 ②歯科医師が行える業務を説明できる。 ③保険診療を含む関連法規について説明できる。	3 コミュニケーションとチーム医療 (1) コミュニケーションの方法と技能（言語的と非言語的）を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。 (2) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができ G 臨床実習 5 地域医療臨床実習 4) 多職種連携のチーム医療を体験する。	A-7 対人関係能力 A-7-3) 患者中心のチーム医療 *①患者中心のチーム医療の意義を説明できる。 *②医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。 *③保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標(GI0)	行動目標(SB0s)	平成 22 年度医学コアカリキュラム	平成 22 年歯学コアカリキュラム
12			ユニット12 災害時の検案支援	法歯学と個人識別について習得する。	①災害時の検案支援の必要性を説明できる。 ②個人識別に有効な方法を列挙できる。 ③デンタルチャートを作成できる。 ④解剖における関連法規について列挙できる。 ⑤死体现象について説明できる。	(6)死と法 1)異状死について説明出来る。 2)異状死体の取り扱いと死体検案について説明できる。 3)死亡診断書と死体検案書を作成できる。 4)個人識別の方法を説明できる。 5)病理解剖、司法解剖、行政解剖、承諾解剖について説明できる。	B-2 健康と社会、環境 B-2-3) 歯科による個人識別 ①個人識別について説明できる。 ②歯科による個人識別について説明できる。
13 14 15			ユニット13-1 実習 デジタル機器取り扱い1 口腔内写真撮影	口腔内写真撮影を習得する。	①口腔内撮影に必要な器材を説明できる。 ②口腔内撮影に必要な機材の取扱いが説明できる。(操作できる) ③口腔内写真の撮影法を説明できる。(操作できる)		
			ユニット13-2 実習 デジタル機器取り扱い2 携帯用 X 線撮影装置	携帯用 X 線装置の取扱いと撮影・現像処理について習得する。	①X 線写真撮影に必要な器材を説明できる。 ②X 線写真撮影に必要な機材の取扱いが説明できる。(操作できる) ③IP や CCD の説明ができる。(操作できる) ④デジタル写真のイメージ処理を理解する。(操作できる)		
			ユニット13-3 実習 デンタルチャート作成	デンタルチャートの作成について習得する。	①デンタルチャートを作成できる。 ②デンタルチャート作成時のヒューマンエラーを説明できる。 ③ヒューマンエラーの対策法を説明できる。 ④データベースソフトについて説明できる。(操作できる) ⑤デンタルチャートから個人識別時の一致、不一致について説明できる。		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標(GI0)	行動目標(SB0s)	平成22年度医学コアカリキュラム	平成22年歯学コアカリキュラム
例 16 17 18 要 複 数 回			ユニット14 災害時の応急歯科処置	災害急・慢性期における応急歯科処置を理解する (補綴, 保存, 矯正, 口腔外科, 小児歯科における応急処置を理解する)	①災害急・慢性期の応急歯科処置の事例を想定できる。 ②応急的な補綴処置を説明できる。(総・局部床義歯の修理や冠・橋義歯脱離) ③応急的な保存処置を説明できる。(充填や脱離) ④応急的な矯正処置を説明できる。(装置破損, 脱落) ⑤応急的な小児歯科処置を説明できる。 ⑥応急的な口腔外科処置を説明できる。(小手術後に対する) ※補足 行動目標(SB0s)は講義形式を想定して設定してあるため、これを実習形式に変更する場合は、実習にふさわしい行動目標に変更する。 (例「説明できる」 →「できる」等に)		A-7 対人関係能力 A-7-3) 患者中心のチーム医療 *①患者中心のチーム医療の意義を説明できる。 *②医療チームや各構成員(歯科医師, 医師, 薬剤師, 看護師, 歯科衛生士, 歯科技工士, その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。 *③保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。

資料 I -5-①

歯周医学コアカリキュラム対応表

1. 生活習慣病概論

医学コアカリ	歯学コアカリ
<p>A 基本事項</p> <p>1 医の原則 (1) 医の倫理と生命倫理</p> <p>一般目標： 医療と医学研究における倫理の重要性を学ぶ。</p> <p>B 医学・医療と社会</p> <p>(1) 社会・環境と健康</p> <p>一般目標： 社会と健康・疾病との関係について理解し、個体および集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。</p> <p>到達目標： 1) 健康、障害と疾病的概念を説明できる。 *5) 病診連携と病病連携を説明できる。 *7) 各ライフステージの健康問題について説明できる。</p> <p>(4) 生活習慣と疾病</p> <p>一般目標： 生活習慣（食生活を含む）に関連した疾病的種類、病態と予防治療について学ぶ。</p> <p>到達目標： 1) 生活習慣に関連した疾病を列挙できる。 2) 生活習慣と肥満・脂質異常症（高脂血症）・動脈硬化の関係を説明できる。 3) 生活習慣と糖尿病の関係を説明できる。 4) 生活習慣と高血圧の関係を説明できる。 6) 喫煙と疾病的関係と禁煙指導を説明できる。</p>	<p>A 基本事項</p> <p>2 医の倫理 一般目標 医療、歯科医療、および医学・歯学研究における倫理の重要性を理解する。</p> <p>B 社会と歯学</p> <p>1 健康の概念</p> <p>一般目標： 健康と疾病的概念を理解する。</p> <p>到達目標： *①健康の概念を説明できる。 *②口腔と全身の健康との関連を説明できる。 *③疾病的概念、種類および予防を概説できる。</p> <p>3 予防と健康管理</p> <p>2) 口腔疾患の予防と健康管理</p> <p>一般目標： 口腔疾患の予防と健康管理を理解する。</p> <p>到達目標： *①主な口腔疾患（う蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。 【生活習慣病の改善指導を含む。】 *③ライフステージにおける予防を説明できる。 *⑤口腔ケアの意義と効果を説明できる。</p>

2. 組織の構造・病因・病態

医学コアカリ	歯学コアカリ
<p>C 医学一般</p> <p>2 個体の構成と機能</p> <p>(1) 細胞の構成と機能を理解する。</p> <p>一般目標：</p> <p>細胞の微細構造と機能を理解する。</p> <p>【細胞膜】</p> <p>到達目標：</p> <p>6) 細胞接着の仕組みを説明できる。</p> <p>(2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係</p> <p>一般目標：</p> <p>細胞集団としての組織・臓器の構成、機能分化と方向用語を理解する。</p> <p>【組織・各臓器の構造と機能】</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。</p> <p>2) 支持組織を構成する細胞と細胞間質（線維成分と基質）を説明できる。</p> <p>3) 血管とリンパ管の微細構造と機能を説明できる。</p> <p>5) 筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。</p> <p>6) 組織の再生の機序を説明できる。</p> <p>D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療</p> <p>4 運動器（筋骨格）系</p> <p>一般目標：</p> <p>運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。</p> <p>(1) 構造と機能</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 骨・軟骨・関節・韌帯の構造と機能を説明できる。</p> <p>2) 頭部・顔面の骨の構成を説明できる。</p> <p>7) 骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。</p>	<p>C 生命科学</p> <p>1 生命の分子的基盤</p> <p>3) 細胞の構造と機能</p> <p>一般目標：</p> <p>細胞の基本的構造を学び、それらと細胞機能、細胞増殖および分化機構との関係を理解する。</p> <p>4) 細胞のコミュニケーション</p> <p>一般目標：</p> <p>細胞間、細胞・マトリックス間の接着機序および細胞レベルでの情報伝達の仕組みを理解する。</p> <p>2 人体の構造と機能</p> <p>3) 身体を構成する組織、器官</p> <p>一般目標：</p> <p>人体諸器官の構造および生理的機能とその機序を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <p>(1)組織（上皮組織、結合組織、筋組織）</p> <p>*①上皮を形態的および機能的に分類できる。</p> <p>*④結合組織の線維要素と細胞要素を説明できる。</p> <p>*⑦硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。</p> <p>(2)運動器系</p> <p>*①生体を構成する主な骨と筋を列挙する。</p> <p>*②骨の基本構造と結合様式を説明できる。</p> <p>*③骨の改造現象と全身および局所因子による調節機構を概説できる。</p>

<p>(4) 疾患 到達目標： 2) 骨粗鬆症の病因と病態を説明し、骨折の好発部位を列挙できる。</p>	
<p>5 循環器系 一般目標： 循環器系の構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。</p>	<p>(3) 循環器系 ＊①心臓の構造と機能を説明できる。 ＊③動脈、毛細血管および静脈の構造と血管系の役割を説明できる。 ＊④血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明できる。</p>
<p>(1) 構造と機能 到達目標： 1) 心臓の構造と分布する血管・神経を説明できる。</p>	
<p>(4) 疾患 ④弁膜症 到達目標： 2) 感染性心内膜炎の病因、症候と診断を説明し、治療を概説できる。</p>	
<p>⑦動脈疾患 到達目標： 1) 動脈硬化症の危険因子、病態生理と合併症を説明できる。</p>	
<p>7 消化器系 一般目標： 消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。</p>	<p>(6) 消化器系 ＊③膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。</p>
<p>(1) 構造と機能 到達目標： 1) 各消化器官の位置、形態と血管を図示できる。 9) 膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。 12) 主な消化管ホルモンの作用を説明できる。 13) 歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。 ＊14) 咀しゃくと嚥下の機構を説明できる。 ＊15) 消化管の正常細菌叢の役割を説明できる。</p>	
<p>6 呼吸器系 一般目標： 呼吸器系の構造と機能を理解し、主な呼吸器疾患の病因、病態生理、症候、診</p>	<p>(7) 呼吸器系 ＊①気道系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支）の構造と機能を説明できる。 ＊②肺の構造と機能を説明できる。</p>

断と治療を学ぶ。

(1) 構造と機能

到達目標：

- 1) 気道の構造、胚葉、肺区域と肺門の構造を説明できる。
- 10) 気道と肺の防御機構（免疫学的・非免疫学的）と代謝機能を説明できる。

(4) 疾患

- ②呼吸器感染症

到達目標：

- 2) 気管支炎・肺炎の主な病原体を列挙し、症候、診断と治療を説明できる。
- *5) 嘔下性肺炎の発生機序とその予防法を説明できる。

12 内分泌・栄養・代謝系

一般目標

内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、主な内分泌・代謝疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

(4) 疾患

⑤糖代謝異常

到達目標：

- 1) 糖尿病の病因、病態生理、分類、症候と診断を説明できる。
- 2) 糖尿病の急性合併症を説明できる。
- 3) 糖尿病の慢性合併症を列挙し、概説できる。
- 4) 糖尿病の治療（食事療法、運動療法、薬物治療）を概説できる。

⑥脂質代謝異常

到達目標：

- 1) 脂質異常症＜高脂血症＞の分類、病因と病態を説明できる。
- *2) 脂質異常症＜高脂血症＞の予防と治療を説明できる。

10 妊娠と分娩

一般目標：

妊娠、分娩と産褥期の管理に必要な基礎知識とともに、母子保健、生殖医療のあり方を学ぶ。

(4) 疾患

到達目標：

- 2) 主な異常分娩（早産、微弱陣痛、遷延分娩、回旋異常、前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩外傷）の病態を説明できる。

(8) 内分泌系

*①内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。

(10) 生殖器系

*①男性生殖器、女性生殖器の構造と機能を説明できる。

【ホルモンによる調節を含む。】

14 耳鼻・咽喉・口腔系

一般目標：

耳鼻・咽喉・口腔の構造と機能を理解し、耳鼻・咽喉・口腔系疾患の症候、病態、診断と治療を理解する。

(1) 構造と機能

到達目標：

- 3) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。
- 4) 喉頭の機能と神経支配を説明できる。

(4) 疾患

到達目標：

- 9) う歯・歯周病とその全身疾患への影響を概説できる。

E 臨床歯学教育

2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患

1) 頭頸部の基本構造と機能

一般目標：

頭頸部の基本的な構造と機能を理解する。

到達目標：

*⑧嚥下の機序を説明できる。

3 歯と歯周組織の常態と疾患

1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能

一般目標：

歯と歯周組織の常態を理解する。

到達目標：

*②歯種別の形態と特徴を説明できる。

*⑤歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。

3. 病因と病態

医学コアカリ	歯学コアカリ
<p>C 医学一般</p> <p>4 病因と病態</p> <p>(2) 細胞障害・変性と細胞死</p> <p>一般目標 細胞障害・変性と細胞死の病因と細胞・組織の形態的変化を理解する。</p> <p>到達目標： 1) 細胞障害・変性と細胞死の多様性、病因と意義を説明できる。 2) 細胞障害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的変化の特徴を説明できる。 3) ネクローシスとアポトーシスの違いを説明できる。</p> <p>(4) 循環障害</p> <p>一般目標： 循環障害の病因と病態を理解する。</p> <p>到達目標： 3) 血栓症の病因と病態を説明できる。 4) 塞栓の種類と経路や塞栓症の病態を説明できる。 5) 梗塞の種類と病態を説明できる。</p> <p>(5) 炎症と創傷治癒</p> <p>一般目標 炎症の概念と感染症との関係、またそれらの治癒過程を理解する。</p> <p>到達目標： 1) 炎症の定義を説明できる。 2) 炎症の分類、組織形態的変化と経時的変化を説明できる。 3) 感染症による炎症性変化を説明できる。 4) 創傷治癒の過程を説明できる。</p>	<p>C 生命科学</p> <p>4 病因と病態</p> <p>1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮</p> <p>一般目標： 細胞傷害、組織傷害および萎縮の原因と形態的所見を理解する。</p> <p>到達目標： *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。 【変性を含む。】 *②壊死の多様性、原因、意義および形態的所見の特徴を説明できる。 *③アポトーシスと疾患の関連性について説明できる。</p> <p>2) 修復と再生</p> <p>一般目標： 修復と再生の意義とこれらの形態的所見を理解する。</p> <p>到達目標： *①修復と再生について説明できる。 *③創傷治癒に関する細胞とその過程を説明できる。</p> <p>3) 循環障害</p> <p>一般目標： 循環障害の成因、形態およびその転帰を理解する。</p> <p>到達目標： *①虚血、充血およびうっ血の徵候、原因および転帰を説明できる。 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 *④塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。</p> <p>4) 炎症</p> <p>一般目標： 炎症の概念、発症機構および病理組織学的特徴を理解する。</p> <p>到達目標： *①炎症の定義を説明できる。 【発症機序を含む。】 *②炎症に関する細胞の種類と機能を説明できる。 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的変化を説明できる。</p>

E 臨床歯学教育

2 口唇・口腔・当該・顎頬面領域の常態と疾患

4) - (3) 炎症とアレルギー

*①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。

*③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。

*④口唇・口腔・顎頬面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。

*⑤菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。

⑧歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。

3 歯と歯周組織の常態と疾患

3) - (3) 歯周疾患の診断と治療

*①歯周疾患の症状を説明できる。

【疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】

*⑤歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。

4. 細菌

医学コアカリ	歯学コアカリ
<p>C 医学一般</p> <p>3 個体の反応</p> <p>(1) 生体と微生物</p> <p>一般目標：</p> <p>各種微生物の基本的性状、病原性とそれによって生じる病態を理解する。</p> <p>【細菌・真菌】</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 細菌の構造を図示し、形態と染色性により分類できる。 2) 細菌の感染経路を分類し、説明できる。 3) 細菌が疾病を引き起こす機序を説明できる。 4) 外毒素と内毒素について説明できる。 5) Gram (グラム) 陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 6) Gram (グラム) 陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 7) Gram (グラム) 陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 8) Gram (グラム) 陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、ブルセラ菌、レジオネラ菌、インフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 9) Gram (グラム) 陰性スピリルム菌 (<i>Helicobacter pylori</i>) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 10) 抗酸菌 (結核菌、非結核性<非定型>抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコッカス、カンジダ、ムーコル<ムコール>) の微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 12) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 	<p>C 生命科学</p> <p>3 感染と免疫</p> <p>1) 感染</p> <p>一般目標：</p> <p>微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <p>*①細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。</p> <p>*②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。</p> <p>*④化学療法の目的、原理、作用機序および薬剤耐性機序を説明できる。</p>

5. 免疫

医学コアカリ	歯学コアカリ
<p>C 医学一般 2 個体の構成と機能 (3) 個体の調節機構とホメオスタシス</p> <p>一般目標： 生体の恒常性を維持するための情報伝達と生体防御の機序を理解する。</p> <p>【生体防御の機序】</p> <p>到達目標： 1) 生体の非特異的防御機構を説明できる。 2) 特異的防御機構である免疫系の役割を説明できる。 3) 体液性と細胞性免疫応答を説明できる。</p> <p>3 個体の反応 (2) 免疫と生体防御</p> <p>一般目標： 免疫系の機構を分子レベルで理解し、病原体に対する免疫反応、主な自己免疫疾患、先天性および後天性免疫不全症候群<AIDS>とがん細胞に対する免疫系の反応を理解する。</p> <p>【免疫系の一般特性】</p> <p>到達目標： 1) 生体防御機構における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を説明できる。 2) 免疫反応に関わる組織と細胞を説明できる。 3) 免疫学的自己の確立と破綻を説明できる。 4) 自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。</p> <p>【自己と非自己の識別に関する分子とその役割】</p> <p>到達目標： 1) MHC クラス I とクラス II の基本構造、抗原提示経路の違いを説明できる。 2) 免疫グロブリンと T 細胞抗原レセプターの構造と反応様式を説明できる。 3) 免疫グロブリンと T 細胞抗原レセプター遺伝子の構造と遺伝子再構成に基づき、多様性獲得の機構を説明できる。 4) 自己と非自己の識別機構の確立と免疫学的寛容を概説できる。</p> <p>【免疫反応の調節機構】</p> <p>到達目標： 1) 抗原レセプターからのシグナルを増強あるいは減弱する調節機構を概説でき</p>	<p>C 生命科学 3 感染と免疫 2) 免疫</p> <p>一般目標： 免疫系を理解し、生体防御機構としての免疫反応、感染免疫、アレルギー、主な免疫不全・自己免疫疾患を理解する。</p> <p>到達目標： *①自然免疫と獲得免疫について説明できる。 *②細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。 【抗体の種類と特徴を含む。】 *③免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 *④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 *⑥免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。</p>

る。

- 2) 代表的なサイトカイン・ケモカインの特徴を説明できる。
- 3) Th1/Th2 細胞それが担当する生体防御反応を説明できる。

6 .全身に及ぶ疾患

医学コアカリ	歯学コアカリ
<p>E 全身におよぶ生理的変化、病態、診断、治療</p> <p>1 感染症</p> <p>一般目標： 主な感染症の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。</p> <p>(1) 病態</p> <p>到達目標： 1) 病原体に対する生体の反応を説明できる。 2) 診断・検査・治療の基本</p> <p>到達目標： 1) 主な感染症の原因となる病原体を分類できる。</p> <p>3 免疫・アレルギー疾患</p> <p>一般目標： 免疫・アレルギー疾患の病態生理を理解し、症候、診断と治療を学ぶ。</p> <p>(1) 診断と検査の基本</p> <p>到達目標： 1) 自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。 3) 病態と疾患</p> <p>①自己免疫疾患一般</p> <p>到達目標： 1) 膜原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる。 2) 関節炎をきたす疾患を列挙できる。Raynaud（レイノー）症状を説明し、原因疾患を列挙できる。</p> <p>④関節リウマチ</p> <p>到達目標： 1) 関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーションを説明できる。 *2) 関節リウマチの関節外症状を説明できる。 *3) 悪性関節リウマチの症候、診断と治療を説明できる。 *4) 若年性関節リウマチの特徴を説明できる。 *5) 成人Still（スチル）病を説明できる。</p>	<p>E 臨床歯学教育</p> <p>2 口唇・口腔・当該・顎頬面領域の常態と疾患</p> <p>4) - (3) 炎症とアレルギー</p> <p>*①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 *③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 *④口唇・口腔・顎頬面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。 *⑤菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。 ⑧歯性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。</p>

7. 薬物

医学コアカリ	歯学コアカリ
<p>C 医学一般</p> <p>3 個体の反応</p> <p>(4) 生体と薬物</p> <p>一般目標：</p> <p>薬物・毒物の生体への作用について、個体・細胞・分子のレベルにおける作用機序と、生体と薬物分子との相互作用を理解し、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>【薬理作用の基本】</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。 2) 薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性および活性薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 3) 薬物・毒物の容量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量を説明できる。 <p>【薬物の動態】</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。 2) 薬物の生体膜通貨に影響する因子を説明できる。 3) 薬物投与方法を列举し、それぞれの薬物動態を説明できる。 <p>【薬物の評価】</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 薬物の評価におけるプラセボの意義を説明できる。 	<p>C 生命科学</p> <p>5 生体と薬物</p> <p>2) 薬理作用</p> <p>一般目標：</p> <p>薬物の作用に関する基本的事項を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> * ①薬物療法（原因療法、対処療法）を説明できる。 * ②薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 * ③薬物の作用機序を説明できる。 * ④薬理作用を規定する要因（容量と反応、感受性）を説明できる。 * ⑤薬物の連用の影響（薬物耐性、蓄積および薬物依存）を説明できる。 * ⑥薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。 <p>3) 薬物の適用と体内動態</p> <p>一般目標：</p> <p>適用された薬物の生体内運命を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> * ①薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 * ②薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。 <p>4) 薬物の副作用と有害作用</p> <p>一般目標：</p> <p>薬物の副作用、有害作用の種類とその予防対策に関する基本的事項を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> * ①薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎頸面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。

8. 臨床教育

医学コアカリ	歯学コアカリ
<p>F 診療の基本</p> <p>総合的な診療能力の基礎として知識・技能・態度の習得に向けては、大学や地域の医療機関等における体験学習等の多様な経験を通じて、入学後早期から段階的・有機的に各種取組を推進することが有効である。</p> <p>1 症候・病態からのアプローチ</p> <p>(8) 肥満・やせ</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 肥満・やせを定義し、それぞれの原因を列挙できる。 2) 肥満・やせを呈する患者の診断の要点を説明できる。 <p>(26) 嘔下困難・障害</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 嘔下困難・障害の原因と病態を説明できる。 2) 嘔下困難・障害を訴える患者の診断の要点を説明できる。 <p>2 基本的診療知識</p> <p>(1) 薬物治療の基本原理</p> <p>一般目標：</p> <p>診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、副作用）を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 5) 循環器作用薬（強心薬、抗不整脈薬、降圧薬）の薬理作用を説明できる。 10) 抗菌薬の薬理作用を説明できる。 <p>(2) 臨床検査</p> <p>一般目標：</p> <p>検査の方法、適応と解釈を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 臨床検査の基準値・カットオフ値の意味が説明できる。 2) 検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率<事前確率>・予測値、尤度比）を説明できる。 3) 血液検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。 6) 生化学検査項目を列挙し、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 7) 免疫学検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 8) 心電図検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 	<p>E 臨床歯学教育</p> <p>1 診療の基本</p> <p>1) 基本的診療技能</p> <p>一般目標：</p> <p>口唇・口腔・顎頸面領域の診察、検査、診断、治療および予防を行うために必要な基本的な知識、技能および態度を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 *②口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。 【歯科治療時の対応を含む。】 ④診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。 <p>【患者監視装置（モニタ）を含む。】</p> <ul style="list-style-type: none"> *⑧的確な病歴聴取（現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等）を行い、必要な部分を抽出できる。 *⑨病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。 ⑫基本的診察および検査結果より的確な診断と治療方針を立案し説明できる。 *⑯各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 ⑯必要に応じて医科に対診できる。 ⑰患者に関する医療情報を他の機関に提供し、また、求めることができる。 <p>2) 画像検査</p> <p>一般目標：</p> <p>画像検査法の特徴と適応ならびに画像の解釈を理解するとともに、放射線の人体に対する影響と放射線防護の方法を併せて理解する。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> *⑦口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。

<p>*13) 検査の誤差や生理的変動を説明できる。</p> <p>*16) 一般細菌の塗抹・培養の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>(5) 食事と輸液療法</p> <p>一般目標： 食事と輸液療法の基本を学ぶ。</p> <p>到達目標： 1) 主な疾患の食事療法を概説できる。 (7) 放射線等を用いる診断と治療</p> <p>一般目標： 放射線等による診断と治療の基本を学ぶ。</p> <p>到達目標： 1) エックス線、CT、MRI と核医学検査の原理を説明できる。 2) エックス線（単純、造影）、CT、MRI と核医学検査の読影の原理を説明できる。</p> <p>(11) リハビリテーション</p> <p>一般目標： リハビリテーションの基本を学ぶ。</p> <p>到達目標： 1) リハビリテーションの概念と適応を説明できる。 2) リハビリテーションチームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。 3) 福祉・介護との連携におけるリハビリテーションの役割を説明できる。</p> <p>3 基本的診療技能</p> <p>一般目標： 患者情報の収集、記録、診断、治療計画について学ぶ。</p> <p>(1) 問題志向型システム</p> <p>到達目標： 1) 基本的診療知識に基づき、症例に関する情報を収集・分析できる。 2) えら得た情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。 3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。 4) 主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。</p> <p>(2) 医療面接</p> <p>到達目標： 1) 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者に接することができる。</p>	<p>6) 口腔保健</p> <p>一般目標： 口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な知識、技能および態度を身につける。</p> <p>到達目標： (1) 予防処置 ③歯周疾患の予防処置を実施できる。</p> <p>(2) 歯科保健指導 ①口腔の健康度やリスクを評価し、対象者に説明できる。 ②セルフケアを行えるように適切な動機づけができる。 ③適切な口腔清掃法を指導できる。 ④適切な食事指導（栄養指導）を実施できる。 ⑤生活習慣に関して適切に指導できる。 ⑥禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。</p> <p>3) -(3) 歯周疾患の診断と治療 *⑤歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。</p> <p>4) 歯科医療の展開</p> <p>6) 歯科医師に必要な医学的知識</p> <p>一般目標： 歯科医師として必要な全身疾患（内科的疾患）を理解する。</p> <p>到達目標： *①代表的な医科疾患（内科的疾患）を説明できる。 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。 *④妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。</p>
---	--

- 2) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることが出来る。
- 3) 病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。
- 4) 診察で得た所見、診断、必要な検査を説明、報告できる。

(3) 診療記録

到達目標：

- 1) 適切に患者の情報を収集し、POMR＜問題志向型診療記録＞を作成できる。
- 2) 診療経過をSOAP（主観的所見・客観的所見・評価・計画）で記録できる。
- 3) 症例を適切に要約する習慣を身につけ、状況に応じて提示できる。

(4) 臨床診断

到達目標：

- 1) 感度・特異度等を考慮して、必要十分な検査を挙げることができる。
- 2) 科学的根拠に基づいた治療法を述べることができる。

(5) 身体診察

到達目標：

【頭頸部】

- 6) 口唇、口腔、咽頭の診察ができる。

9. 歯周病学単独

医学コアカリ	歯学コアカリ
	<p>E 臨床歯学教育</p> <p>3 歯と歯周組織の常態と疾患 2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因</p> <p>一般目標： 歯と歯周組織に生じる疾患の概要を理解する。</p> <p>到達目標： *①歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。 *④歯周疾患の病因と病態を説明できる。 *⑤口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。</p> <p>3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療</p> <p>一般目標： 歯と歯周組織に生じる疾患の治療の進め方の基本を修得する。</p> <p>(3) 歯周疾患の診断と治療</p> <p>到達目標： *①歯周疾患の症状を説明できる。 【疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】 *②歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。 *③歯周治療の術式と適応症を説明できる。 *④歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。 *⑤歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。</p>

歯周医学【講義】

資料 I -5-(2)

「歯周医学講義」の基本的考え方

本来、歯周病学（ペリオドンタルメディシン）の講義では、歯周病治療の手技に関する多くの技術的な要素を含んでいます。今回作成したモデルシラバスではこれらの要素を取り除き、主に全身との関わりに目的を絞って組み立てています。

一般目標

中年以降の国民の8割が罹患する歯周病について、病因と治療法の基本を学ぶ。さらに、口腔を通して全身の健康維持に寄与する医療提供者の養成を目的として、歯周病が全身に及ぼす影響について歯科医師として必要な最新知見を学ぶ。

教育方法

講義、問題演習

学習方法

授業前後に指定参考書や配布資料による予習・復習を行う。

学習者同士や教員との討議を行って理解を深める。

評価

定期試験における記述式問題ならびに客観試験

教科書

田中健藏他監修、『口腔の病気と全身の健康』 2011年 第1版 大道学館

参考書

吉江弘正他編、『臨床歯周病学』、医歯薬出版、2007

財団法人ライオン歯科衛生研究所編、『歯周病と全身の健康を考える』、医歯薬出版、2004

天野敦雄他監修、『ビジュアル歯周病を科学する』、クインテッセンス出版、2012

日本歯周病学会編、『糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン』、医歯薬出版、2014

Louis F他編、宮田隆 監訳『ペリオドンタルメディシン』、医歯薬出版、2001

三辺正人他編、『ペリオドンタルメディシンに基づいた抗菌療法の臨床』、医学情報社、2014

回	授業日	授業担当	ユニット番号 ・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	医科 コアカリキュラム	歯科 コアカリキュラム
1		歯周病学	ユニット1 歯周医学概論	歯周医学の歯科医学における位置づけ、歯周医学の意義と目的を理解する。	1)歯周医学の概念を説明できる。 2)歯周疾患の進行について説明できる。 3)歯周治療の目的を列記できる。	A-1 (1) 医の倫理と生命倫理 B-(1)- 1)健康、障害、疾患の概念 *5)病診連携・病病連携 *7)-(4) 1)生活習慣病 D-14 (4)-(9)う歯・歯周病と全身疾患への影響	A-2*①医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題 B-1 *①健康の概念 *②全身の健康との関連 *③疾病の概念 B-3-2)-(1) 歯周疾患の予防 E-1-6)口腔保健 (1)-(3)歯周疾患の予防処置 (2)歯科保健指導 ①リスク評価 ②セルフケア ③口腔清掃指導 ④食事指導(栄養指導) ⑤生活習慣に関する指導 ⑥禁煙指導

回	授業日	授業担当	ユニット番号 ・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	医科 コアカリキュラム	歯科 コアカリキュラム
2		組織学	ユニット2 歯周組織の発生、構造と機能	歯肉、歯根膜、歯槽骨、セメント質の特徴を理解する。	1) 歯肉の構造と機能を説明できる。 2) 歯根膜の構造と機能を説明できる。 3) セメント質の構造と機能を説明できる。 4) 歯槽骨の構造と機能を説明できる。	C-2 (1)-(6) 細胞接着 (2)-(1) 上皮組織と腺組織 2) 支持組織 3) 血管とリンパ管 5) 筋組織 6) 組織の再生 D-4-(1) 1) 骨の構造 2) 頭部の骨の構成 7) 骨の成長 D-14 (1)-(3) 口腔の構造 (1)-(4) 喉頭の機能	E-3-1) *②歯種別形態の特徴 *⑤歯周組織の発生、構造及び機能 C-1 3) 細胞の構造 4) 細胞間の情報伝達 C-2-3)-(1) 構造と機能 *①上皮 *④結合組織 *⑦硬組織石灰化 C-2-3)-(2) 運動器 *①骨と筋 *②骨の結合様式 *③骨の改造現象
3		生化学	ユニット3 全身の病因論	炎症・創傷治癒に関する分子生物学的因子について理解する。	病因の分子生物学的因素を説明できる。	C-4 (2) 1) 細胞障害・変性と細胞死の多様性、病因と意義 C-4 (5) 1) 炎症の定義	C-4-1) *①細胞傷害と組織傷害
4		歯周病学	ユニット4 歯周疾患の病因論	歯周疾患の初発因子とその他の局所的・全身的因子について理解する。	1) 歯周疾患の原因について説明できる。 2) デンタルプラークについて説明できる。 3) 歯周疾患の発症とプラークの為害性について説明できる。 4) 歯周疾患の進行に影響を与える炎症性修飾因子を列記できる。		E-3-2) *①歯の硬組織疾患の病因と病態 *④歯周疾患の病因と病態 E-3-2) ⑤ 病因としての口腔細菌、歯垢及び歯石
5		細菌学 歯周病学	ユニット4 歯周疾患の細菌	プラークの病原性について理解する。	1) 歯周病原性細菌を列記できる。 2) 各細菌の病原性を説明できる。 3) 臨床症状の変化との関連を説明できる。	C-3 (1) 1) 細菌の構造 2) 細菌の感染経路 3) 細菌が疾病を引き起こす機序 4) 外毒素と内毒素 5) Gram陽性球菌の特徴と疾患 6) Gram陰性球菌の特徴と疾患 7) Gram陽性桿菌の特徴と疾患 8) Gram陰性桿菌の特徴と疾患 9) Gram陰性スピリルム菌の特徴と疾患 10) 抗酸菌の特徴と疾患 11) 真菌の特徴と疾患	E-3-2) *④歯周疾患の病因と病態 C-3-1) *①細菌の特徴 *②細菌のヒトに対する感染成立の機序と感染微生物がヒトに対して示す病原性 *④化学療法の目的と薬剤耐性機序 E-2-4) (3) *①歯性感染症の原因菌と感染経路 E-3-2) ⑤ 病因としての口腔細菌、歯垢及び歯石

回	授業日	授業担当	ユニット番号 ・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	医科 コアカリキュラム	歯科 コアカリキュラム
					12) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチャ、クラミジアの特徴と疾患 E-3-感染症 (1)-1) 病原体に対する生体の反応 (2)-1) 病原体の分類		
6		病理学	ユニット5 歯周疾患の病理組織	歯周治療による病理組織変化を理解する。	1) 歯周治療による歯周組織の変化を説明できる。 2) 組織の修復と再生について説明できる。 3) 組織修復過程に影響する因子について説明できる。	C4 (2) 1) 細胞障害・変性と細胞死の病因 2) 細胞障害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的変化 C-4 (5) 1) 炎症の定義 2) 炎症の分類 3) 炎症性変化 4) 創傷治癒の過程	C-4 1)*①細胞傷害と組織傷害 *②壊死 *③アポトーシス 2)*①修復と再生 *③創傷治癒 3)*①虚血・充血 *②出血 4)*①炎症の定義 *②炎症細胞 *③進出性炎 E-3-3)-(3)*⑤ 歯周治療後の組織の治癒機転
7		免疫学	ユニット6 歯周疾患と免疫反応	歯周疾患における免疫系の関与を理解する。	1) プラークに対する細胞性免疫と体液性免疫を説明できる。 2) 組織変化を初期病変、早期病変、確立期病変、発展期病変に分けて説明できる。 3) 臨床症状との関連を説明できる。	C-2-(3) 個体の調節機構 1) 非特異的防御機構 2) 特異的防御機構（免疫系） 3) 体液性と細胞性免疫応答 C-3-(2) 生体防御【一般特性】 1) 免疫系の特徴 2) 免疫に関わる組織・細胞 3) 自己の確立 4) 自然免疫と獲得免疫 【自己と非自己】 1) MHC クラス 2) 免疫グロブリンの構造と反応 3) T 細胞抗原レセプター遺伝子 4) 自己と非自己 【調節機構】 1) 抗原レセプターからのシグナル 2) サイトカイン 3) 生体防御反応 E-3 免疫 (1)-1) 自己抗体 (3) 病態と疾患 ①自己免疫疾患 1) 膜原病	C-3-2 免疫 *①自然免疫と獲得免疫 *②細胞性免疫と体液性免疫 *③免疫担当細胞 *④自己と非自己 *⑥アレルギー疾患 C-4-4 *②炎症細胞の種類と働き *③炎症の病理組織学的变化及び経時的变化

回	授業日	授業担当	ユニット番号 ・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	医科 コアカリキュラム	歯科 コアカリキュラム
					2) 関節炎 ④関節リウマチ 1) 病態生理、症状、診断、治療 *2) 関節外症状 *3) 悪性関節リウマチ *4) 若年性関節リウマチ *5) 成人 Still 病		
8		歯周病学	ユニット 7 歯周疾患の治療	歯周疾患の治療計画の意義と立て方を理解する。	1) 歯周疾患の検査法を説明できる。 2) 歯周疾患の診断と治疗方法を説明できる。 3) 歯周疾患の治療計画の流れについて説明できる。	F 診療の基本 1 症候・病態からのアプローチ (8) 肥満・やせ 1) 定義、原因 2) 診断の要点 (26) 嘔下障害 1) 原因と病態 2) 診断の要点 2 基本的診療知識 (2) 臨床検査 1) 基準値 2) 検査の特性 3) 血液検査 6) 生化学検査 7) 免疫学検査 8) 心電図検査 *13) 検査の誤差 *16) 細菌検査 (7) 放射線を用いる診断と治療 1) 原理 2) 読影 3 基本的診療技能 (5) 身体視察 6) 口腔の診察 F 診療の基本 3 基本的診療技能 (1) 問題志向型システム 1) 情報を収集・分析 2) 問題点の抽出 3) 鑑別診断 4) 診断・治療計画の立案 (2) 医療面接 1) 態度 2) 基本的コミュニケーション技法 3) 病歴聴取 4) 患者への説明	E-1-1) 基本的診療技能 *① 診察事項を列挙 *② 全身疾患との関連性 ④ 診察に必要な機材 *⑧ 病歴聴取 *⑨ 現症 ⑫ 診断と治療方針の立案 *⑯ 臨床検査基準値 ⑯ 医科との対診 ⑰ 医療情報提供 2) 画像検査 *⑦撮影と読影 3)-(3) *① 歯周疾患の症状 *② 歯周疾患の診断と治療方針 *③ 歯周治療 *④ 歯周外科手術 *⑤ 歯周治療後の治癒機転と予後 E-2-4)-(3)*③炎症の診断に必要な検査法

回	授業日	授業担当	ユニット番号 ・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	医科 コアカリキュラム	歯科 コアカリキュラム
9		歯周病学	ユニット8 ペリオドンタル・メディシンの基礎	歯周疾患と全身疾患の病態の相互作用を理解する。	1)ペリオドンタル・メディシンを説明できる。 2)歯周疾患の発症と進行に影響を及ぼす疾患群を概説できる。 3)歯周疾患の影響を受ける疾患群を概説できる。 4)ペリオドンタル・メディシンに関わる分子生物学的因素について説明できる。 5)ペリオドンタル・メディシンに関わる細胞を説明できる。 6)炎症性サイトカインについて説明できる。	D-14(4)-9)う歯・歯周病と全身疾患への影響 C-4(4)-3) 血栓症 4) 塞栓 5) 梗塞	E-4-6)歯科医師に必要な医学知識 *①代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明 *②主要な医科疾患の症候を説明 *④妊娠時の管理に必要な基礎知識 C-4-3)*③血栓 *④塞栓 *⑤梗塞 E-1-1) 基本的診療技能 *②全身疾患との関連性
10		歯周病学	ユニット9 ペリオドンタル・メディシンの機序	ペリオドンタル・メディシンのメカニズムを理解する。	1)ペリオドンタル・メディシンに関連する科学的分子基盤を説明できる。	B-(4)生活習慣に関連した疾病 C-2-(3)個体の調節機構 1)非特異的防御機構 2)特異的防御機構(免疫系) 3)体液性と細胞性免疫応答 C-3-(2)生体防御【一般特性】 1)免疫系の特徴 2)免疫に関わる組織・細胞 3)自己の確立 4)自然免疫と獲得免疫 【自己と非自己】 1)MHCクラス 2)免疫グロブリンの構造と反応 3)T細胞抗原レセプター遺伝子 4)自己と非自己 【調節機構】 1)抗原レセプターからのシグナル 2)サイトカイン 3)生体防御反応 E-3 免疫 (1)-1)自己抗体 (3)病態と疾患 ①自己免疫疾患 1)膠原病 2)関節炎 ④関節リウマチ 1)病態生理、症状、診断、治療 *2)関節外症状 *3)悪性関節リウ	B-1*②口腔と全身の健康との関連 E-1-1)-*②口腔領域の疾患と全身疾患 C-3-2 免疫 *①自然免疫と獲得免疫 *②細胞性免疫と体液性免疫 *③免疫担当細胞 *④自己と非自己 *⑥アレルギー疾患 C-4-4) *②炎症細胞の種類と働き *③炎症の病理組織学的变化及び経時的变化

回	授業日	授業担当	ユニット番号 ・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	医科 コアカリキュラム	歯科 コアカリキュラム
						マチ *4)若年性関節リウマチ *5)成人 Still 病	E-4-6) 歯科医師に必要な医学知識 E-2-4) (3)*④口腔の特異性炎 *⑤菌血症・ ⑧歯性病巣感染
11		歯周病学 内科学	ユニット 10 ペリオドンタル・メディシンに 関連する全身疾患	ペリオドンタル・メディシンに関連する全 身疾患を理解する。	1) 糖尿病について説明で きる。 2) 循環器疾患について説 明できる。 3) メタボリックシンドローム、肥満について説明 できる。 4) 骨粗鬆症について説明 できる。 5) 早期低体重児出産につ いて説明できる。 6) 誤嚥性肺炎について説 明できる。 7) 関節リウマチについて 説明できる。 8) 菌血症について説明で きる。 9) 動脈硬化について説明 できる。 10) 心筋梗塞について説明 できる。 11) 妊婦について説明でき る。	B-(1)-1) 健康、障 害と疾病 B-(4) 2) 生活習慣と肥 満・脂質異常・動 脈硬化 3) 生活習慣と糖 尿病との関係 生活習慣と高血圧 6) 喫煙と疾患 D 器官の正常構造 4-(4)-2) 骨粗鬆症 5-(1)-1)-(4) 循環 器系 ④弁膜症 ⑦動脈疾患 7-(1) 1) 消化器官 9) 膜外分泌系 12) 消化管ホルモ ン 13) 脣、舌、唾液 腺 *14) 咀しゃくと 嚥下 *15) 消化管の細 菌叢 6-(1) 呼吸器系 1) 構造 10) 防御機構 (4)-② 2) 気管支炎・肺炎 *5) 嚥下性肺炎 10 妊娠と分娩 (4)-2) 異常分娩 12-(4)-⑤糖尿病 1) 病因 2) 急性合併症 3) 慢性合併症 4) 治療 ⑥脂質代謝異常 1) 病因と病態 *2) 予防と治療 14-(4)-9) う歯・歯 周病と全身疾患へ の影響 C-3-(4) 生体と薬 物 【薬理作用基本】 1) 濃度反応曲線	E-4-6) 歯科医師に 必要な医学知識 *①代表的な医科 疾患(内科的疾患) を説明 *②主要な医科疾 患の症候を説明 *④妊娠時の管理 に必要な基礎知識 E-2-1)*⑧嚥下の 機序 C-2-3) (6) 消化器系 *③膵臓の分泌腺 の特徴 (3)*④血圧の調節 機構 (3) 循環器系 *①心臓の構造 *③血管系の役割 *④血液循環と血 管運動、血圧の調 節 (8)*①内分泌器官 の構造・機能・ホ ルモン (7) 呼吸器系 *①気道系の構造 と機能 *②肺の構造と機 能 (10)*①生殖ホル モンによる調節 C-5 生体と薬物 2) 薬理作用 *①薬物療法
12							
13	追加コマ						

回	授業日	授業担当	ユニット番号 ・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	医科 コアカリキュラム	歯科 コアカリキュラム
					<p>2)活性薬・拮抗薬 3)容量反応曲線 【薬物動態】 1)吸收・分布・代謝・排泄 2)生体膜通過に影響する因子 3)投与法 【薬物動態】 1)プラセボの意義 F 診療の基本 2 基本的診療知識 (1)薬物治療の基本 5)循環器作用薬 10)抗菌薬 (5)-1)食事療法 (11)リハビリテーション 1)概念と適応 2)チームの構成 3)福祉・介護との連携</p>	<p>*②分類 *③薬物の作用機序 *④規定する要因 *⑤薬物連用の影響 *⑥薬物併用 3)体内動態 *①連用方法 *②薬物動態 4)生体と薬物 *①薬物の副作用、有害作用</p>	
14		歯周病学	ユニット 11 ペリオドンタル・メディシンに基づいた、歯周疾患治療の基本的考え方と治療計画の立て方	<p>ペリオドンタル・メディシンに関連する全身疾患を理解する。</p> <p>ペリオドンタル・メディシンに基づいた、歯周疾患の治療計画の意義と立て方を理解する。</p>	<p>1) 歯周疾患の診査の目的と意義を説明できる。 2) 医療面接において一般的な事項、主訴、全身の既往症、家族歴、口腔の既往歴と現病歴で聞くべき事柄を列記できる。</p> <p>1) 治療計画の意義を説明できる。 2) 歯周初期治療計画の流れを説明できる。</p>	<p>F 診療の基本 3 基本的診療技能 (1) 問題志向型システム 1) 情報を収集・分析 2) 問題点の抽出 3) 鑑別診断 4) 診断・治療計画の立案 (2) 医療面接 1) 態度 2) 基本的コミュニケーション技法 3) 病歴聴取 4) 患者への説明 (3) 診療記録 1) POMR<問題志向型診療記録>の作成 2) 診療経過の記録 3) 症例提示 (4) 臨床診断 1) 檢査 2) 治療法</p>	<p>F-1 医療面接 F-1-(6)-2)-3) 適切な口腔清掃法を指導できる。 E-1-1) 基本的診療技能 E-3-3)-(3) *・②歯科診療と全身疾患との関連 *・③歯周治療の適応症</p>

回	授業日	授業担当	ユニット番号 ・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	医科 コアカリキュラム	歯科 コアカリキュラム
15		高齢者学		在宅治療が必要な患者、入院患者、担癌患者などに対する口腔ケアができる。	1) 患者に応じた口腔ケア用品を列挙できる 2) 口腔清掃指導の手順を説明できる。 3) 適切なブラッシング法の選択について説明できる。		B-3-2) *③予防 *⑤口腔ケアの意義と効果 F-1 医療面接 F-1-(6)-2)-3) 適切な口腔清掃法を指導できる。 E-1-1) 基本的診療技能 E-3-3)-(3) *・②歯科診療と全身疾患との関連 *・③ 歯周治療の適応症

戦略的大学連携事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」

からだを守る 口腔ケア

口腔医学シンポジウム

平成28年1月9日(土)
13:00~16:00

福岡大学病院
福岡大学メディカルホール
(地下鉄七隈線「福大前駅」と地下通路で直結しています)

〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

プログラム

総合司会	喜久田 利弘 (福岡大学 医学部 歯科口腔外科学講座 教授)
13:00 開会の挨拶	細川 隆司 (九州歯科大学 歯学部長)
13:05 「歯の数と心血管病との関係」	安細 敏弘 (九州歯科大学 健康増進学講座 地域健康開発歯学分野 教授)
13:35 「院外心停止と齶歯」	朔 啓二郎 (福岡大学 医学部長 心臓・血管内科学講座 教授)
14:05 「急性期病院における医科歯科連携口腔ケア —なぜ口の中をきれいにするの?—」	大谷 泰志 (福岡大学 医学部 歯科口腔外科学講座 助教)
14:35 「歯科のない急性期病院への訪問歯科診療 —様々な全身疾患有する患者の口腔管理—」	森田 浩光 (福岡歯科大学 総合歯科学講座 総合歯科学分野 准教授)
15:05 休憩	
15:20 討論	モデュレータ:北村 憲司 (学校法人福岡学園 常務理事)
15:55 閉会の挨拶	石川 博之 (福岡歯科大学 大学長)



申込方法

参加ご希望の方は、住所、氏名、年齢、職業とあわせて「口腔医学シンポジウム参加希望」と明記の上、メール、電話、FAXにて下記までお申込みください。定員になり次第、締め切らせていただきます。(定員300名)

口腔医学シンポジウム申込および問合せ先

福岡歯科大学 企画課

TEL ▶ 092-801-0411(代表) FAX ▶ 092-801-3678
E-mail ▶ kikaku@college.fdcnet.ac.jp URL ▶ <http://www.fdcnet.ac.jp>

資料Ⅱ-2

戦略的大連携事業

「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」

口腔医学シンポジウム

『からだを守る口腔ケア』

日時：平成28年1月9日（土）13:00～16:00

場所：福岡大学メディカルホール

プログラム

総合司会：福岡大学 医学部 歯科口腔外科学講座

教授 喜久田 利弘

13:00 開会の挨拶 九州歯科大学歯学部長 細川 隆司

13:05 「歯の数と心血管病との関係」

九州歯科大学 健康増進学講座 地域健康開発歯学分野 教授 安細 敏弘

13:35 「院外心停止と齶歯」

福岡大学医学部長 心臓・血管内科学講座 教授 朔 啓二郎

14:05 「急性期病院における医科歯科連携口腔ケア

－なぜ口の中をきれいにするの？－」

福岡大学 医学部 歯科口腔外科学講座 助教 大谷 泰志

14:35 「歯科のない急性期病院への訪問歯科診療

－様々な全身疾患を有する患者の口腔管理－」

福岡歯科大学 総合歯科学講座 総合歯科学分野 准教授 森田 浩光

15:05 休憩

15:20 討論 モデュレータ：学校法人福岡学園 常務理事 北村 憲司

15:55 閉会の挨拶 福岡歯科大学長 石川 博之

歯の数と心血管病との関係

安細 敏弘

九州歯科大学 健康増進学講座 地域健康開発歯学分野 教授

口腔と全身の健康との関連を探る疫学調査研究は国内外で広がりをみせ、多くのエビデンスが蓄積されるようになってきた。その一方で、ここ数年の動きとして、それらエビデンスに対する再検証も散見されている。例えば、*Circulation* (2012) の総説によると、Lockhart らは歯周病と心血管病との間に確かに関連はみられるが、因果関係については現時点では言及できるエビデンスに至っていないというスタンスをとっている。また、一般的には、曝露因子として歯周病の病態か歯の数（もしくは喪失歯数）の2つが用いられており、片方のみの場合もあるし両方でみている場合もある。Holmlund ら (*J. Periodontol.* 81: 870-876, 2010) によると、5 カテゴリに分けた歯の数と 4 カテゴリに分けた歯周病の病態の両方を曝露因子として心血管病との関連を調べているが、12 年間追跡して有意な関連がみられたのは歯の数の方だった。さらに、最近興味深いのは、Schwahn ら (2013) は単に歯の数を曝露因子にするのではなく、unreplaced teeth (補綴されずに放置された歯の数) を用いており、その数が多いほど、全死亡や心血管病による死亡が有意に多かったが、歯の数やアタッチメントロスによる歯周病の病態でみた場合には、心血管病による死亡との間に有意な関連性はみられなかつたという。さらに Janket ら (2013) は天然歯のみのケースよりも部分床義歯で補綴されているケースの方が心血管病による死亡が少なかつたと述べており、根尖病巣や智歯周囲炎等の炎症の引き金になるような潜在因子が適切に除去されているかどうかも重要な要因であると指摘している。Liljestrand ら (*J. Dent. Res.* 94: 1055-1062, 2015) によると、喪失歯が多いほど心血管病による死亡リスクは有意に高いが、実は無歯顎者の方がリスクが低かったという。この所見に関する詳細なメカニズムは不明であるが、やはり口腔内にある何らかの慢性炎症状態を除去しメンテナンスをしておくことは心血管病の発症予防に有用かもしれない。

本講演では、先行研究からみえてくる問題点や課題に触れながら、今後、調査研究を始める場合の留意点についても言及したいと考えている。

院外心停止と齲歯

朔 啓二郎

福岡大学医学部長 心臓・血管内科学講座 教授

齲歯や歯周病が冠動脈疾患と関連する報告は多い。慢性炎症が動脈硬化を進展させる理論の延長線上にあるが、歯科疾患と院外心停止（out of hospital cardiac arrest: OHCA）や心臓突然死との関連をみた研究はない。突然死は、「症状が出現してから 24 時間以内の予期しない内因死」と定義されているが、日本では年間約 10 万人の OHCA（病院外での心肺停止）が発症し、このうち 55-60%が心原性 OHCA である。80%は自宅で起き、目撃率、心肺蘇生率、生存率（予後）は、駅などの公共施設より自宅で発症する方が悪い。私達は消防庁との共同で、心肺停止傷病者活動記録・救命処置録（ウツタイン様式）のデータ化により、約 80 万人のビッグデータを取得し、様々な解析を行っている。今回、2005 年から 2011 年までの各都道府県別での年齢調整後の齲歯有病率と心原性・非心原性 OHCA の関連を検討した。齲歯に関しては厚生労働省の傷病分類編のデータベースを利用した。心原性 OHCA 435,064 件（55.4%）、非心原性 OHCA 350,527 件（44.6%）が含まれ、各都道府県での年齢調整後の齲歯有病率は、総 OHCA 発生率、心原性・非心原性 OHCA との間に相関はなかったが、65 歳以上の男性において齲歯と心原性 OHCA に正相関があった。口腔衛生が OHCA と関連する可能性が初めて示唆された。OHCA に対して自動体外式除細動器（AED）を用いた電気ショックが行われるが、AED 使用回数が年間約 1,800 回と圧倒的に少ないため、心肺蘇生法や AED の迅速な使用のための講習会や啓発活動などの重要性を提言している。

急性期病院における医科歯科連携口腔ケア

—なぜ口の中をきれいにするの？—

大谷 泰志

福岡大学 医学部 歯科口腔外科学講座 助教

口腔内の疾患が全身に及ぼす影響については世界的に様々な調査研究がなされています。2011年にアメリカで行われた米国心臓病協会学術大会では、台湾における10万人以上の大規模調査で、歯石除去を行ったことがある人は、急性心筋梗塞、脳卒中、総心血管疾患のリスクが減少するという報告がなされました。また日本糖尿病学会は、2013年の科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドラインにおいて、歯周病との相互関係を示し、歯科受診と治療を勧めています。また、高齢者における誤嚥性肺炎に対しては、口腔ケアがその予防に有効であることは周知の事実となっています。古くから口腔内の細菌による全身疾患へのリスクは論じられていましたが、実際に証明され口腔ケアの重要性が証明されています。

こうした慢性的な口腔疾患による全身へのリスクが示されるなかで、手術前後における口腔ケアによるベネフィットも示されるようになりました。2010年、手術前の食道がん患者に対し術前に1日5回の歯磨きを行うように指示したところ、特に指示を行わなかった患者に比べ術後肺炎が少なかったという論文が発表されました。これは日常生活の中でだけでなく、手術という非日常の中でも口腔の管理が重要であるということを端的に示しています。ほかにも様々な報告があり、2012年から周術期口腔機能管理が健康保険に加わりました。口腔の環境を整えることで合併症を減少させることができるということが認められたことになります。全身麻酔下で頭頸部領域、呼吸器領域、消化器領域などの悪性腫瘍の手術を行う患者、全身麻酔下で臓器移植手術、心臓血管外科手術などを行う患者、放射線治療や化学療法を行う患者が対象となっています。2014年の報告では、口腔ケアによる介入で、こうした手術後の入院日数や合併症が減少しているという報告がなされています。

この周術期口腔機能管理は医科と歯科の連携がなければできるものではありません。特に急性期病院ではおおよそ2週間程度という短い入院期間にあわせての介入となります。十分な口腔管理のためには、病院内での連携だけではなく、かかりつけ歯科の存在が重要となってきます。今回のシンポジウムでは、福岡大学病院における各科と歯科口腔外科の連携と、これから医科歯科連携のあり方について述べさせていただきます。

歯科のない急性期病院への訪問歯科診療

—様々な全身疾患を有する患者の口腔管理—

森田 浩光

福岡歯科大学 総合歯科学講座 総合歯科学分野 准教授

我が国は世界の中で最も長寿国であり、少子高齢化が進んでいます。平成27年5月の人口統計調査結果では、平成26年12月1日現在で65歳以上の高齢者人口の総人口に占める割合は26.1%と過去最高を更新しました。また、人口動態統計による主な死因別にみた死亡率の年次推移では、平成23年より肺炎が脳血管疾患を抜き第3位となりました。高齢になると口腔機能が低下して唾液の飲み込みがうまくできず、気管に入ってしまう誤嚥がみられることがあります。口の中が汚い状態のまま放置されれば唾液中に多くの細菌が混入し、肺炎を起こすリスクが高くなります。そのため、高齢者の摂食・嚥下機能を含む口腔機能の低下や口腔清掃状態の不良に対しては、専門的な口腔ケア医療が重要視されています。一方で、平成20年の患者調査では、70歳以上の高齢者の歯科受診が減少していることが報告され、高齢者の口腔機能維持に関わる重要な問題となっています。

本学医科歯科総合病院の総合歯科・高齢者歯科においては、このような現状を見越して平成11年10月に歯科訪問診療を開始し、主に近隣の介護老人保健施設を中心とした回復期の患者さんの歯科診療を行ってきました。さらに周術期・急性期の口腔管理を目的に、昨年5月より近隣の歯科診療部門を持たない地域密着型急性期病院への歯科訪問診療を開始しました。この急性期病院は、本院と第三次救急指定病院である福岡大学病院の中間に位置し、本院から約2kmの距離にある病床数198床の中型の第二次救急指定病院です。周囲には本学内に併設されている介護老人保健施設や介護老人福祉施設のほか、介護療養型医療施設などが多数存在し、これらの施設はこの急性期病院はもちろん、福岡大学病院や近隣の病院と連携をとっています。そのため、この急性期病院は周辺の高齢者介護施設から多くの患者さんを受け入れており、この病院で終末期を迎える患者さんも少なくありません。

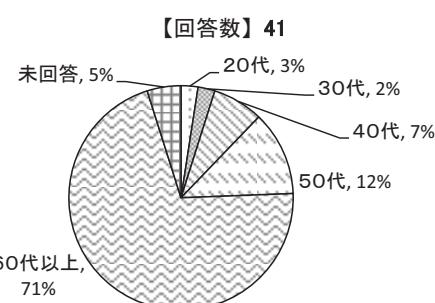
今回、この急性期病院に入院中の様々な全身疾患を有する患者さんへの本院による歯科訪問診療活動の現状を紹介し、口腔ケアや医科歯科連携の意義についてお話ししたいと思います。

資料Ⅱ-3

平成27年度口腔医学シンポジウム アンケート【一般】

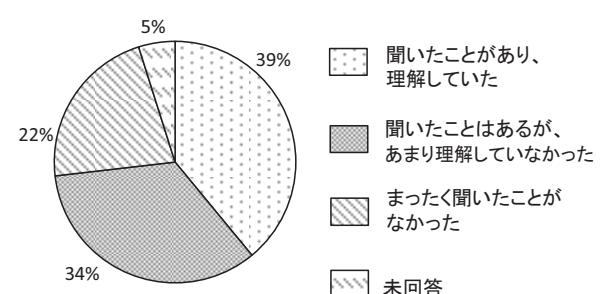
1. あなたの年齢を教えてください。

a 20代	1
b 30代	1
c 40代	3
d 50代	5
e 60代以上	29
未回答	2
合計	41



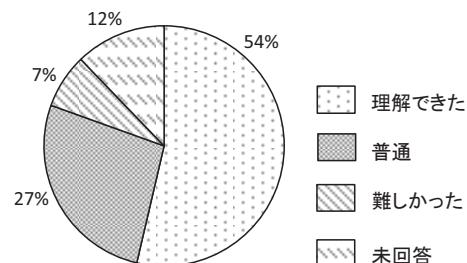
2. 講演よりも前に口腔医学について話を聞いたことはありますか。また、理解していましたか。

a 聞いたことがあり、理解していた。	16
b 聞いたことはあるが、あまり理解していなかった。	14
c まったく聞いたことがなかった。	9
未回答	2
合計	41



3. 講演はわかりやすかったですか。

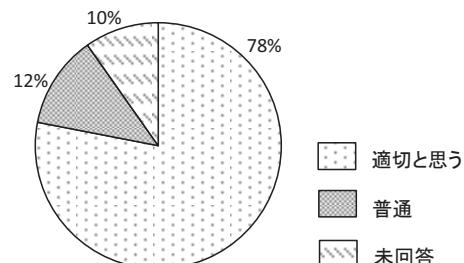
a 理解できた	22
b 普通	11
c 難しかった	3
未回答	5
合計	41



4. 講演者の人選は適切でしたか。

a 適切と思う	32
b 普通	5
c 適切とは思わない	0
未回答	4
合計	41

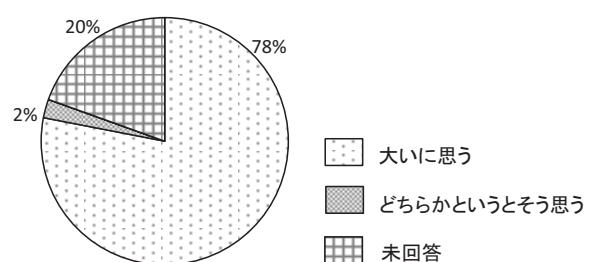
・総合的な面から教授、実践的な面から助教、中間職の面から准教授の人選がなされており大変いいのかなと思いました。



5. これから歯科医療にとって口腔医学の確立が必要だと思いますか。

a 大いに思う	32
b どちらかというとそう思う	1
c どちらでもない	0
d あまり思わない	0
e 全く思わない	0
未回答	8
合計	41

・高齢者の増加にあたり口のケアについて進歩した医療が必要だと思います。



6. 討論してもらいたいテーマがありましたらお聞かせください。

- ・口腔ケアのエビデンスの充実化(データ化)
- ・介護の必要な方にとっての口腔ケアの重要性。介護者への認識(認識の低さが気になります)
- ・口腔医学と脳(学力)の相関。(幼児期の口腔ケア)
- ・いまのところ、思いつくことが特にありません。認知症と歯科口腔ケアのありかたについて?認知症の早期発見に歯科が関与できることは?
- ・糖尿病についてのテーマで講演をお願い致します。
- ・孫が(小4男児)永久歯のはえ方が悪いとのことで定期的に通っていますが、レントゲンは身体に影響しませんか?
- ・歯周病の予防と治療について
- ・便がスムーズに出ないので腸の働きなどについて知りたい。
- ・インプラントについて歯根への影響とケアについて。
- ・血管に関する事。または栄養について予防。
- ・免疫疾患(関節リウマチと歯科について)

7. また、講演者はどのような方がよいとお考えですか。

- ・糖尿病対策に詳しい方。
- ・診療医(実例をベースに)
- ・実践の立場のDrから直面している問題点等に関するテーマで、2テーマくらいについて(助教2人)聞ければと思います。
- ・血液内科
- ・産業医科大学病院の先生方

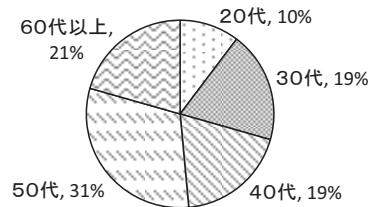
8. その他、口腔医学に関して御意見がありましたらお聞かせください。

- ・非常に参考になり勉強になりました。
- ・今日は大変お勉強になりました。わかりやすい説明ありがとうございました。口腔ケアの大切さ、身にしみて感じました。
- ・今回の勉強で口腔ケアの大切さがわかりました。もっと勉強する機会があればよいのだと思います。父の通院でいろいろな科に行きましたが、口腔ケアについて特に言われることはありませんでした。病院でも口腔ケアの必要性を話していただけたらと思います。
- ・口腔医療についての講演ありがとうございました。本当に勉強になりました。以前、総合病院に勤めていたものですから興味があり、参加させていただきました。有難うございました。
- ・今回話を聞かせていただいて口腔ケアの大切さを感じました。口だけでなく他の臓器にも大きな影響を与えるということを改めて知り、歯磨きフロスでの歯垢の除去を頑張らないといけないと思いました。ありがとうございました。
- ・討論の時間、素朴な質問などにも丁寧に回答されていて、とても聴きやすかったです。口腔ケアの重要性に対する意識が高まりました。
- ・自分の体調、健康状態を考える上で歯科と医科はもっとかかわっていただきたいと思いました。
- ・今後、北九州でもシンポジウムを開催して欲しいです。
- ・私は老齢で歯は手遅れで諦めていますが、子供達には早くから学校で教えるとかわかりやすく予防及び口腔に関してのお話をしていただきたいと思います。
- ・①自宅で療養している高齢者に対する訪問栄養指導と訪問口腔ケアが今後大いに必要になってくる。②中核都市にある精神科病棟に人が長期入院しているが、7~8年のうちに歯がぼろぼろになっていることに気づいた。口コモティブも相当悪化しており、病棟内でも車いすを利用している。保護者も認知障害がある重度精神障害者ですから、状況が把握できない模様。もう「廃人」に近いかも。打つ手がありません。お金の問題なのか、病院がおそまつなのか。この中核都市はどの病院もおそまつ。
- ・歯科連携のない病院で、看護師さんが時間を割いて口腔ケアをするが、ベット上で行うには苦労が多いと思う。毎日昨日と同じ汚れた状態を何度もきれいにされているが、他の処置もあり、口腔内清掃は専門とはいえないのではないか、限界があると思う。先生方の連携がうまくいき、入院中の方の口腔内清掃を歯科医だけでなく歯科衛生士さんが関わるようになればよいのではと思った。
- ・8020運動の事を考えるにあたって、歯はできるだけ残そうすべきなのか—残そうとするクリニックDr。次々と抜歯するのがよいのか—すぐ抜歯するDr(クリニック)どちらがいいの…。インフォームドコンセントがほとんどない。残すメリット、デメリット、抜歯のメリット、デメリット。残せば金にならない。抜歯すれば金になるで、Drの考え方次第では困るのです！！
- ・中央区です。現在、医科大学で血圧異常、肺炎、内科のくすり、筋肉のくすりを飲んでますが、27年11月16日、3ヶ月はくすりを飲まないでくださいと電話があり、28年2月始め頃(3ヶ月目)電話があると思うのです。今は血圧のくすりだけ飲んでます。
- ・顎関節の異常などのような症状になり、口腔、顔が変わってくるのか。
- ・私は人工股関節を入れており口腔ケアには特に注意しております。一般の市民がこの様な機会をえて頂き学べることに感謝します。
- ・顎関節症で福大にて治療して貰いました。足が悪く、年金生活になり、持病の治療及び薬代だけで精一杯です。これから先動けなくなったら病院へ行くのも一苦労です。訪問診療は大いに賛成です。宜しくお願いします。
- ・以前から口腔については関心がありましたのでとても興味深く聞くことが出来ました。明日からでもケアに行くことにします。舌についてもう少し聞きたかった。

平成27年度口腔医学シンポジウム アンケート【医療関係者】 【回答数】 68

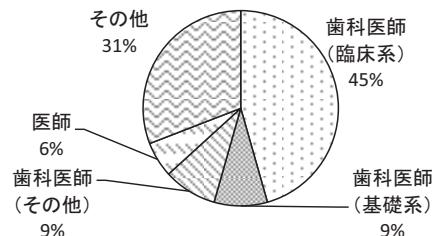
1. あなたの年齢を教えてください。

a 20代	7
b 30代	13
c 40代	13
d 50代	21
e 60代以上	14
合計	68



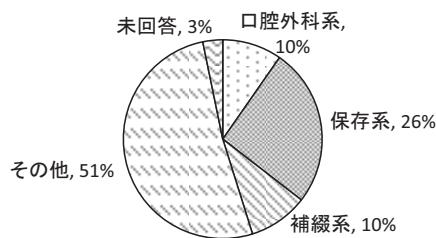
2. あなたの専門分野を教えてください。

a 歯科医師(臨床系)	31
b 歯科医師(基礎系)	6
c 歯科医師(その他)	6
d 医師	4
e その他	21
合計	68



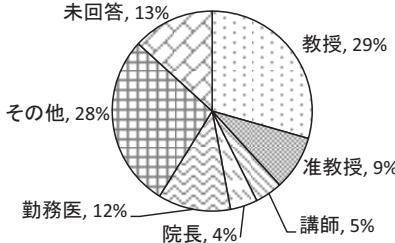
・aと答えた方にお尋ねします。専門の診療科を教えてください。

a 口腔外科系	3
b 保存系	8
c 補綴系	3
d その他	16
未回答	1
合計	31



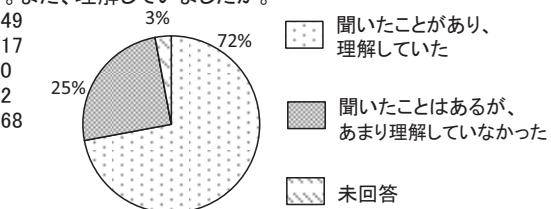
3. あなたの職階について教えてください。

a 教授	20
b 准教授	6
c 講師	3
d 院長	3
e 勤務医	8
f その他	19
未回答	9
合計	68



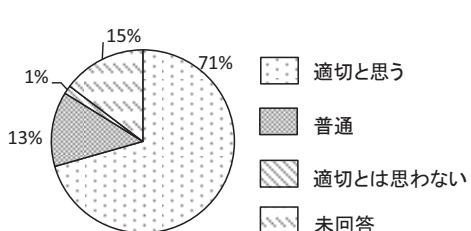
4. 講演よりも前に口腔医学について話を聞いたことはありますか。また、理解していましたか。

a 聞いたことがあり、理解していた。	49
b 聞いたことはあるが、あまり理解していなかった。	17
c まったく聞いたことがなかった。	0
未回答	2
合計	68



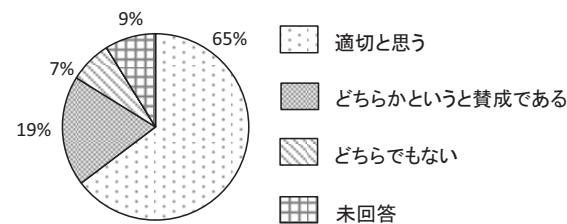
5. 講演者の人選は適切でしたか。

a 適切と思う	48
b 普通	9
c 適切とは思わない	1
未回答	10
合計	68



6. 歯学教育における医学教育の時間をこれまで以上に増やすという考え方に対して、あなたの意見をお尋ねします。

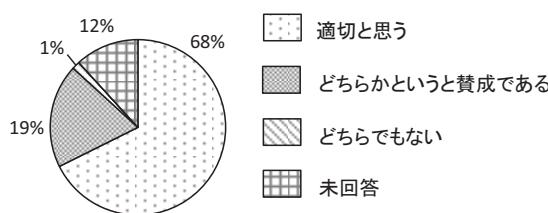
a 大いに賛成である	44
b どちらかというと賛成である	13
c どちらでもない	5
d どちらかというと反対である	0
e 全く反対である	0
未回答	6
合計	68



・卒後の教育多くの機会が必要だと思う。

7. 医学教育において、口腔医学を取り入れた教育を行うことについて、あなたの意見をお尋ねします。

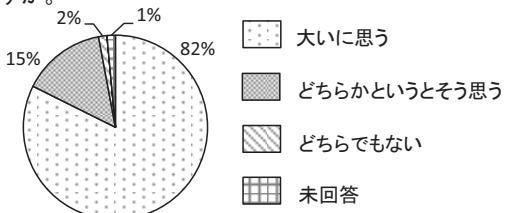
a 大いに賛成である	46
b どちらかというと賛成である	13
c どちらでもない	1
d どちらかというと反対である	0
e 全く反対である	0
未回答	8
合計	68



・卒後の教育多くの機会が必要だと思う。

8. これからの歯科医療にとって口腔医学の確立が必要だと思いますか。

a 大いに思う	56
b どちらかというとそう思う	10
c どちらでもない	1
d あまり思わない	0
e 全く思わない	0
未回答	1
合計	68



・医科・歯科連携をすすめるための大学データや講演会が重要と思う。

・誤嚥による肺炎が原因の死亡率が上がっており、咀しゃくや嚥下機能と口腔医学の関連性が強いと考える。以前は自然死とされた人の尊厳死とのこれから長寿社会との問題は大きい。

9. 討論してもらいたいテーマがありましたらお聞かせください。

- ・歯科医学、口腔医学は医学という共通言語をもっているということがよくわかりました。しかし、共通言語で語りにくい領域というのがあるように感じます。特に補綴修復領域等の言語を医科向けに翻訳するようなテーマはいかがかと感じます。
- ・口腔内の衛生状態と妊婦について。母親の口腔状態と子供のう蝕について。
- ・医科歯科連携システムの確立
- ・口腔ケアに関わる他職種連携の具体例
- ・多職種連携をメインテーマとしたもので、地域における多職種連携での有効な口腔ケアの検討
- ・毎日のセルフケアについて
- ・医科歯科連携をとるのに必要なこと
- ・保険医療でどこまで歯科治療をすべきか、歯科治療が可能か。
- ・医科側と歯科側の情報共有と基準の標準化。各口腔ケア分野におけるケア側の実践現場の増強。
- ・睡眠時無呼吸症候群と歯科(口腔)。口腔機能と介護予防。
- ・糖尿、関節など全身疾患との関連についてまだまだ知りたい。
- ・歯科と精神疾患
- ・多職種連携
- ・薬剤が口腔内環境に及ぼす影響。咀嚼が超高齢者の健康増進に及ぼす影響。
- ・成人以降の口腔疾患と全身疾患。高齢者の地域口腔医療。
- ・栄養、認知症
- ・地域医療従事者からみた口腔医学
- ・100年後の歯科医療
- ・在宅医療
- ・嚥下機能への歯科医のかかわり
- ・咀しゃく機能と誤嚥について
- ・定期的歯周ケア受診することの全身的なメリット、する人・しない人での全身疾患リスク差、10~20年後の介護度の話のなど、周術期処置の話のつづき。
- ・口腔内管理と全身の関連
- ・医療関係者向けの内容をお願いしたいと思います。(特に基礎医学の内容で)

10. また、講演者はどのような方がよいとお考えですか。
- ・医学の教育的背景を持ち口腔医学の環境で働いていらっしゃるような方がよいのではないかでしょうか。
 - ・市民向ければ、女性の演者などがいてもよいと思いました。少し内容が難しかったかも。
 - ・口腔医学に理解のあるMDがよいと思います。
 - ・大学関係者、地域歯科医院関係者、行政保健科関係
 - ・医師、栄養士
 - ・歯科医学教育、補綴、高齢者歯科
 - ・他職種を入れる(今回は医師、歯科医師のみ)。看護師、歯科衛生士、言語聴覚士etc.
 - ・看護師
 - ・医科、歯科それぞれの先生
 - ・加藤智崇
 - ・基礎医学の先生と臨床医学の先生の割合が1:1になるようにお願いしたいと思います。
11. その他、口腔医学に関して御意見がありましたらお聞かせください。
- ・歯周病との関連は弱いとステージ上で言われたのは困った。「原因にならないが強い修飾因子である」と言って欲しかった→安細・北村両先生。2人とも真面目すぎる。実際、口腔への介入がベットタイムを短くしているというデータがあるわけだから。
 - ・有意義なシンポジウムをご企画いただきありがとうございました。お疲れ様でした。
 - ・口腔内科、口腔外科的な考え方方が今後、必要になってくると思います。高齢者の医科受診率はup、歯科外来受診down。歯科外来を受診できない高齢者へのフォローについてどう対応していったらよいのか?
 - ・周術期や有病者の歯科治療を行うことのできる歯科医師を育てるために、学生か研修医がまず保存および補綴治療を学ぶ環境が必要だと思います。研修医になんでも見学ばかりで治療できない先生が多い。開業医の先生でも歯周病については衛生士まかせで、早期の歯周治療や定期管理ができないところも多い。退院されたあと、口腔ケアを継続してくださる連携医を増やすことが重要だと思います。
 - ・自分の歯でおいしく食事することが健康につながると思うので健康な歯となるべくたくさん残すための子供のころからの口腔医学教育をお願いしたいです。
 - ・社会へアピールを継続していくことが大事だと思います。
 - ・現在のような歯科と医科を切り離した教育は明治期の補綴を中心とした歯科の視点のままであり、現状の医療には合うものではないと考えます。あくまでも医学の中の一分野としての歯学教育の発展が望されます。
 - ・いつもお世話になっております。
 - ・推進し、社会に対して情報発信してほしい。
 - ・現在の歯科医学教育では必要なことだが、歯科専門の教育がおろそかにならないようにカリキュラムを考えてほしい。
 - ・生活習慣関連疾患に関わる科や学会同士の交流が重要かと思われる。
 - ・歯科以外の分野の先生の講演を聞くことができて勉強になりました。

資料Ⅲ-1

平成 27 年度 戦略的大学連携事業 FD ワークショップ 実施要項

FD ワークショップの趣旨

今回の FD では、多（他）職種連携をテーマの中心に据えて、各大学の考え方、方向性、取組み内容などを発表していただき、現状を把握し、将来的な展望を検討する。

ワークショップ実施要領

1. 実施日・時間

平成 27 年 11 月 18 日（水）

開始時刻：17 時 終了予定時刻：20 時 20 分

2. 実施場所

各連携大学内の TV 会議室

3. 方法

TV 会議システムにて実施

4. 参加者

発表者および討論参加者（その他の聴講者も歓迎いたします）

5. テーマ

「今求められている多（他）職種連携授業」

6. 実施概略

- ◆ TV 会議システムを利用し、当該テーマについて PowerPoint 等を利用して発表する。
- ◆ ①多（他）職種連携に求めるもの、②各大学の取り組み状況、
③各大学で実施可能な授業・特色を生かした授業、④必要なシラバス等を整理し、口腔医学を学ぶために適した教育の在り方を検討する。
- ◆ 1 大学あたり発表時間 15 分・質疑応答 5 分、合計 20 分（8 大学合計 160 分）
- ◆ FD 終了後、福岡歯科大学が各大学の発表内容と質疑を取りまとめて、後日 FD プロダクトとして連携校に配布する。
- ◆ 総合司会：北海道医療大学

7. 参加される大学へのお願い

各連携大学につきましては、11 月 2 日（月）までに①発表テーマ、②発表者、③概要（200 字程度）、④討論参加者（予定）を、添付の Excel ファイルに、記入例を参考にしてご記入の上、福岡歯科大学・企画課（renkei@college.fdcnet.ac.jp）まで e-mail にてご連絡ください。

資料Ⅲ-2

平成 27 年度戦略的大学連携事業 FD ワークショップ 11 月 18 日 (水)

進行表

総合司会：安彦教授（北海道医療大学）、進行：池邊教授（福岡歯科大学）

時間	内容	担当	
17:00-17:05	開会の挨拶	斎藤歯学部長（北海道医療大学）	
17:05-17:10	本日のFDの進行の説明	安彦教授（北海道医療大学）	池邊教授（福岡歯科大学）
17:10-20:00	「今求められている 多（他）職種連携授業」 各大学発表 15 分 質疑応答 5 分	17:10-17:30	北海道医療大学
		17:30-17:50	鶴見大学
		17:50-18:10	岩手医科大学
		18:10-18:30	神奈川歯科大学
		18:30-18:40	休憩
		18:40-19:00	昭和大学
		19:00-19:20	九州歯科大学
		19:20-19:40	福岡大学
		19:40-20:00	福岡歯科大学
20:00-20:15	全体討論 質疑応答 まとめ	安彦教授（北海道医療大学）	
20:15-20:20	閉会の挨拶	安彦教授（北海道医療大学）	

当日用意していただくもの： パワーポイント等で作製したプロダクト

発表用のPC

資料Ⅲ-3

平成27年度 戦略的大学連携事業 FDワークショップ

開催日時：平成27年11月18日（水） 17時開始

大学名	①発表テーマ	②発表者	③概要	④討論参加者（予定）
① 北海道医療大学	北海道医療大学における多職種連携教育の取り組み	豊下 祥史	本学歯学部では、超高齢社会を見据えて福祉施設実習、訪問歯科診療やチーム医療の実践を学部の特色として掲げ、多職種連携教育に取り組んでいる。第1学年から多職種連携に触れる機会を設け、第2～4学年では他学部と連携し基礎的知識の習得を、また第5学年の臨床実習では学外施設において実習を行っている。さらに今年度は、多職種連携に特化した実習室も新設され、教育の質、量ともに充実されたものとなっていく。本発表ではこれらの取り組みの概要や今後の展望について報告する。	安彦 善裕 加藤 幸紀 佐々木 みづほ 官 悠希
② 鶴見大学	学生参加型卒前臨床実習における多職種連携についての検討 —現在の問題点のまとめとその対応について学生ワークショップの結果から—	小川 匠	鶴見大学歯学部においては、学生参加型臨床実習の当番として、歯科の受付業務、衛生士業務、初診室の業務について、約10名の班毎に一週間単位での実習を行っている。これらの実習は、歯科医療を取り巻く実質的なコ・デンタルの衛生士、技工士、受付の多職種連携であり、最も基本的な歯科教育カリキュラムと考えている。そこで今回、臨床実習教育の基本的な連携業務、受付業務、衛生士業務、歯科技工業務の学生担当職員に現状と問題点をまとめ、それらの意見について学生にワークショップを実施し、歯科のコアとなる多職種の重要性とその教育のあり方について検討を加えた。	大久保 力廣 小川 匠 中村 善治 山崎 泰志 重田 優子 新保 秀仁
③ 岩手医科大学	卒前教育における効果的な多職種連携授業の導入を考える	阿部 晶子	近年、多職種が連携したチーム医療の導入が推進されており、岩手医科大学附属病院においても、歯科医師を中心とした多職種によるチーム医療の取り組みが積極的になっている。一方、本学歯学部における卒前教育への導入は、チーム医療に関する講義や医・歯・薬学部による緩和医療をテーマにしたコンセンサスワークショップなどがおこなわれている。また、5年時における臨床実習においても、多職種連携を理解するための実習を検討中である。今回は、現在本学で行われている多職種連携授業の紹介および臨床実習における取組を報告させていただきます。	小豆島 正典 千葉 俊美 佐藤 和朗 石崎 明
④ 神奈川歯科大学	超高齢社会における多(他)職種連携のための歯学教育について	森本 佳成	本学がある三浦半島（横須賀市および周辺市町村）は高齢化が進んだ地域であり、独居高齢者比率も高い状況です。安全で質の高い歯科医療のために、歯科医療職のみならず医療および福祉関係の職種との連携が欠かせません。本学では現在、この領域の卒前・卒後教育改革を推進中であり、附属病院の将来構想も含めたうえでの教育方針を提示しますので、ご意見を頂きたく存じます。	森本 佳成 飯田 賀俊 星野 由美 一色 ゆかり 菅谷 彰 木間 義郎 湯山 徳行 木本 茂成 木村 幸司 櫻井 孝
休憩				
⑤ 昭和大学	学部連携医療実習の現状と今後の課題	石川 健太郎	昭和大学では1年次から実施しているチーム医療学習の総まとめとして、「学部連携病棟実習（必修）」、「学部連携地域医療実習（選択制）」を実施している。超高齢社会において、歯科医療職種が多職種連携医療に係る場面としては、急性期よりも慢性期・在宅が多くなると予想される。本日は、これらの学部連携実習の概要を説明するとともに見えてきた問題点を提示し、今後の展開についてご意見いただければ幸いです。	石川 健太郎 久保田 一見 村上 浩史
⑥ 九州歯科大学	九州歯科大学における高齢障害者歯科学実習	柿木 保明	九州歯科大学では、歯学科5年生に対して、高齢者歯科学実習および臨床実習の一環として、学外実習を行っている。施設は、高齢者施設および老人病院で、口腔ケアや摂食嚥下リハビリテーションを中心とした業務について、どのような職種の方がどのように関わっているかを実践の現場で学ぶよう工夫している。学外実習を開始する前に、学びたい内容等に関する学生によるワークショップを行い、実習終了後にも報告会を兼ねたワークショップを行うことで、学習効果が上げるようにしている。なお、次年度からは、周術期口腔ケアに関して学外の総合病院における臨床実習を予定している。	細川 隆司 清水 博史 森本 泰宏 正木 近藤 祐介 田中 達朗 鬼頭 慶司 小田 昌史 柄 健太郎
⑦ 福岡大学	今求められている多職種連携教育	出石 宗仁	医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいては、各種医療従事者の役割分担を理解して「患者中心のチーム医療」に参加できる能力の習得が、また地域医療実習では「多職種連携のチーム医療」を体験することが目標となっている。 本学では平成19年看護学科開設に合わせて医学科1年生の看護実習を看護学科と合同で行ったが平成24年看護学科のカリキュラム変更等により現在は実施していない。 一方医療の現場では極めて多くの職種の連携がますます重要なになってきている。大学病院における医科と歯科の連携に関するアンケート結果をみても組織的連携は十分とはいえない状況である。 卒前からの多職種連携教育は医療の充実のみならず医療事故防止の観点からも極めて重要なと思われる。 本学では薬学部からも連携教育の申し入れがあり、早期実現に向けて検討が必要であり、先進的に実施されている大学の事例を参考にさせて戴きたい。	喜久田 利弘 瀬戸 美夏 大谷 泰志 喜多 晴介 松田 道隆 成平 恭一 川島 次郎
⑧ 福岡歯科大学	福岡歯科大学の多職種連携教育の現在・未来	牧野 路子 森田 浩光 晴佐久 悟	現在、本学では多職種連携を目的とした授業はないが、介護職員と連携した介護教育、及び、医師、看護師、言語聴覚士、介護福祉士等と連携した訪問診療教育を実施している。介護教育では、要介護高齢者に対する歯科医師育成を目的として、隣接する老人介護施設で1、3、5学年に於いて実習を行っている。訪問診療教育では、臨床実習生が急性期病院への訪問歯科診療に同行し、多職種が連携して診療が行われる現場を体験している。このような授業により、学生の高齢者に対するイメージが介護実習前後で大きく改善する等の効果が認められている。しかし、口腔医学を実践する多職種連携教育のためには、多職種連携に必要な知識・技術をさらに習得する必要がある。したがって、教育のさらなる充実化が必要であり、その一環として学内FD担当者と協議した結果を報告する。	池邊 哲郎 米田 雅裕 吉永 泰周 都築 尊 松崎 英津子 天野 郁子

資料Ⅲ-4

平成27年度戦略的大学連携事業
今求められている多（他）職種連携授業

北海道医療大学における多職種連携教育の取り組み



北海道医療大学歯学部
咬合再建補綴学分野
豊下祥史

他学部との連携講義・実習
(歯学部としての取り組み)

「看護福祉概論」(第1学年、看護福祉学部との連携)
「医療人間学演習」(第1学年、介護老人福祉施設での早期体験実習)

「医療薬学概論」(第2学年、薬学部との連携)

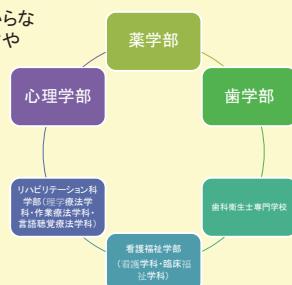
「人体運動科学」
(平成26年度から第3学年に開講予定、リハビリテーション科学部との連携)

「医療行動科学」
(平成27年度から第4学年に開講予定、心理科学部との連携)

他学部との連携講義・実習 (全学としての取り組み)

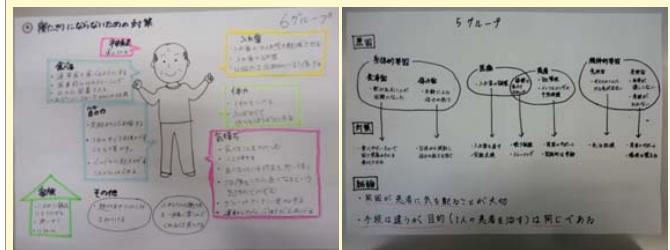
「個体差健康科学・多職種連携入門」(第1学年)

すべての学部、学科の学生からなる
グループを作り、あるテーマや
課題の解決について考える。



歯学部教員が講義担当時のテーマ

「インフルエンザで入院後、誤嚥性肺炎で
寝たきりになった高齢者のビデオを閲覧し、
その背景にある原因を考える。」



学生によるプロダクトの一例

「臨床実習」(第5学年)

1 シミュレーション実習

《平成27年度新設》
多職種連携シミュレーション実習室





高機能患者ロボット シムロイドを用いた実習



要介護者の車椅子からの移乗練習



(病室編)

(居宅編)

訪問口腔ケア実習



要介護高齢者の摂食嚥下機能訓練



摂食嚥下や口腔ケアの相互実習

2 地域支援医療科 訪問診療実習

訪問診療において、診療チームの一員として診療に参加し、要介護者を安全に診療するための知識・技能・態度を修得することを目的としている。

- ・要介護者の診療介助
- ・口腔ケアの実施
- ・その他、簡単な処置の実施

患者数は1日約5～10名



3 施設実習

福祉施設において、高齢者・要介護者の「生活モデル」を理解し、臨床実習生（歯科医師）として何ができるのか、歯科診療上の留意点は何かなど、要介護者の安全な診療のために必要な知識・態度・技能を習得することを目的としている。

また、歯科医師と介護スタッフとの連携の重要性を理解し、さらにコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

学生受け入れ施設数：5施設
1施設あたり学生5～6人ずつ実習



4 学外実習(一般開業医)

- ・大学だけではなく、一般開業医における総合的な歯科治療の流れを把握する。
- ・地域で活躍する優れた歯科医師から指導を受けることによって、医療人としての視野を広げる。
- ・総合的歯科治療の実践によりさまざまな場面でのコミュニケーション能力を高める。



平成27年度
臨床教授 7名
臨床准教授 7名



大学における縦割りの専門診療科での実習と違い、総合歯科診療を学べるメリット。

5 学外実習(病院歯科)

歯科外来・口腔外科外来・病棟才ペ室での実習はもちろんのこと、内科、耳鼻科、放射線科、麻酔科、薬剤部等歯科領域と関わる隣接医科領域との連携を学ぶ。



実習後の感想から

今回の研修を通じて先生から学んだ事はこの7行で、当然書き忘れてはいけない事和田さんでした。臨床の場で役立つ事例医=5/1/21と今すぐ感じることができた。

今回の施設研修で見てきた高齢者とのコミュニケーションなどもこれからも役に立つと思います。

感動せんじで受け取れ、自分の身に合わせて、本音に新しい発見はありました。
自分は過度にいいせいではなかった成績の達成感を持った。
2022年4月7日先生に「手近な本を読み、また輝かせて」と言葉を贈りました。

- ・大学で学べないことがたくさん学べた
 - ・患者にたくさん接することが出来た
 - ・実際の臨床現場を見て、勉強のモチベーションもあがった
 - ・学外研修の期間を延長してほしい
 - ・場所が遠く交通費が結構かかった
 - ・学外研修でもっと色々なところをローテーションすればいいと思った
 - ・大学内での臨床実習を行つから行きたかった

学生の変化

- ・他職種連携教育への取り組み前と比べて、積極的に診療に参加しようとする意欲と態度が認められる。
 - ・実習後のレポートの記載内容がより具体的になり、考察内容には実際の失敗談から自己問題解決能力を示す内容の記載が増え、文章も昨年と比較して質が向上している。
 - ・診療チームの一員であるという自覚が感じられる。
 - ・色々な実習を組み込んでいるので、楽しんでいる様子。

新時代の歯科医師に求められるコンピテンシー

Competencies required for dentists in the new era - Health Sciences University of Hokkaido -

- 1) Knowledge of dentistry and the related medicine, and solid clinical skills
歯科医学、関連医学の知識と確かな臨床技能
 - 2) Professionalism and ethics
プロフェッショナリズムと倫理観
 - 3) Interpersonal and communication skills
対人技能とコミュニケーション技能
 - 4) Problem solving based on critical thinking
批判的思考に基づいた問題解決能力
 - 5) Life-long self-directed learning skills
生涯にわたる自己研鑽能力
 - 6) Knowledge and skills corresponding to aged society
高齢社会に対応できる知識と技能
 - 7) Team approach by inter-professional collaboration
多職種連携によるチームアプローチ
 - 8) Global mind
国際的視野

まとめ

多職種連携教育には、他施設との連携が重要(教育も多職種連携)

実習で学んだことを、普段の臨床実習で実践するための工夫が必要

多職種連携教育の更なる拡充

学生参加型卒前臨床実習における 多職種連携についての検討

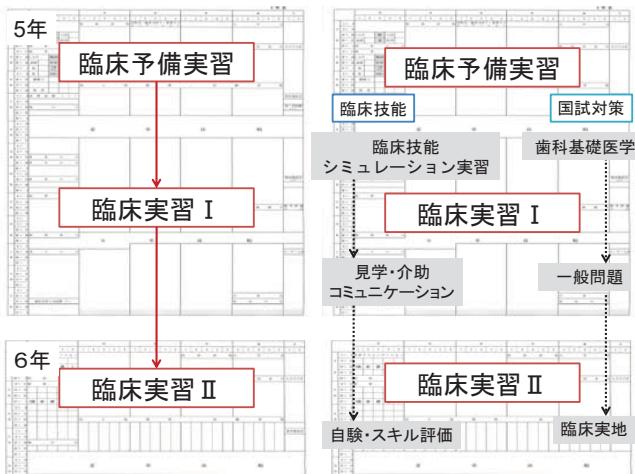
1. 臨床実習システム説明と多職種連携カリキュラム
2. 現在の問題点のまとめとその対応について
学生ワークショップの結果から

鶴見大学歯学部臨床実習委員長
小川 匠

学生参加型卒前臨床実習における 多職種連携についての検討

1. 臨床実習のシステム説明と多職種連携カリキュラム
2. 現在の問題点のまとめとその対応について
学生ワークショップの結果から

鶴見大学歯学部臨床実習委員長
小川 匠



第42回生 平成27年度～28年度 臨床実習年間スケジュール表(案)											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2
24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5
27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8
30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3
25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9
31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

第42回生 平成27年度～28年度 臨床実習年間スケジュール表(案)											
月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3
25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9
31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

臨床実習内容報告

平成27年度全面改定の内容について

臨床実習内容報告

平成27年度から全面改定した内容について

1. 座学の廃止

これまで、臨床実習の中で座学の占める割合が高かったので、本年度から座学を可能な限り減らし、より臨床的な、そしてより卒業試験・国際試験対策の内容に変更した。

2. 外来診療見学の半減

あまり教育効果を上げていなかった（講義内自己評価結果による）外来診療見学も半減させ、ロールプレイ実習（課題：有病歴者に対する安全な歯科治療の構築）を加入了実践的かつ卒業試験・国際試験対策になる実習に変更した。

高齢者歯科学講座

3. 在宅歯科医療・摂食嚥下リハ分野の強化

国家試験にも出題されるようになった在宅歯科医療および摂食嚥下リハビリテーション分野の実習を強化した。

在宅歯科医療分野に関しては、これまで特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）における学外実習を実施してきたが、今年度から1コマを訪問診療用機材の取り扱いについて実習することにした。実際にポータブルユニットを組み立て、診療環境を構築するまでを課題とした。また、口腔ケア実習として、当科が開発に関わった高齢者ケア研修用シミュレータ（商品名：マナボット、ニッシン製）を用い、口腔アセスメントから口腔ケアプランニングおよびケアの実際までを組み込んだ。

摂食嚥下リハビリテーション分野においては、従来はスクリーニング検査までを課題としていたが、今年度からは嚥下評価の課題を精密検査（嚥下内視鏡検査）にまで拡大し、歯科医師国家試験に出題された内視鏡検査映像の読影までを課題とした。まだ摂食機能療法としての訓練の1つとして唾液腺に対するアプローチを実習に加え、唾液量測定（これまでも実施）などの基本技術に加え、唾液腺マッサージの効果の判定（評価）も実習に加えた。

学外実習については、講座設立当時から実施している特別養護老人ホーム「太陽の國」での実習を継続する。引率者一名が必ず同行し、集合出発から帰校までを実習とする方針で実施している。

4. 改訂した週間予定

上記の改訂を盛り込んだ週間日程を組んだ（表1）。

第42回生 高齢者歯科学 臨床実習スケジュール			
火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:30 フォローアップ			
10:00 アセスメント （山内）	口腔ケア （山内、吉松）		摂食と嚥下 （鈴木、大庭）
12:30		学外実習	
13:30 診断機材 （鈴木、工藤）	摂食嚥下 （鈴田）		まとめ （吉松）
18:30			

学生参加型卒前臨床実習における多職種連携についての検討

1. 臨床実習のシステム説明と多職種連携カリキュラム
2. 現在の問題点のまとめとその対応について
学生ワークショップの結果から

鶴見大学歯学部臨床実習委員長
小川 匠

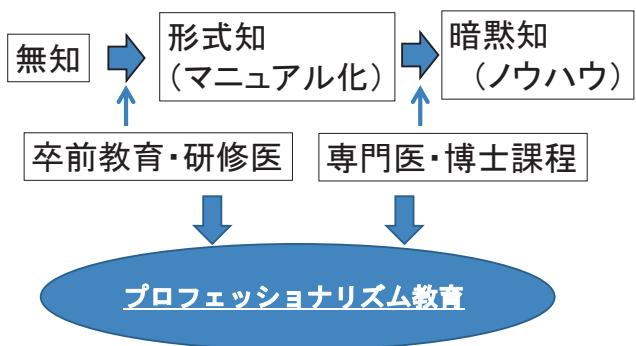
建学の精神

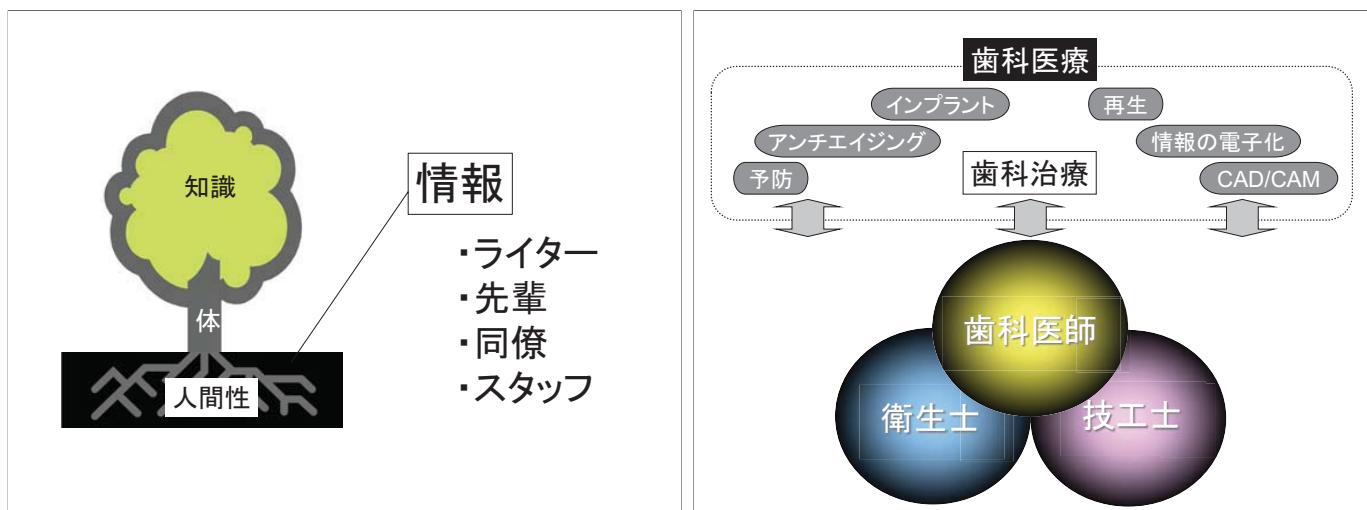
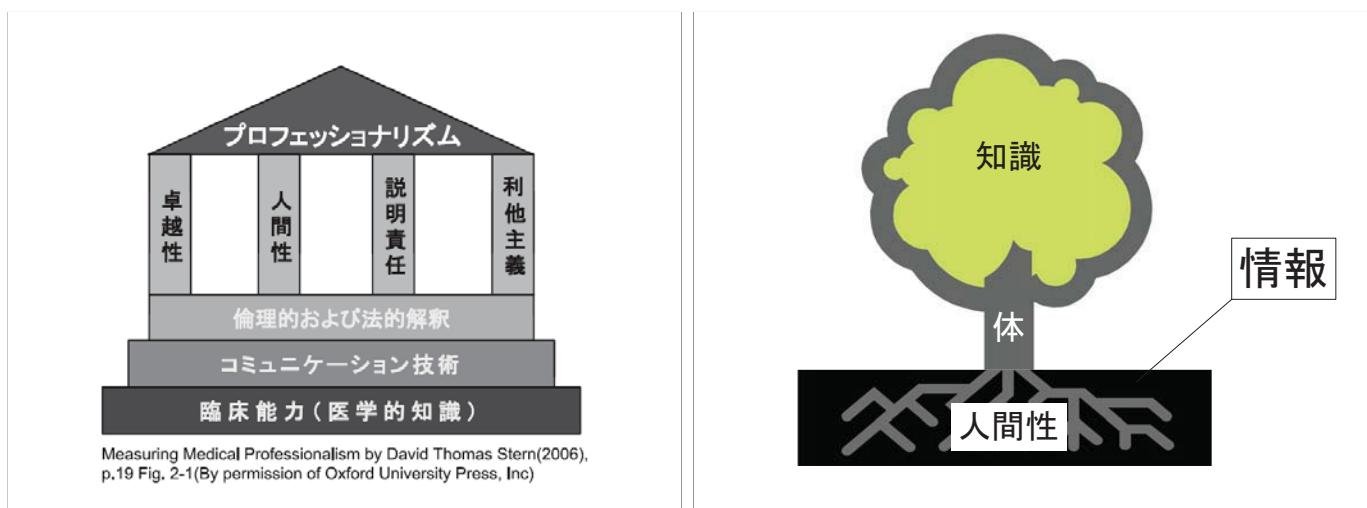
大覚円成 報恩行持
感謝を忘れず 真人となる

「良き臨床家」の育成

良き：技術を持つ
臨床家：リサーチマインド

教育の流れ





学生参加型卒前臨床実習における 多職種連携についての検討

共同研究者

鶴見大学歯学部教務部長:大久保 力廣 教授
臨床実習委員長:小川 匠 教授
歯学部教学課:藤澤さん, 会田さん, 谷さん
臨床実習担当者:中村善治先生, 山崎泰志先生, 重田優子先生,
井川知子先生, 新保秀仁先生
多職種連携職員:衛生士 大蔵さん, 鳴中さん,
技工士 邑田先生, 河村先生
受付 北村さん
歯学部臨床実習生:1~12班(9×4, 8×8:100名)

学生参加型卒前臨床実習における 多職種連携についての検討

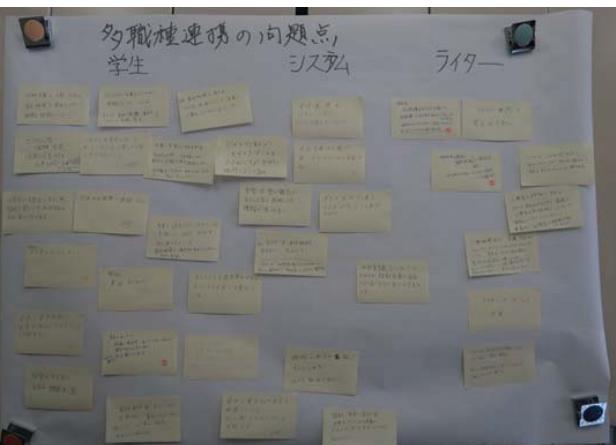
多職種連携における問題点の抽出

1. ワークショップの目的(小川)
2. ワークショップの方法説明1(小川)
3. 問題点の抽出(15分)(多職種)
4. 問題点の整理(小川, 井川)

学生参加型卒前臨床実習における 多職種連携についての検討

多職種連携における問題点の抽出

1. ワークショップの目的 (小川)
2. ワークショップの方法説明1 (小川)
3. 問題点の抽出 (15分) (多職種)
4. 問題点の整理 (小川, 井川)



問題点

学生

長い髪を上げない
登院服が汚い
自分の行動がどのようなことを引き起こすか理解していない
出席率が年末になると悪い(学校に来ても初診室当番に来ないなど)
休みを教務に連絡しない
やる気が無い
声が小さい
理解不足
中央技工室に入るときに挨拶しない
機材返却時足りないものがあつても人のせいにする
ライター以外のスタッフを言うことを聞かない
機材の返却期限を守れない
清潔不潔の概念に乏しい
受付業務を理解していない
点数にならない当番をサボる
機材の使い方が雑で壊す
機材が壊れても報告に来ない
初診室当番を材料当番の延長と考えている学生がいる
当日返却予定の機材を時間通り返せない
集合時間を守れない
予約表をきちんと書かない
予約表の存在を知らない

問題点(続き)

- | | |
|------|---|
| 学生 | 時間を把握していない
何のためにするのか理解していない
当番の仕事をしない
日時の変更が多い
受付当番の私語が多い
集合時間の20分前に早く来る
受付で電子カルテの内容を大きい声で学生同士話している
現場での治療室説明がない
学生とライターが言っていることが違う
ライター間の考え方の違いがある
ライターの力量不足 |
| システム | 出欠印を押す時間にライターがいない
ライターが時間を見失していい
治療がないからといってライター一人を離れるライターが多い
ライターが捕まらず技工物のチェックが受けられない
技工指示内容の記入が不統一(納品日と装着日の差異)
技工指示を口頭のみで行うライターがいる
技工物の依頼を昼休みまたは業務終了後にする |
| ライター | |

学生参加型卒前臨床実習における 多職種連携についての検討

多職種連携における問題点の抽出

1. ワークショップの目的(小川)
2. ワークショップの方法説明1(小川)
3. 問題点の抽出(15分)(多職種)
4. 問題点の整理(小川, 井川)

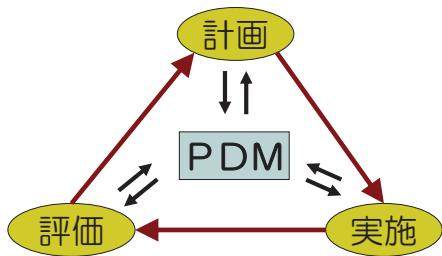
多職種連携における問題点						
	全体	受付業務	衛生士業務	初診室業務	診療業務	その他
	受付当番	材料当番	初診室当番	治療	予習・技工など	
出欠について	休みを教務に連絡しない 出席率が年末になると悪い 予約表の存在を知らない 予約表をきっちり書かない	点数にならない当番をサボる 日時の変更が多い 集合時間で守れない 時間を把握していない 集合時間の20分前に早く来る 何のためにするのか理解していない				
業務について	システムの理解不足 自分の行動がどのようなことを行き起こすか理解していない 手引などの資料を確認しない	受付業務を理解していない 受付当番の私語が多い	当番の仕事をしない 当番の延長を考えている	初診室当番を材料当番の延長と考へている	機材返却時足りないものがあつても人のせいにする 機材の使い方が遅で嫌ず 機材が壊れても報告に来ない 清潔不潔の概念に乏しい	機材返却時足りないもののがあっても人のせいにする
態度、身だしなみについて	登院服が汚い 長い髪を上げない やる気が無い 声が大きい 中央技工室に入るときに挨拶しない ライター以外のスタッフを言うことを聞かない				受付で電子カルテの内容を大きい声で学生同士話している	

学生参加型卒前臨床実習における多職種連携についての検討

	全体	受付業務	衛生士業務	初診室業務	診療業務	その他
出欠について	休みを教務に連絡しない 点数にならない当番をサボる					
集会時間について	予約表	1. 出席: 医療人としての自覚				
業務について	システムの理解不足 自分の行動がどのようなことを行き起こすか理解していない 手引などの資料を確認しない	受付業務を理解していない 受付当番の私語が多い	当番の仕事をしない 当番の延長を考えている	初診室当番を材料当番の延長と考へている	機材返却時足りないもののがあっても人のせいにする 機材の使い方が遅で嫌ず 機材が壊れても報告に来ない 清潔不潔の概念に乏しい	機材返却時足りないもののがあっても人のせいにする
態度、身だしなみについて	登院服が汚い 長い髪を上げない やる気が無い 声が大きい 中央技工室に入るときに挨拶しない ライター以外のスタッフを言うことを聞かない				受付で電子カルテの内容を大きい声で学生同士話している	
		2. 業務: 知識不足				
		3. 身だしなみ: 態度教育の充実				

→ 臨床実習生のあり方(医療人としての態度)

Project Cycle Management



PDM : Project design matrix (計画書)

学生参加型卒前臨床実習における多職種連携についての検討

→ 臨床実習生のあり方(医療人としての態度)

臨床実習生work shop Time table

- ワークショップの目的(小川)
- 問題定義(小川)
- ワークショップの方法説明1(小川)
- 問題分析(15分)(学生)
- ワークショップの方法説明2(小川)
- 目的分析(15分)(学生)
- 各班発表(1×3分, 36分)(各班ごと)
- 全体討論(解決方法について)(全員)

臨床実習生work shop Time table

- ワークショップの目的(小川)
- 問題定義(小川)
- ワークショップの方法説明1(小川)
- 問題分析(15分)(学生)
- ワークショップの方法説明2(小川)
- 目的分析(15分)(学生)
- 各班発表(1×3分, 36分)(各班ごと)
- 全体討論(解決方法について)(全員)



臨床実習生work shop Time table

1. ワークショップの目的(小川)
2. 問題定義(小川)
3. ワークショップの方法説明1(小川)
4. 問題分析(15分)(学生)
5. ワークショップの方法説明2(小川)
6. 目的分析(15分)(学生)
7. 各班発表(1×3分, 36分)(各班ごと)
8. 全体討論(解決方法について)(全員)

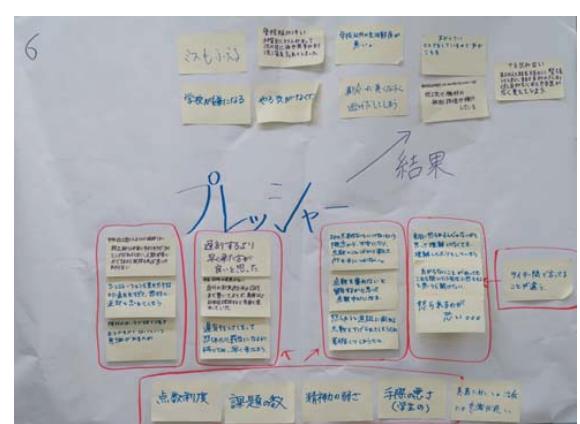


臨床実習生work shop Time table

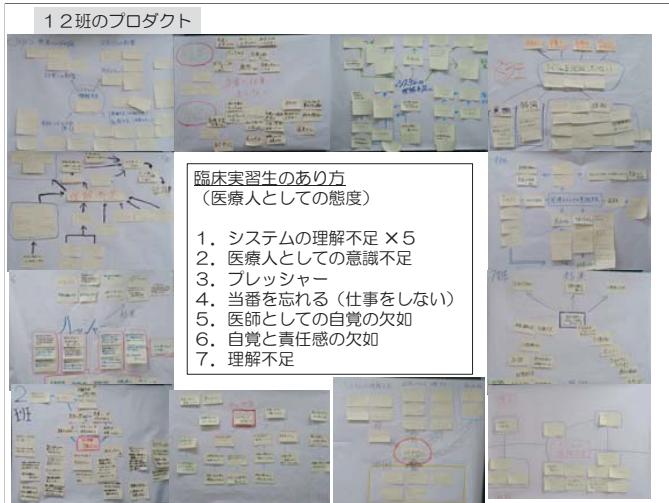
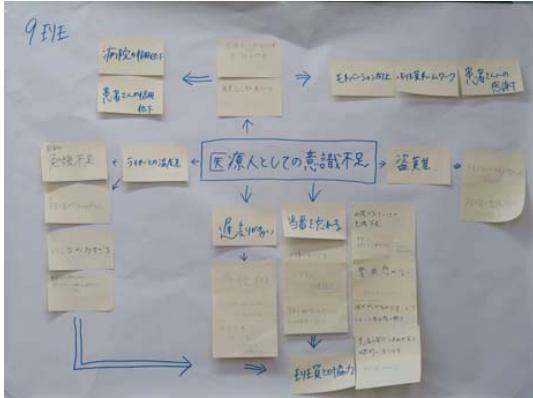
1. ワークショップの目的(小川)
2. 問題定義(小川)
3. ワークショップの方法説明1(小川)
4. 問題分析(15分)(学生)
5. ワークショップの方法説明2(小川)
6. 目的分析(15分)(学生)
7. 各班発表(1×3分, 36分)(各班ごと)
8. 全体討論(解決方法について)(全員)



6班 プロダクト

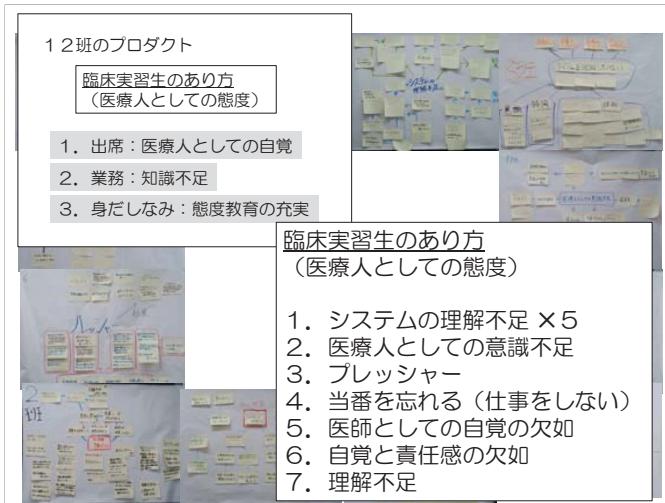


9班 プロダクト



臨床実習生work shop Time table

1. ワークショップの目的(小川)
 2. 問題定義(小川)
 3. ワークショップの方法説明1(小川)
 4. 問題分析(15分)(学生)
 5. ワークショップの方法説明2(小川)
 6. 目的分析(15分)(学生)
 7. 各班発表(1×3分, 36分)(各班ごと)
 8. 全体討論(解決方法について)(全員)



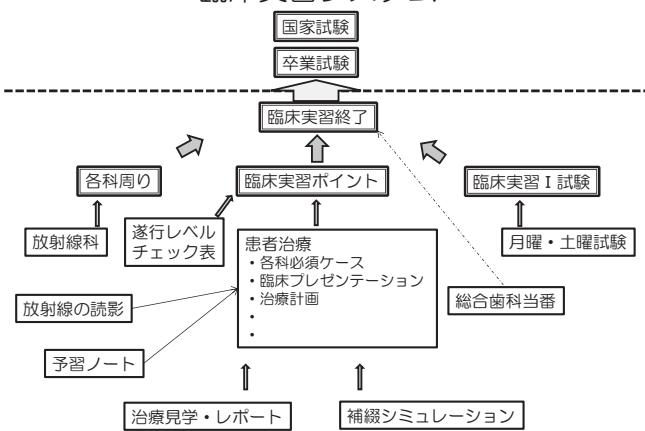
FDの目的達成できず
：改善方法まで議論が至らず、問題分析にとどまる



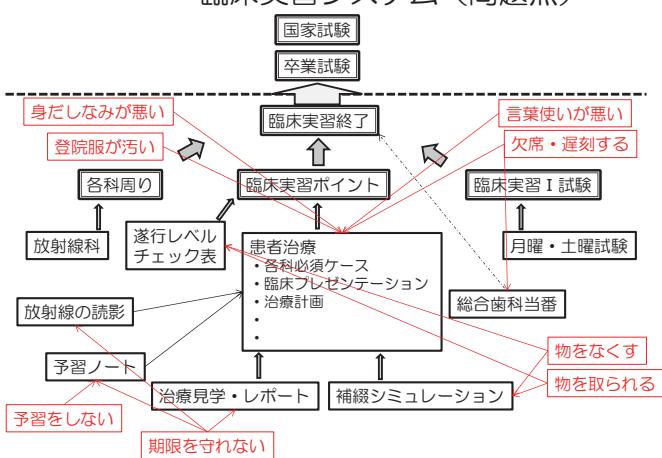
PCM : 参加型計画手法



臨床実習システム



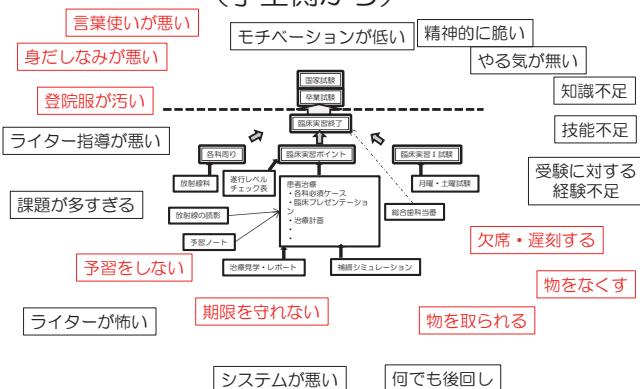
臨床実習システム (問題点)



12班のプロダクト



臨床実習システム (学生側から)



臨床実習システム

国家・卒業試験に対する不安

精神的な弱さ

技能不足
受験に対する経験不足
モチベーションが低い
やる気が無い

臨床実習に対する不安

責任感の欠如

社会性の欠如

身だしなみが悪い
登院服が汚い

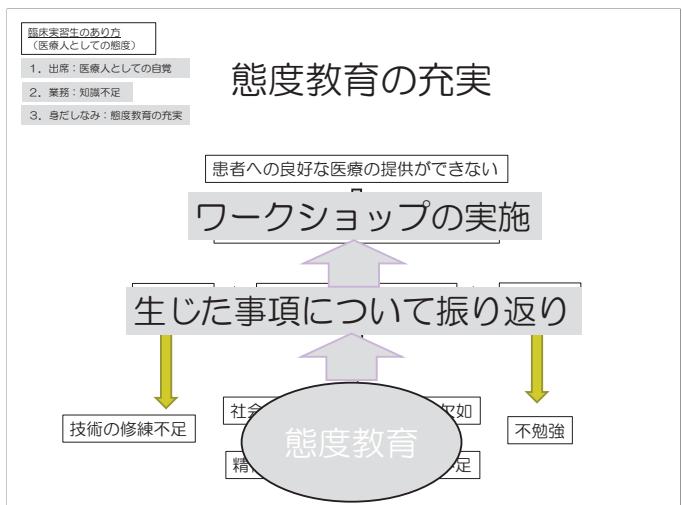
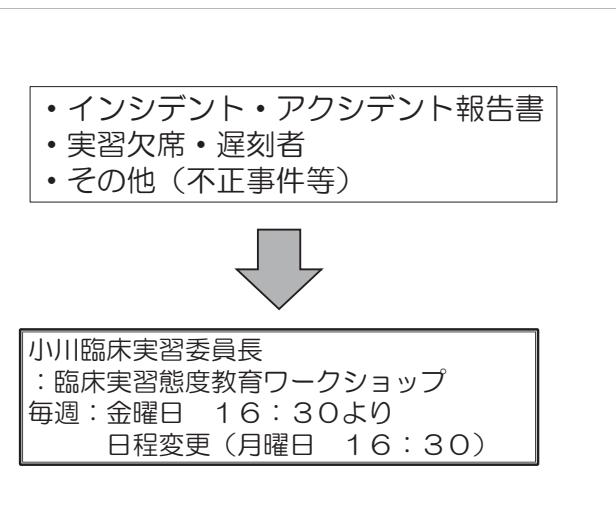
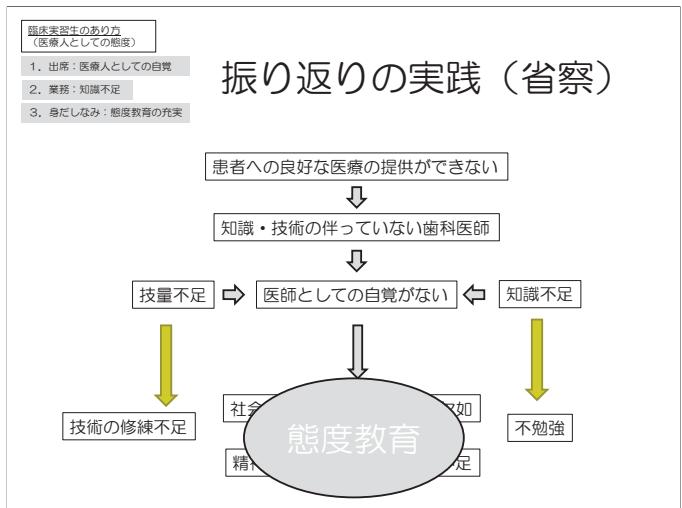
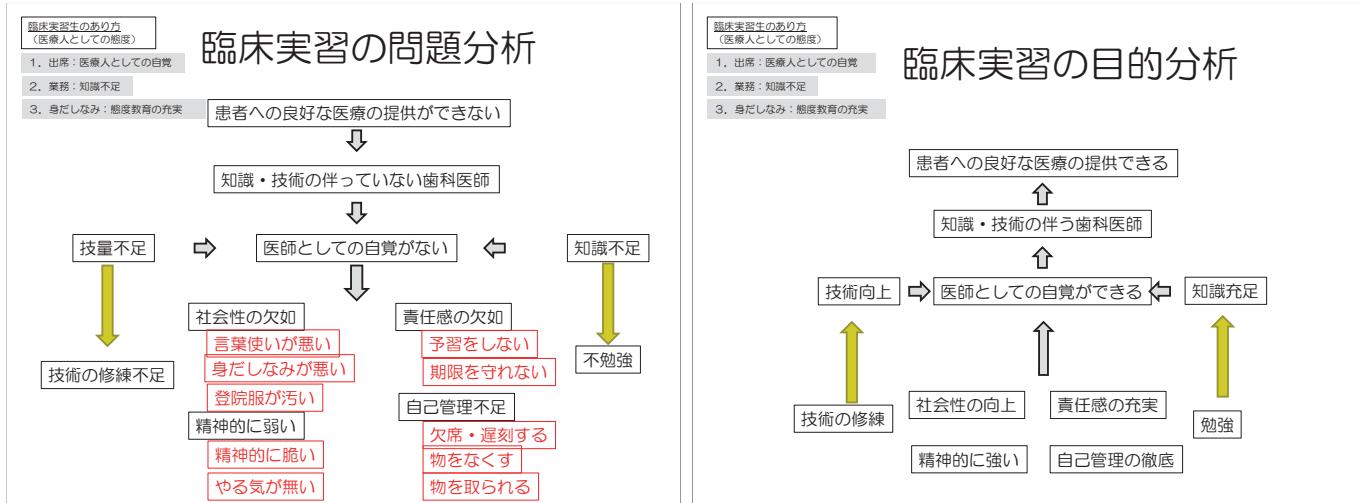
ライター指導が悪い
課題が多すぎる
予習をしない
期限を守れない

モチベーションが低い
精神的に弱い
やる気が無い
知識不足
技能不足

受験に対する経験不足
欠席・遅刻する
物をなくす
物を取られる

ライター指導が悪い
ライターが怖い
システムが悪い
課題が多すぎる

自己管理の不足



態度教育WS（材料当番の遅刻、欠席について）

送信者: 楊合利 <General-3@tsurumi-u.ac.jp> 完免: 小川 匠 <copema-1@tsurumi-u.ac.jp>
件名: 回答返信者 日時: Mon, 26 Oct 2015 13:45:49 +0900

小川先生へ
先程の19日話し合い後の当番遅刻者です

20日火	..	9 : 01
		16 : 09
21日水	..	6 : 01
22日木	..	6 : 01
		16 : 01
23日金	..	08
		16 : 06
		16 : 09
(担当: 材料担当) ⇒ 署れていた		

初診室・受付・キッズルームの運営者はいませんでした

よろしくお願いします。島中

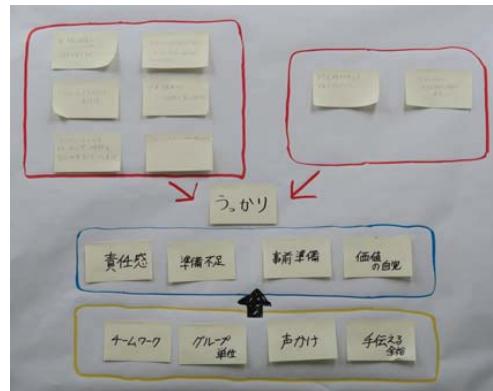
即時報告体制の確立

著出人: 総合歯科1 <general-1@tsurumi-u.ac.jp> 寄先: 小川 匠 <ogawa-t@tsurumi-u.ac.jp>

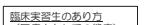
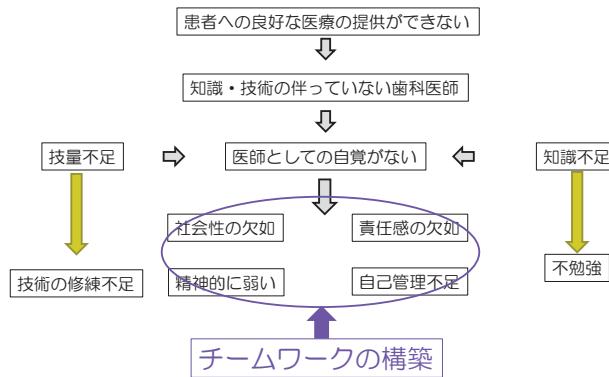
小川先生へ
10/30日に行なうワークショップに追加の学生お願いします。
G藤井...中央アーツでの授業教材貸出し時間9:00~16:30を
以降連絡合でも適度に間に合わないことが多いが何度もあつた

本日朝は、当番運転をいませんでした

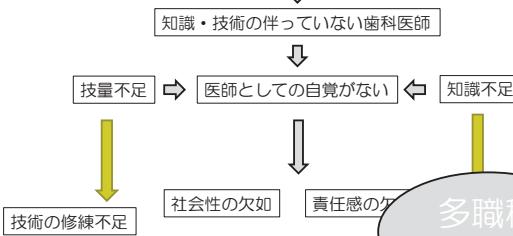
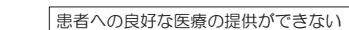
WS 材料当番について遅刻・欠席



第1, 2回態度教育WS まとめ

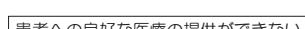


- 出席：医療人としての自覚
 - 業務：知識不足



臨床実習生のあり方

- ①出席：医療人としての自覚
②業務：知識不足
③自己：自己・専門教育の充実



— 1 —

具体的な教育項目設定

現行の遂行レベルチェック表（基本項目）

F-5 地域医療	病診連携、病病連携を体験し理解する(■■■■■について正しく理解し、治療に反映できる)	プロコロチックディスクッション	0.5
	他職種連携(医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職)のチーム医療を理解し、体験する	診療時に自己チェック	
	地域医療を体験する	診療時に自己チェック	
	他科への依頼票の記載や情報伝達が的確にできる	プロコロチックディスクッション	0.5
	技工指示書の記載や情報伝達が的確にできる	プロコロチックディスクッション	0.5

F-5 地域医療	病診連携、病病連携を体験し理解する(■■■■■について正しく理解し、治療に反映できる)	プロコロチックディスクッション	0.5
	他職種連携(医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職)のチーム医療を理解し、体験する	診療時に自己チェック	
	地域医療を体験する	診療時に自己チェック	
	他科への依頼票の記載や情報伝達が的確にできる	プロコロチックディスクッション	0.5
	技工指示書の記載や情報伝達が的確にできる	プロコロチックディスクッション	0.5

**“F-5 地域医療”の項目を充実化することにより
学生に他職種連携および当番の重要性を理解させる**

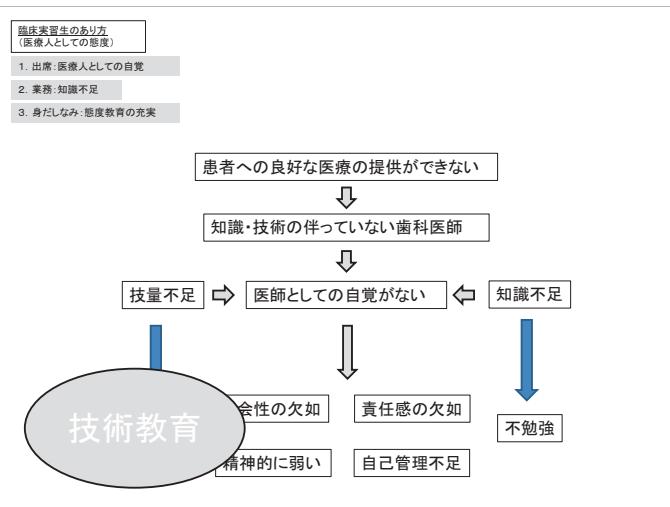
F-5 地域医療	病診連携、病病連携を体験し理解する(■■■■■について正しく理解し、治療に反映できる)	プロコロチックディスクッション	0.5
	他職種連携(医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職)のチーム医療を理解し、体験する	診療時に自己チェック	
	地域医療を体験する	診療時に自己チェック	
	他科への依頼票の記載や情報伝達が的確にできる	プロコロチックディスクッション	0.5
	技工指示書の記載や情報伝達が的確にできる	プロコロチックディスクッション	0.5

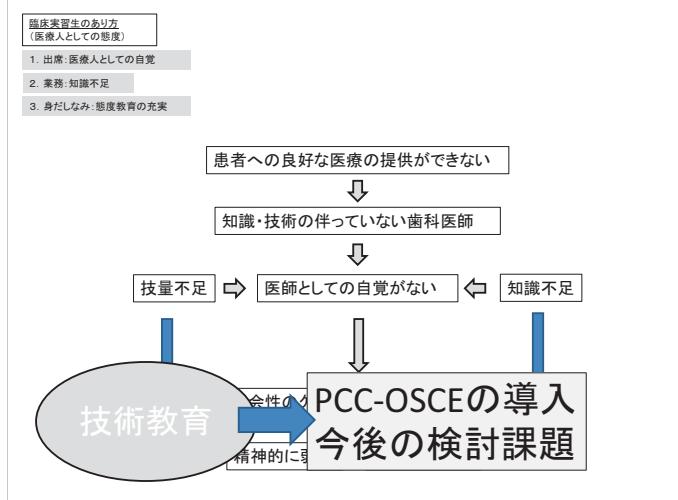
別紙

F-5 地域医療	医師との連携	担当患者の全身疾患を把握するため、かかりつけ医に会員登録をすることで、病名と治療法を把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	薬剤師との連携	初診料の業務を理解し、診察から治療法まで正確に把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	他職種連携(医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職)との連携	大学病院の業務を理解し、他の医療職との連携を行なう。		
	医師との連携	担当患者の全身疾患を把握するため、かかりつけ医に会員登録をすることで、病名と治療法を把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	薬剤師との連携	初診料の業務を理解し、診察から治療法まで正確に把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		

F-5 地域医療	医師との連携	担当患者の全身疾患を把握するため、かかりつけ医に会員登録をすることで、病名と治療法を把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	薬剤師との連携	初診料の業務を理解し、診察から治療法まで正確に把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	他職種連携(医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職)との連携	大学病院の構成を理解し、他科との連携を円滑にするためのサポートが得られる。		
	医師との連携	担当患者の全身疾患を把握するため、かかりつけ医に会員登録をすることで、病名と治療法を把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	薬剤師との連携	初診料の業務を理解し、診察から治療法まで正確に把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		

F-5 地域医療	医師との連携	担当患者の全身疾患を把握するため、かかりつけ医に会員登録をすることで、病名と治療法を把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	薬剤師との連携	初診料の業務を理解し、診察から治療法まで正確に把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	他職種連携(医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職)との連携	大学病院の構成を理解し、他科との連携を円滑にするためのサポートが得られる。		
	医師との連携	担当患者の全身疾患を把握するため、かかりつけ医に会員登録をすることで、病名と治療法を把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		
	薬剤師との連携	初診料の業務を理解し、診察から治療法まで正確に把握する。また、専門医内閣について正しく理解し、治療に反映できる。		





卒前教育における効果的な多職種連携授業の導入を考える

岩手医科大学歯学部口腔医学講座

予防歯科学分野

阿部晶子

平成27年度 戦略的大学連携事業 FDワークショップ

多職種連携の必要性

近年、患者の治療に際しては、患者の置かれている状況に的確に対応した医療を提供することが求められており、そのため多職種が連携したチーム医療の導入が、救急医療、高度先進医療、プライマリ・ケア、在宅診療など様々な場面で必要とされている。

岩手医科大学附属病院においても、歯科医師を含めた多職種によるチーム医療の取り組みが積極的になされている。

岩手医科大学附属病院における多職種連携チーム

- NST(栄養サポートチーム)
- RST(呼吸サポートチーム)
- 緩和ケアチーム
- 周術期チーム
- 感染対策チーム
- 骨転移チーム
- 造血幹細胞移植チーム

緩和ケアチーム

当院では2007年6月から専門スタッフがチームを組み、緩和ケアチームの活動を開始しております。



緩和ケアチームとは、痛みをはじめとするつらい症状を和らげたりこころのケアを行う専門チームです。主治医や看護師と協働し、診断時から多職種で患者さまやご家族を支援します。

- 院内全科の入院患者様及び外来患者様を対象としたコンサルテーション型緩和ケアチームです。
- 緩和ケアチームの医師・専従看護師が直接訪室し、ケアを行います。
- 週1回チーム全員によるカンファレンスを行っております。

緩和ケアチーム

チームの構成メンバー

医師(緩和ケア科・麻酔科
放射線科・精神科)

がん分野認定看護師
緩和薬物療法認定薬剤師
歯科医師・歯科衛生士
理学療法士・作業療法士
管理栄養士
言語聴覚士
臨床心理士
ソーシャルワーカー



週1回のカンファレンス

卒前における多職種連携関連授業・実習

1年次

1コマ:90分

アカデミックリテラシー 14コマ
多職種連携入門 10コマ

医・歯・薬学部の3学部の学生が協同でPBL形式のディスカッションを行い、問題解決のプロセスを自立的に学習するとともに、チーム医療の在り方について考える。

講義:歯科医学概論 2コマ

地域歯科医療および院内におけるチーム医療の紹介。

介護・看護体験実習(歯学部5年生と合同) 7日間

学外施設における多職種連携の実際を体験する。

2年次

歯科専門体験学習 5日間

本学附属病院および開業歯科医院での体験を通して、チームの一員としての歯科医師の役割を習得する。

3年次

講義・造血幹細胞移植チームの活動の紹介

訪問歯科医療の実際

地域における保健・医療・福祉連携

3コマ

大学間連携IT教育:社会と歯科医療・チーム医療

7コマ

医療の仕組みと高齢者にみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を3大学連携IT教育システムを通して、理解する。

3年次(H27年度より)

医・歯・薬学部合同によるチーム医療リテラシー 8コマ

専門職(多職種)連携教育の一環として、1学年次における多職種連携入門での経験を生かして、医学・歯学・薬学の学生によるコンセンサスワークショップを通して、緩和医療について学修する。

4年次

講義:摂食・嚥下リハビリテーションとチーム医療 3コマ

大学間連携IT教育:社会と歯科医療・チーム医療

8コマ

5年次

介護体験実習 2日間

歯学部1学年と協力して実習を行う。

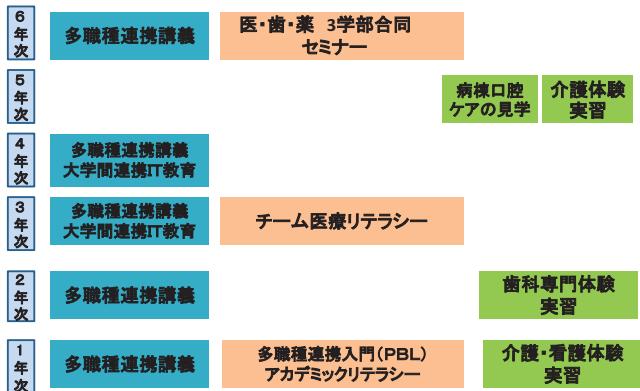
病棟口腔ケアの見学(試験的に開始)

6年次

医・歯・薬 3学部合同セミナー 2日間

多職種連携教育の一環として、5学年まで習得した医学・歯学・薬学の専門知識と経験をもとに、3学部の学生が症例をPBL形式で検討する。

岩手医科大学歯学部卒前における 多職種連携講義・実習の実際(27年度)



岩手医科大学附属病院における 多職種連携チーム

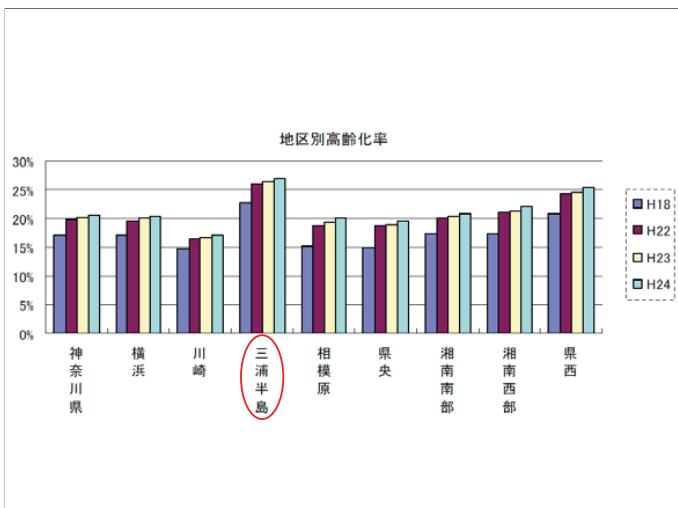
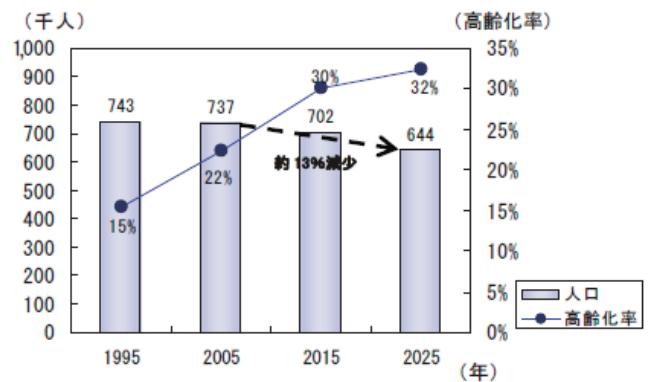
- NST(栄養サポートチーム)
- RST(呼吸サポートチーム)
- 緩和ケアチーム
- 周術期チーム
- 感染対策チーム
- 骨転移チーム
- 造血幹細胞移植チーム

今後の課題

- ① 5年次に、臨床実習の一環として、多職種連携チームによるカンファレンスに参加させ、院内における多職種連携の実際を体験する機会を設ける。
- ② 多職種連携チームの構成メンバーである、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学・作業療法士らによる講義を設ける。

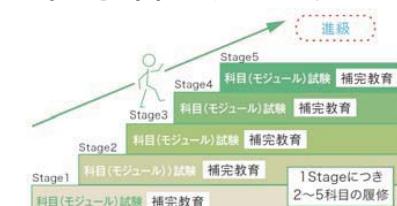
【神奈川歯科大学】

超高齢社会における多(他)職種連携のための歯学教育について



神奈川歯科大学の教育システム

歯学科カリキュラム



高齢者歯科学に関する講義

3年次 Stage 2～4「全身と口腔」

4年次 Stage 3 「高齢者歯科学」 90分×30回

5年次 必修講義 「地域医療」 90分× 1回

A-7-3) 患者中心のチーム医療

一般目標:

患者中心のチーム医療の重要性を理解し、他の医療従事者との連携を学ぶ。

到達目標:

- *①患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
- *②医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
- *③保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。

高齢者歯科学に関する講義

B-2-2) 保健・医療・福祉制度

一般目標：

保健、医療、福祉、介護に関する社会制度、地域医療および社会環境を理解する。

到達目標：

*①保健・医療制度を説明できる。

【産業保健および医療供給体制を含む。】

*②医療保険制度を説明できる。

【医療経済（国民医療費）を含む。】

*③介護保険制度を説明できる。

*④社会福祉制度を説明できる。

*⑤高齢者のおかれした社会環境を説明できる。

*⑥障害者のおかれした社会環境を説明できる。

*⑦ノーマライゼーションの考え方を説明できる。

*⑧地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。

*⑨地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。

*⑩地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。

4年次 Stage 3 「高齢者歯科学」

5年次 必修講義 「地域医療」

高齢者歯科学に関する講義

E-4-3) 高齢者の歯科治療 4年次 Stage 3「高齢者歯科学」

一般目標：

高齢者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

到達目標：

*①老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。

*②老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。

*③高齢者に多くみられる疾患を説明できる。

*④高齢者における口腔ケア処置について説明できる。 **実習を含む**

*⑤口腔機能向上による介護予防について説明できる。

*⑥高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。

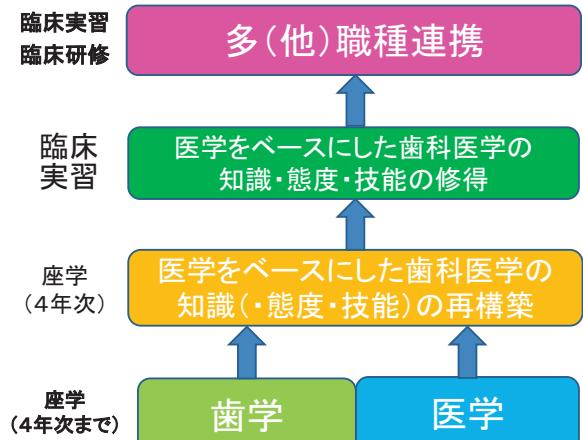
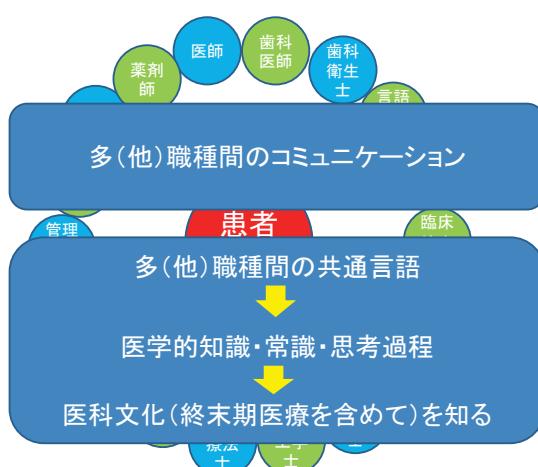
⑦高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。

*⑧要介護高齢者（在宅要介護者も含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。

*⑨歯科訪問診療について説明できる。

*⑩摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。

*⑪摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。 **実習を含む**



医学と歯学の連携教育 高齢者歯科学(4年次)



シミュレーション教育(高齢者歯科学:4年次)



MANABOT®を用いた口腔ケア、摂食嚥下支援実習

訪問診療における教育(研修医)

- 急性期病院における(周術期)口腔ケア訪問診療(必修)
- 在宅高齢者の訪問診療(選択制)



短期大学部
歯科衛生学科・看護学科
との連携教育

平成29年10月 神奈川歯科大学新病院開院



全身管理高齢者歯科外来(仮称)

業務内容(予定)

新病院1階

- 周術期口腔機能管理(ICU等への訪問診療含む)
学生・研修医: 診療
- 摂食嚥下支援(訪問診療含む)
学生・研修医: 補助
- 重篤な全身疾患有する患者(高齢者)の
侵襲的歯科治療
学生・研修医:
補助/診療
入院管理、全身麻酔・精神鎮静法管理含む
- 全身管理が必要な超高齢者の歯科治療
学生・研修医:
補助/診療
(補綴系・保存系診療科と協力)

On the job training

歯科麻酔科医

全身管理歯科医
(有病者歯科・口腔外科)

全身管理高齢者歯科

高齢者歯科医
(補綴)

摂食嚥下診療医

歯科衛生士

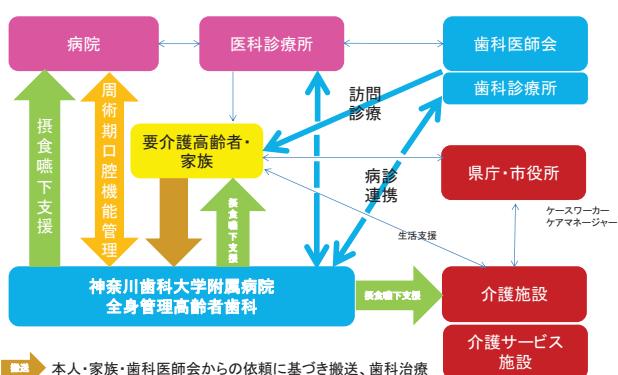
看護師

臨床検査技師

放射線技師

管理栄養士

地域包括型歯科医療連携



学生・研修医の院外教育構想

病院実習・卒後研修の一部として

- 病院(ICU・病棟)へ訪問診療: 周術期口腔機能管理
- 歯科診療所からの訪問診療: 在宅の要介護高齢者の口腔ケア、歯科医療支援
- 介護施設・介護サービス施設: 口腔ケア、食事支援、介護体験、他
- 摂食嚥下支援: 病院、介護施設、在宅要介護高齢者への訪問診療

短期大学部・歯科衛生学科、看護学科と連携

結 語

1. 質の高い多(他)職種連携のためには、医学的知識のみならず、医科における常識や思考過程までふみこんだ教育を行う必要がある。
2. そのためには、座学時に医学的知識および歯科との関連性について、終末期医療も含めた教育が必要である。
3. 座学時の教育を土台に、臨床実習・臨床研修および院外教育(On the job training)を通して、多(他)職種連携を教育することが大切である。

学部連携地域医療実習の課題と展望

昭和大学の4学部連携による体系的、
段階的なチーム医療学習の取り組み

昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門
石川 健太郎

昭和大学の特色

- ・医、薬、歯、保健医療学部からなる**医系総合大学**
(看護・作業療法・理学療法学科) 約600人/学年
- ・「至誠一貫」の教育理念と創設80年の歴史
- ・**附属8病院** (約3000床)
多彩な臨床実習と各学部の学生受入れが可能
- ・1年生は山梨県富士吉田で**寮生活・学部横断教育**



各学部の学生、教員の学部間交流が日常的
(旗の台・洗足・横浜・富士吉田キャンパス)

昭和大学付属の8病院

昭和大学病院



藤が丘病院



東病院



江東豊洲病院



横浜市北部病院



烏山病院



藤が丘リハビリテーション病院



歯科病院



206床

22床

昭和大学の特色

- ・医・薬・歯・保健医療学部からなる**医系総合大学**
(看護・作業療法・理学療法学科) 約600人/学年
- ・「至誠一貫」の教育理念と創設80年の歴史
- ・**附属8病院** (約3000床)
多彩な臨床実習と各学部の学生受入れが可能
- ・1年生は山梨県富士吉田で**寮生活・学部横断教育**



各学部の学生、教員の学部間交流が日常的
(旗の台・洗足・横浜・富士吉田キャンパス)

チーム医療を参加型で学習する体系的カリキュラムの構築 (平成18年度～)

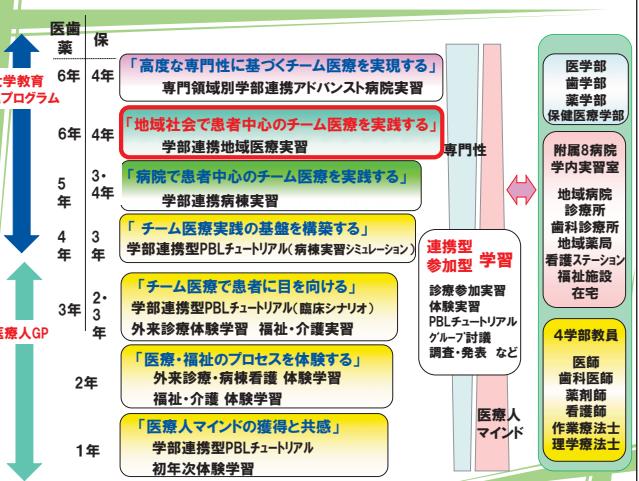
・医系総合大学

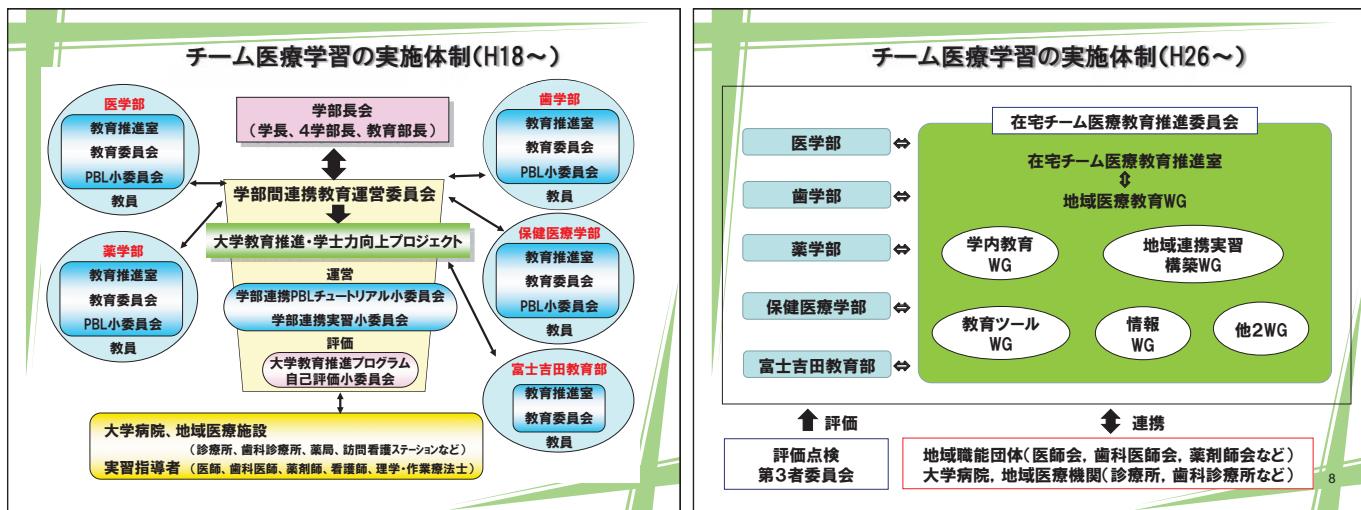
・教育理念

学部の枠を超えて共に学び、
互いに理解、協力し、
患者に真心をこめて医療を行う

・1年次の全寮制教育

・チーム医療をチームで学べる環境





学部連携 地域医療実習 (平成23年度～、選択) 医歯薬6年、保4年

▶在宅医療に关心を持つ学生グループ

(希望者から選抜)

▶1地域で2週間の実習

23年度 3地域 ⇒ 24年度 6地域

➤ 実習内容:

- ・在宅治療を受ける同じ患者を担当
 - ・診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーションのスタッフに同行
 - ・患者の治療・ケアを討議、提案

学部連携地域医療実習 実施医療施設

- ① **大田区山王**（原則、自転車で移動）
 - ・鈴木内科医院、 ファミリークリニック蒲田
 - ・新谷歯科医院、 Luz大森アブル歯科医院
 - ・大森山王訪問看護ステーション、 大田池上訪問看護ステーション
 - ・あい薬局
 - ・特別老人ホーム大森、 特別老人ホーム池上

 - ② **大田区西蒲田**
 - ・かわいクリニック
 - ・ほんだ歯科医院
 - ・セコム大田訪問看護ステーション、 ナースステーションなどから訪問看護ステーション
 - ・あい薬局、 クオール薬局ちどり店、 みんと薬局、 碑文谷薬局
 - ・昭和大学医療連携室

 - ③ **富士吉田市**
 - ・勝山診療所、 小館クリニック
 - ・和歯科クリニック、 すみ歯科医院、 安富歯科医院
 - ・富士北麓訪問看護ステーション
 - ・アイ薬局、 ふじ薬局
 - ・富士吉田市立病院地域連携室、 廉和荘、 デイケア施設うらら

東京都内(蒲田) 実習スケジュール

第1週

日程	施設名/区分	施設名/区分	施設名/区分	看護師(准看護師)
5/1(月) 午前	13時 飲食室・休憩室・清掃室			
	14時 かけいり巡回(2F)、2F廊下、1F廊下、1Fエレベーター			
午後	8:00～ 河井先生(医師)/佐藤 碎文部薬局	8:50pm 文薫館 集合	9:00～17:00 碎文部薬局	かわいり巡回 カルマ会議 15時30分集合休憩 (院内巡回・巡回休憩用具搬入)
				終了後 他の自宅巡回(1F)と巡回休憩 500 調剤室・文薫館・集合
5/1(火) 午前	9:01 営業外休憩室 清掃	8:50 かけいり巡回 会場	9:00～ 細川先生(医師)/梅津	午前 自習
	MSアートホール 清掃			12:00 みんなと集まること会場
午後	15:00 飲食室・休憩室・清掃室			14:00 みんなと集まること会場
	MSアートホール 清掃			
5/1(水) 午前	10:00 かけいり巡回(1F) 真理子の患者情報収集			
午後	患者自宅巡回(13時～14時半)・帰宅(院内巡回休憩用具搬入)			
5/1(木) 午前	13時 生徒(宿舎)・訪問巡回(宿舎・寮)	訪問巡回 審査・登録	13時 中川先生(宿舎下)	
午後	8:55 かいり巡回 集合	9:00～ 記念大学 医療系講演会	9:00～17:00 (8時訪問看護室) 7:30訪問看護室(宿舎)	13時 かいり巡回 集合
	8:00～18時 あい楽園	自習		
5/1(金) 午前	8:45 クラスルーム 集合	9:15 かいり巡回 集合	7:30 かいり巡回 集合	
		セミナー実習会場 清掃室		
午後	9:00～17:00 オール楽園	自習		7:30～ 河井先生(医師)/佐藤
5/1(土) 日				
5/1(日) 日				
5/1(月) 日				
5/1(火) 日				
5/1(水) 日				
5/1(木) 日				
5/1(金) 日				
5/1(土) 日				
5/1(日) 日				

<p>目標書き出しシート</p> <p>目標書き出しシート</p> <p>この目標を実現するための行動計画を記入してください。できるだけ「具体的」に書いてください。 また、行動計画を複数枚提出する場合は、 りその項目名を右側の欄に記入してください。</p>	<p>ふりかえりシート</p> <p>1. 学習進捗 PBL の到達度 でのコミュニケーションを PBL (シナリオ) の課題発展と 成長したことを述べよ。</p> <p>2. グループとして参考 したことを述べよ。</p> <p>3. 成長報告書</p> <p>ここで得たことを、学習進捗実施計 画(シナリオ) に対する影響を述べよ。</p> <p>4. 学習進捗実施計画、監 督評議会</p> <p>5. プロブレムソolvingを參 加しましたか?</p>
実習レポート(日誌)	
成長報告書	
<input type="checkbox"/> 未回収 (未)	
<input type="checkbox"/> 実習実施 (計画)	
<input type="checkbox"/> 実習内容 (毎月の実習内容、他学部から学んだこと、自己評価を記載)	
<input type="checkbox"/> 無回収 (月)	

2015-11-18

九州歯科大学における高齢障害者歯科学実習



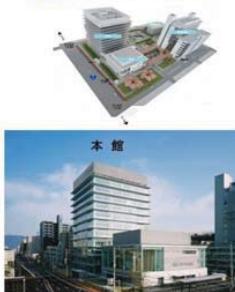
公立大学法人 九州歯科大学
副学長・附属病院長
老年障害者歯科学分野
教授 柿木保明

公立大学法人九州歯科大学

Kyushu Dental University



福岡県北九州市に本部を置く、わが国唯一の公立大学法人の歯学部で、2014年に100周年を迎えました。歯学科と口腔保健学科の2学科を有し、附属病院では、医療連携の充実を目指して、病院の体制を充実させ、悪性腫瘍や外傷などの急性疾患だけでなく、高齢者等における慢性疾患や機能障害にも対応できるよう努めています。



九州歯科大学における多職種連携教育

- ・歯学概論Ⅰ：チームアプローチと高齢者歯科医療
- ・歯学概論Ⅱ：歯科と医科の連携
- ・プロフェッショナリズムⅢ、Ⅳ、Ⅴ：連携医療
- ・摂食機能療法学：NSTと多職種連携
- ・高齢・障害者歯科学Ⅰ
- ・高齢・障害者歯科学Ⅰ（実習）
- ・高齢・障害者歯科学Ⅱ（実習）※学外実習必須
- ・臨床実習 ※歯科訪問診療必須
- ・歯学科と口腔保健学科の合同講義

多職種連携

- ・現状
- ・薬剤と検査の知識不足
- ・義歯調整しても改善しない
- ・摂食嚥下リハビリテーションができない
- ・緊密な情報共有ができない
- ・キーパーソンが理解できない
- ・病院や施設でも、体制が異なる

歯による口唇咬傷と残根状態



要介護高齢者の口腔乾燥



対症療法(保湿)→口腔環境の整備
原因療法(閉口)

多職種協働

教育の方向

- ・薬剤と検査の知識をつける
 - ・寝たきり患者の義歯調整法を学ぶ
 - ・摂食嚥下リハビリテーションをする
 - ・情報共有をする
 - ・キーパーソン・多職種を理解する
 - ・病院や施設の特徴を理解する
 - ・多職種協働を理解する

高齢・障害者歯科学 実習予定表

- 1回目 実習：相互実習室
 - 2回目 実習：相互実習室
 - 3回目 実習：相互実習室
 - 4回目 実習：相互実習室
 - 5回目 ワークショップ 601教室
 - 6回目 学外見学実習
 - 7回目 学外見学実習
 - 8回目 ワークショップ 601教室

相互実習室



1 □ ■

- ・実習の心得、注意事項説明
 - ・反復唾液嚥下テスト(RSST)
 - ・オーラルディアコキネシス
 - ・改訂水飲みテスト
 - ・頸部聴診法
 - ・VE(嚥下内視鏡)
 - ・まとめ
 - ・終了

反復唾液嚥下テスト(RSST)

- ・手の位置はありますか？



改定水飲みテスト (MWST)

- 重症の嚥下障害患者に行うことが多い検査方法のため、誤嚥の危険性も高い。
- したがってテスト前には口腔ケアを十分に行うようとする。



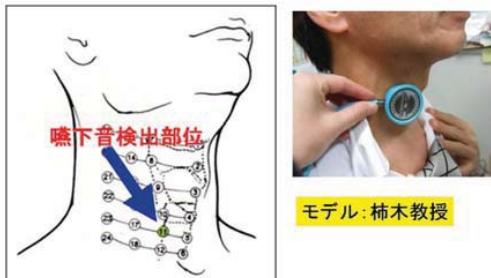
頸部聴診法

- 食塊を嚥下する際に咽頭部で生じる嚥下音と嚥下前後の呼吸音を頸部より聴診する。
- 非侵襲的に誤嚥や下咽頭部の貯留を判定して、嚥下障害をスクリーニングする。

写真はベル型を使用。ベル型を皮膚に密着させることで膜型の機能を得ることができる。



輪状軟骨直下気管外側上皮膚面



2回目

- 担当教員、TAによる身だしなみ確認
- グローブを取りに行く
- 前回の実習書返却と本日ぶんの配布
- バングード法
- ガムラビング
- メンデルゾーン手技
- 健口体操DVD
- まとめ

頸部ROM(可動域)訓練

摂食・嚥下の関連筋(頸部、肩)をストレッチし、嚥下時にスムーズに動くようにする。

- ホットタオルで、頸部を温める。
- 首の表面を手でもみほぐす。
- 肩を上げてから、ストンと落とし、リラックスする。
- 首を前に倒す。
- 首を左右に倒す。
- 首をねじる。

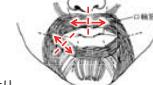


口唇訓練（受動的）

- 上・下口唇を口輪筋筋繊維の走行に対し、直角に縮めるようにつまむ



①縮める・筋繊維に直角に (上中央)
②縮める・筋繊維に直角に (下右)
③縮める・筋繊維に直角に (下左)



食べる機能の障害、歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション より

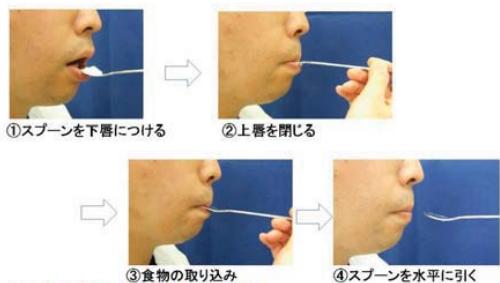
3回目・4回目

- 前回の実習書返却と本日分の配布
- ゼリーを食べる
- 目隠しで食材を食べさせる
- 捕食訓練
- 咀嚼訓練
- 水分摂取訓練(水のみ)、頸部回旋
- 水分摂取介助(れんげ、コップ)
- コップの改良
- まとめ
- 終了

一口量の調整



捕食訓練



※ 食材は半分残しておくこと！

口唇介助による捕食訓練



横向き嚥下(頸部回旋)



患側へ頸部回旋し、やや下を向いて健側を広げて嚥下する。
首の向きを変えて、交互嚥下も行います。

水の飲ませ方(コップ)

- 基本的にれんげと同じです。
- ①下唇にコップを付ける。
- ②上唇を水面に付けるように、口を開じさせる。
- ③飲むように指示する。
- ④飲みこぼしやムセがないかを確認する。

少量ずつ、ムセないように。
頭部の位置、体位の工夫が必要です。



とろみの調整

- 濃すぎた→サラサラにしたい!

作ったとろみ液
+少量ずつ水を加える。



- サラサラすぎた→濃くしたい!

作ったとろみ液
+濃く調整したとろみ剤を加える



※とろみ剤の粉を直接加えて濃くしようとすると、だまになります。

機能に合わせた調整が必要です。そのために、RSSTやムセの有無、咳などの機能を評価します。

歯磨きのポイント

- 頭を固定する。
- 口唇や舌を排除する。
- 見ながら清掃する。

※「痛くない」、「心地よい」ことも大切です。

学外実習

実習先

シルバーサンホーム
年長者の里
小倉リハビリテーション病院
北九州八幡東病院
北九州中央病院

学外実習の目的

- 高齢者の病院や施設における口腔ケアおよび摂食嚥下リハビリテーションの多職種協働を学ぶ
- 歯科医師として何ができるかを学ぶ
- 歯科衛生士の役割
- 多職種の役割
- 身だしなみの意義を学ぶ
- 高齢者及びスタッフとのコミュニケーションを学ぶ

学外実習の予定

- 集合: 601講義室に集合
- 時間: 12:45 出席確認 **12:50出発**
- 1245 出席・誓約書の確認、名札・マスク配布
- 1250 大学出発、移動(タクシー)
※あらかじめ予約しておいてください。
- 1315～ 到着次第、実習開始
- 1320～1600 各施設の担当者の指示により見学
- 1600～1615 移動(各施設の担当者の指示で移動する)
- 1620 医局員付き添いの場合は、到着後に解散。

その他の注意

- 交通費: 自費。
タクシー相乗り(公共交通機関、自家用車、徒歩などは不可。)引率者も一緒にタクシーに乘ります。
- 服装: 移動中は、私服。実習生として適切なもの。
筆記用具と白衣、上履きなどを持参する。
食品や飲み物などは、実習施設に持ち込まない。
- 備考: 事故などがあれば、学生支援班(582-1131内線7232)に連絡する。往復時の事故などについては、大学の保険で対応します。
- ただし、規定外の行動の場合は、適応されないことがあるので注意。

- ・当日の発熱等、体調不良の者は実習ができませんので、速やかに担当者に報告する。
- ・荷物は必要最小限でいくこと。
- ・施設の利用者さん、患者さんにおやつなどの食べ物をすすめられても、もらい食べしないように。判断に困ったときは、担当のインストラクターや施設職員に必ず確認して行動する。
- ・昼休みの時間が通常より短くなるので、お弁当などあらかじめ用意しておき、速やかに昼食が取れるように各自工夫する。
- ・大学582-1131(内線●●●●)
- ・直通285-●●●●(老年障害者歯科学分野)

ワークショップ

- ・学外実習の目的、課題を検討する。
- ・服装はどうするか、荷物はどうするか
- ・用意について:タクシー、お金の集め方
- ・実習で学ぶこと
- ・施設の特徴
- ・自分の知りたいこと→そのための用意、実習でしたいこと
- ・帰って来てから…実習で学んだこと、反省点など各班、みんなの前で発表します

シルバーサンホーム

- ・介護老人福祉施設
- ・シルバーサンホーム
- ・所在地北九州市小倉北区大手町17-15
TEL:093-582-0100 営業開始昭和55年10月2日 定員80名 規模・構造1. 敷地面積1972.59m²
- ・延床面積 2760.91m²
- ・構造:鉄筋コンクリート造4階建て
- ・居室:29部屋(4人用17部屋
3人用2部屋 個室6部屋)

木町2丁目バス停から徒歩2分



年長者の里

- ・八幡東区大蔵に開設されている
- ・約9,000坪の用地にクリニック(ものわすれ外来)や特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、ケアプラン作成・デイサービス・デイケア・訪問介護・訪問看護などの在宅サービス部門などがそろう医療・介護複合施設
- ・見学する施設によって、見学内容が異なります。



大蔵3丁目バス停から徒歩2分
タクシーが便利



小倉リハビリテーション病院

南小倉駅から徒歩3~4分



- ・198床、40床(障害者施設等病棟40床)
- ・158床(内・回復期リハビリテーション病棟120床)
- ・リハビリテーション科(総合リハビリテーション承認施設)
内科・神経内科・整形外科・放射線科・皮膚科
- ・**介護老人保健施設『伸寿苑』** 150床
人所、短期入所寮養介護(10名)、通所リハビリテーション40名
- ・**南小倉地域ケアセンター**
通所リハビリテーション(高齢者部門40名)
(フィットネス部門40名)、ケアマネジメントセンター、訪問看護、訪問リハビリテーション、在宅介護支援センター、テクノエイト、ボラティアセンター
- ・**小倉荘・老人福祉センター、通所介護**



北九州八幡東病院



- 介護保険病棟(285床) 西2階病棟 西3階病棟 西4階病棟
西5階病棟 東6階病棟
● 療養型介護療養施設サービス費(Ⅰ)
入院患者様6人に対し1人の看護職員(内2割が看護師)と同じく3人に対し1人の介護職員がいます。
● 夜間勤務等看護加算(Ⅲ)
夜間勤務を行う看護職員が適切に配置されています。
- 医療保険病棟(195床)
東3階病棟
特殊疾患療養病棟入院料1

西本町バス停から徒歩1分



北九州 中央病院



病床数:300床(医療保険240床、介護保険60床)

診療科: 内科、循環器内科、リハビリテーション

科、消化器内科

所在地: 北九州市小倉北区香春口1-13-1

設立から45年の歴史を有する北九州中央病院
は、都市型慢性期医療施設として、北九州モノレ
ール香春口三萩野駅のホームと直結している。



老人病院における 口腔ケアカンファレンス



ワークショップ(学外実習後)

施設ごとにグループ分け

各実習班で学習内容をまとめて、
発表する。

発表に対して質問をする。

レポートの提出

口腔外科病棟における臨床実習



歯科訪問診療への参加

附属病院・臨床実習

口腔環境科(高齢者歯科、摂食嚥下リハビリ)

- ・週に2~3回、1回5~8名で、歯科訪問診療を実施
- ・摂食機能療法への参加
- ・口腔ケアへの参加
- ・歯科診療の補助
- ・正しい知識を学習する

寝たきり高齢者の歯科訪問診療



口腔乾燥患者の口腔ケア

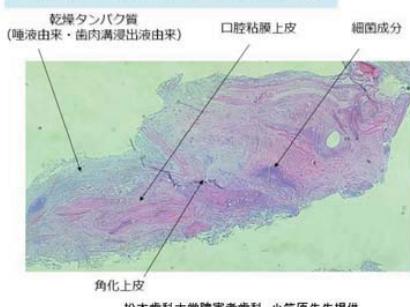


保湿剤の口腔ケアで、
発語ができるようにな
った症例
痰と間違う付着物



- 乾いた状態のまま、水分を使うのはリスクが高い。
- 水分を使う場合は、口腔に唾液が保持できるのを確認する。

口腔乾燥症患者の付着物



松本歯科大学障害者歯科 小笠原先生提供

高齢・障害者歯科学実習 12月からマナボットを利用した実習を開始

- 開発者の中道教授が本年4月に着任
- シミュレーション用ロボットを用いた実習
 - 口腔ケアの手順・方法を学ぶ
 - 摂食嚥下の検査法を学ぶ
 - VEの手順・方法を学ぶ
 - その他

周術期口腔ケアに係る実習 (平成28年度から開始)

- 連携病院における臨床実習
- 医科との連携
- 看護やその他の職種との連携・協働
- 歯科の役割を学ぶ
- 多職種の役割を学ぶ
- コミュニケーション技術を学ぶ
- その他

多職種連携から多職種協働へ

- 歯科医師の位置づけを学ぶ
- 患者を中心としたチーム医療
- 多職種を理解する
- 歯科訪問診療に必要な技術と知識の習得
- 病態を理解した義歯調整法の習得
- 摂食機能療法の技術と知識の習得
- 多職種協働を実践できるようになる

今求められている 多職種連携教育

Interprofessional Education (IPE)

福岡大学医学部
歯科口腔外科
瀬戸美夏、大谷泰志、喜多涼介
松田道隆、成平恭一、川島次郎
平瀬正康、喜久田利弘
総合医学研究センター
出石宗仁

多職種連携教育 Interprofessional Education (IPE)

定義
CAIPE(Centre For The Advancement Of Interprofessional Education)
<http://caipe.org.uk/resources/defining-ipe/>

The definition

"Interprofessional Education occurs when two or more professions learn with, from and about each other to improve collaboration and the quality of care" CAIPE 2002

職種間の協働と患者のケアの質を向上させるために、二つ以上の専門職が共に、互いを知り、学び合うこと。

「今求められている多職種連携教育」	
A. 基本事項	「医学教育モデル・コア・カリキュラム」平成22年度改訂版
1. 医の原則	2. 医療における安全性確保
3. コミュニケーションとチーム医療	(1)コミュニケーション (2)患者と医師の関係 (3)患者中心のチーム医療
4. 課題探求・解決と学習の在り方	

一般目標

チーム医療の重要性を理解し医療従事者との連携を図る能力を身につける。

到達目標

- 1) チーム医療の意義を説明できる。
- 2) 医療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
- 3) 自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。
- 4) 保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。

「今求められている多職種連携教育」	
G. 臨床実習	「医学教育モデル・コア・カリキュラム」平成22年度改訂版
1. 診療の基本	
2. 診察法	
3. 基本的臨床手技	
4. 診療科臨床実習	
5. 地域医療臨床実習	

一般目標

地域社会(へき地、離島をふくむ)で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して、各々の実態や連携の必要性を学ぶ。

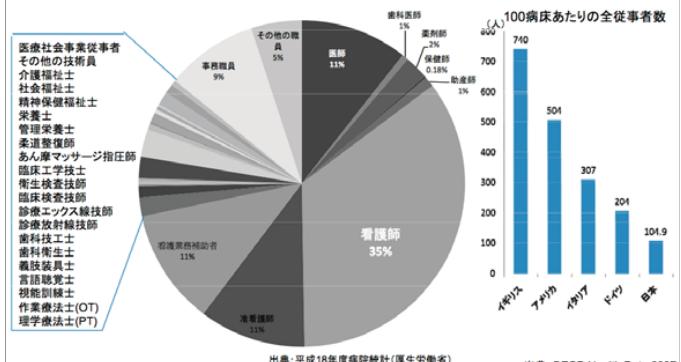
到達目標

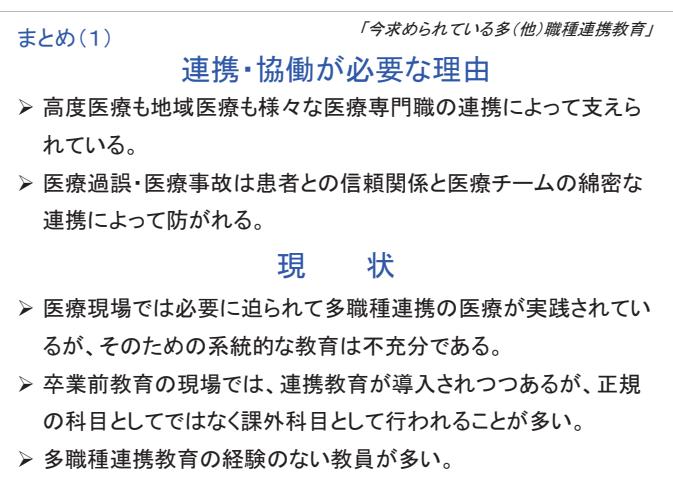
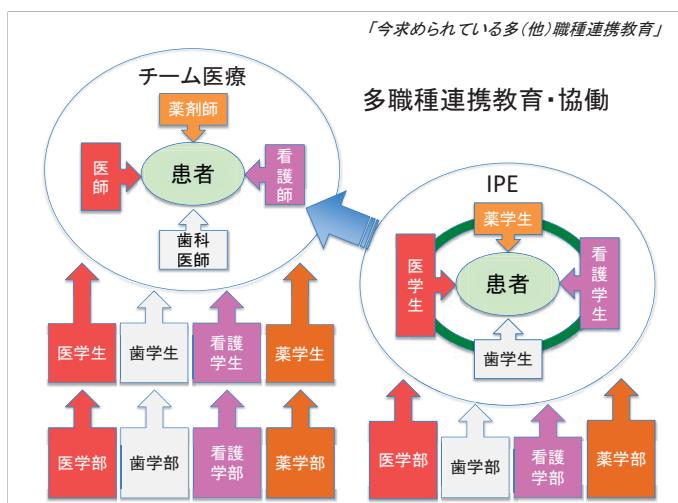
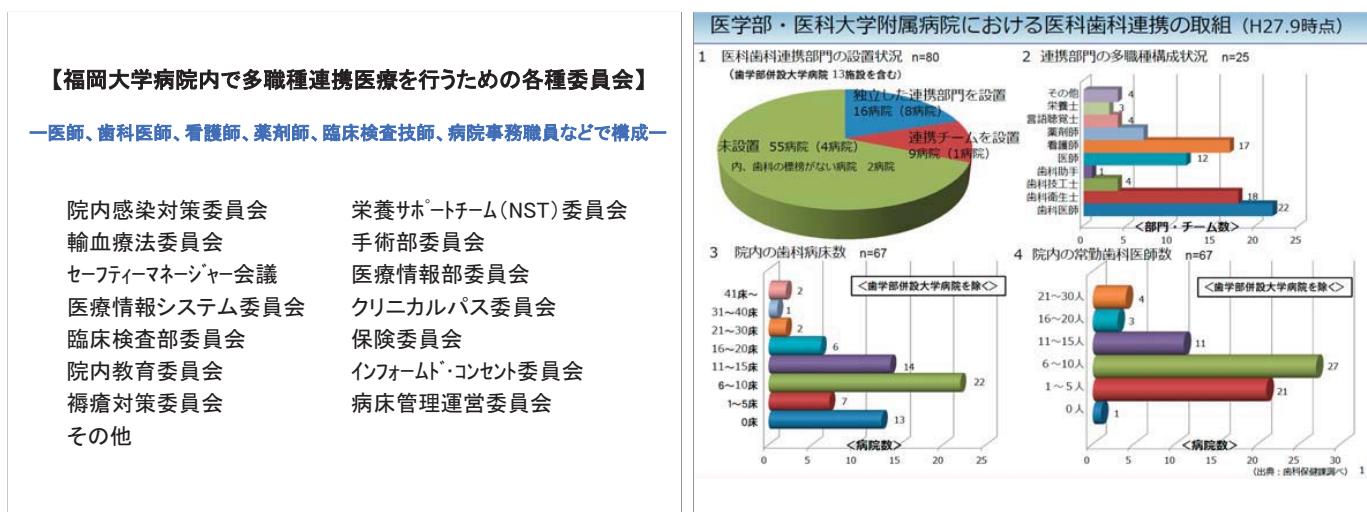
- 1) 地域のプライマリ・ケアを体験する。
- 2) 病診連携・病病連携を体験する。
- 3) 地域の救急医療、在宅医療を体験する。
- 4) 多職種連携のチーム医療を体験する。
- 5) 地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する。

「今求められている多職種連携教育」	
福岡大学での経験	
医学科と看護学科一年生の合同実習	
平成19年度看護学科開設～平成23年度	
医学科	看護学科
医学概論演習(看護実習)	看護実習(総合実習)
担当教員 医学科1名	担当教員 看護学科10名
各病棟看護師長	
一般目標	
1. 医療現場の体験を通して、患者の入院生活や心理を理解する。	
2. 医療の現場を見学し、チーム医療を理解する。	
3. 自己の体験を振り返り学習課題を明確にする。	

医学科と看護学科学生10-12名ずつ、各病棟で3日間看護師と行動を共にして学習し、終了後に成果発表と討論会を開催。
※ 実施時期: 9月初旬(他学部は夏期休暇中)

病院は様々な専門職種によって支えられている —100病床あたりの全職員数は諸外国平均の24%





まとめ(2)

「今求められている多(他)職種連携教育」

今後の課題

- 大学間、学部・学科間の教員の連携・協働によって
「互いの専門性を理解し、
協調的にチーム医療に参加できる」
という「多職種共通の卒前教育到達目標」の共有
- それに基づくカリキュラムの作成

考えられるカリキュラム(複数の学部・学科生の共修)

低学年	高学年
体験学習・実習	病棟実習
病院・施設見学	地域医療実習
シミュレータによる医療体験	
グループ学習	
PBLテュートリアル、TBLなど	

「福岡歯科大学の多職種連携教育の現在・未来」

牧野 路子（総合歯科学講座 高齢者歯科学分野）
森田 浩光（総合歯科学講座 総合歯科学分野）
晴佐久 悟（口腔保健学講座 口腔健康科学分野）
米田 雅裕（総合歯科学講座 総合歯科学分野）
吉永 泰周（総合歯科学講座 総合歯科学分野）
松崎 英津子（総合歯科学講座 総合歯科学分野）
都築 尊（総合歯科学講座 総合歯科学分野）
天野 郁子（総合歯科学講座 総合歯科学分野）
池邊 哲郎（口腔・顎頬面外科学講座 口腔外科学分野）

歯学教育での多職種連携教育とは何か？

口腔医学教育の一環として、歯科医師が、他の職種（医師、看護師、介護士、言語聴覚士など）と連携して、医療、介護を実践できるように、講義、演習、および実習を通して、教育すること。

現在の本学の授業で多職種連携授業に近い授業の紹介

- 1) 介護実習：1、3、5学年
歯科医師と介護福祉士との連携
- 2) 訪問歯科実習：5学年
歯科医師と医師、看護師、言語聴覚士との連携

1) 介護実習：1、3、5学年の現状



福岡歯科大学 介護実習

年次	実習名称	目標
1年	介護施設実習	・要介護高齢者との交流体験 ・アーリーエクスプロージャー
3年	介護宿泊実習	・24時間の介護体験 ・食事介助、口腔ケアなどの実施
5年	介護実習	・介護基本技術の実践 ・要介護高齢者の特性の把握

1年 介護施設実習

－ アーリーエクスポージャー

- ・事前実習:車いす操作、高齢者コミュニケーション(4時間)
- ・施設において小グループでの介護体験(半日)



1年 介護施設実習

－ アーリーエクスポージャー

- ・事前実習:車いす操作、高齢者コミュニケーション(4時間)
- ・施設において小グループでの介護体験(半日)



3年 介護宿泊実習

－ 24時間の介護体験、・食事介助などの実施

- ・事前実習:口腔ケア、食事介助、
認知症高齢者コミュニケーション(4時間)
- ・施設での当直介護体験(23時間)



3年 介護宿泊実習

－ 24時間の介護体験、・食事介助などの実施

- ・事前実習:口腔ケア、食事介助、
認知症高齢者コミュニケーション(4時間)
- ・施設での当直介護体験(23時間)



5年 介護実習

－ 介護基本技術の実践、要介護高齢者の特性把握

- ・事前実習:口腔ケア、嚥下スクリーニング、認知機能検査、食事介助、車いす介助、体位変換、歩行介助など(1日)
- ・施設での介護実習と嚥下スクリーニング等の実施(5日間)



5年 介護実習

－ 介護基本技術の実践、要介護高齢者の特性把握

- ・事前実習:口腔ケア、嚥下スクリーニング、認知機能検査、食事介助、車いす介助、体位変換、歩行介助など(1日)
- ・施設での介護実習と嚥下スクリーニング等の実施(5日間)



介護実習による教育効果

歯学部生(5年)の施設実習前後の高齢者に対する印象の変化について

実習前評価

実習説明(1日)

介護保険施設での介護実習(5日)

実習内容: 口腔ケア、食事介助、生活介助など

実習後評価

- 平成24年度から平成26年度の3年間で238名に配布
➡ 有効回答は207名であった。(86.9%)

	全体
性別(男性/女性)	83/124
実習施設 (介護老人保健施設/介護老人福祉施設)	104/103
祖父母との同居経験(あり/なし)	73/95

● 自記式質問票による調査

- 主に形容詞の対比する言葉で構成
- 7段階評価

例.

◆ 暗い

1 ━━━━ 7 明るい

◆ 魅力のない

━ ━ ━ ━ ━ ━ ━ 魅力のある

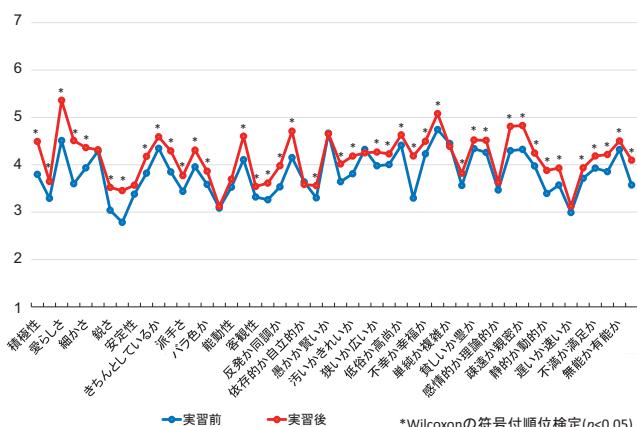
数字の大きい方がプラスイメージが強い

質問項目

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------------|
| 1. 消極的/積極的 | 22. 魅力のない/魅力のある | 43. 静的/動的 |
| 2. 不自由な/自由な | 23. 依存的/自立的 | 44. 孤立/連帯 |
| 3. 憎らしい/愛らしい | 24. 小さい/大きい | 45. 遅い/速い |
| 4. 固い/柔らかい | 25. 豊かな/賢い | 46. 目立たない/目立つ |
| 5. 粗い/細かい | 26. 非生産的/生産的 | 47. 不満/満足 |
| 6. 驚かしい/静かな | 27. きたない/きれい | 48. いぱつた
/へりくだった |
| 7. 鈍い/鋭い | 28. 貪欲な/無欲な | 49. 無能な/有能な |
| 8. 保守的/進歩的 | 29. 狹い/広い | 50. 閉鎖的/開放的 |
| 9. 不安定/安定 | 30. 貧弱な/立派な | |
| 10. 悲しい/うれしい | 31. 低俗な/高尚な | |
| 11. だらしない/きんとした | 32. 強情な/素直な | |
| 12. 内向的/外交的 | 33. 不幸な/幸福な | |
| 13. 地味な/派手な | 34. つめたい/あたたかい | |
| 14. 空っぽな/満たされた | 35. 単純な/複雑な | |
| 15. 灰色/パラ色 | 36. 弱々しい/たくましい | |
| 16. 暫そう/忙しそう | 37. 貧しい/豊かな | |
| 17. 受動的/能動的 | 38. 苦った/すぐれた | |
| 18. 暗い/明るい | 39. 感情的/論理的 | |
| 19. 主観的/客観的 | 40. 働かしい/優しい | |
| 20. 弱い/強い | 41. 疎遠な/親密な | |
| 21. 反発/同調 | 42. 悲観的/楽観的 | |

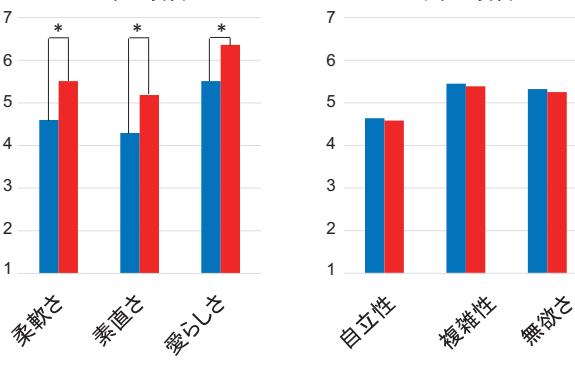
50項目

実習前後での各項目の変化(3年間)

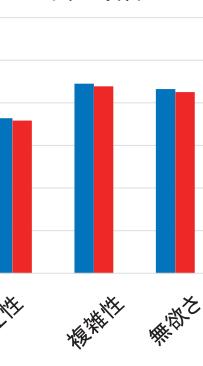


実習前後での各項目の変化(3年間)

上位3項目



下位3項目

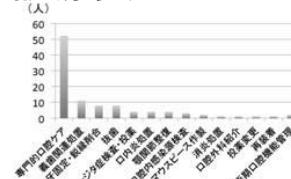


2)訪問歯科実習の現状

歯科診療部門のない急性期病院での多職種が連携した訪問診療実習風景



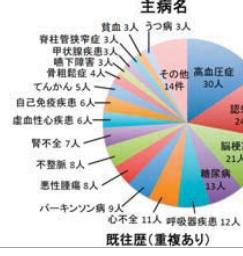
診療実態



歯科処置内容(重複あり)



歯科介入患者の転帰



様々な口腔病変(周術期および終末期)



OHATを用いたアセスメントとケア指針の作成

ORAL HEALTH ASSESSMENT TOOL (OHAT) (Chalmers JM et al., 2005)

ID:	氏名	評価日: / /		
項目	D=健全	1=やや不良	2=良的	スコア
口唇	正常、健闘、ピンク	乾燥、ひび割れ、口角の炎症	褐色、白色斑、出血、口角からの出血、潰瘍	
舌	正常、健闘、ピンク	不整、生鮮、発赤、舌苔付着	赤色斑、白色斑、潰瘍、腫脹	
歯肉・粘膜	正常、健闘、ピンク、出血なし	乾燥、光沢、粗糙、発赤、部分的な1-6箇所の腫脹	腫脹、出血(1箇所以上)、炎の範囲、潰瘍、口内からの出血、正側面	
唾液	正常	乾燥、べたつく粘膜、舌苔付着、舌の発赤、口渴感若干あり	赤く水たたむ状態、舌の発赤、舌苔付着、口渴感あり	
残存歯	歯・虫歯の残存数は減少または壊滅なし	1本以下の歯の残存、歯の健在、歯根、残根、咬合	4本以上の歯の残存、歯の健在、歯根、残根、歯周病による歯の喪失	
義歯	正常、健闘、人工歯の健在なし、骨床に嵌入できる状態	一部位の義歯、人工歯の健在	一部位の義歯、人工歯の健在	
口腔清掃	口腔清掃状態良好	2箇所以上に及ぶ歯石、黒ずみ、フックアリ	多くの部位に歯石、黒ずみ、フックアリ	
歯痛	歯痛を示す苦勤的な経験あり	歯痛を示す苦勤的な経験あり	歯痛を示す身体的な経験あり	合計
歯科受診	(是 - 不是)			
高評価判定日	/ /			

日本語訳: 齧田健徳先生 大学医学部歯科 化粧室一室, with permission by The Iowa Geriatric Education Center

available for download: <http://dentistry.iowa.edu/revised-aug-05/>

現状の授業での問題点 ⇒学生に不足している能力

[介護現場では]

- ① 摂食嚥下障害のリハビリの現場
- ② ケアプラン作成の現場



介護福祉士や家族とのコミュニケーション能力の不足

現状の授業での問題点 ⇒学生に不足している能力

[訪問歯科医療の現場では]

- ① 終末期の現場



医療従事者・家族とのコミュニケーション能力の不足

現状の授業での問題点 ⇒学生に不足している能力

口腔疾患と全身疾患との関連性について
他職種とコミュニケーションする能力
例)

医師への照会状の作成能力の不足
糖尿病教室での歯科と医科の連携
心疾患予防での歯科と医科の連携
周産期医療での歯科と医科の連携

新しい多職種連携授業のポイント

現状の反省から:

摂食嚥下および終末期の現場における
他職種と家族とのコミュニケーション能力
の向上

資料Ⅲ-5

平成27年度 戦略的大学連携事業FDについて

- 主 催： 北海道医療大学
- 開催日時： 平成27年11月18日（水）17：00～20：20
- 開催場所： 各大学会議室等（テレビ会議システム）
- 実施内容：
 - 1. 開催の挨拶 北海道医療大学 歯学部長 斎藤隆史
 - 2. FD進行の説明 北海道医療大学 教授 安彦善裕
福岡歯科大学 教授 池邊哲郎
 - 3. 発表 「今求められている多（他）職種連携授業」（担当者の敬称略）
 - ①北海道医療大学 （豊下祥史）
 - ②鶴見大学 （小川匠）
 - ③岩手医科大学 （阿部晶子）
 - ④神奈川歯科大学 （森本佳成）
 - ⑤昭和大学 （石川健太郎）
 - ⑥九州歯科大学 （柿木保明）
 - ⑦福岡大学 （出石宗仁）
 - ⑧福岡歯科大学 （牧野路子、森田浩光、晴佐久悟）
 - 4. 全体討論・質疑応答・まとめ
 - 5. 閉会の挨拶 北海道医療大学 教授 安彦善裕

【所感】

今年度は「今求められている（他）多職種連携授業」というテーマで各大学の取り組みや実情などについてご報告頂き、今後の対策について討論した。

北海道医療大学では、超高齢社会を見据えた福祉施設実習、訪問歯科診療やチーム医療の実践を特色として掲げ、多職種連携教育に取り組んでいる内容についての報告がなされた。鶴見大学では、歯科医療を取り巻く実質的なコ・デンタルの衛生士、技工士、受付の多職種連携について、学生参加型臨床実習の内容を中心に報告がなされた。岩手医科大学では、岩手医科大学附属病院における多職種連携の紹介および歯学部の卒前教育におけるチーム医療に関する講義や、医・歯・薬学部による緩和医療をテーマにしたコンセンサスワークショップ、臨床実習における多職種取組に関する報告がなされた。神奈川歯科大学

では、高齢者、特に独居高齢者比率の高いところに立地していることに伴う医療および福祉関係の職種との連携に向けた教育改革についての報告がなされた。昭和大学では、チーム医療学習として行われている「学部連携病棟実習(必修)」、「学部連携地域医療実習(選択制)」が紹介され、超高齢社会における慢性期・在宅に関する教育内容についての報告がなされた。九州歯科大学では、高齢者歯科学実習および臨床実習の一環として行っている高齢者施設や老人病院での口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーションの実習内容について紹介され、実習の前後で行われている学生同士によるワークショップについての報告がなされた。福岡大学では、医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「患者中心のチーム医療」、「多職種連携のチーム医療」について紹介され、大学病院における医科と歯科の連携に関する現状についての報告がなされた。福岡歯科大学では、介護職員と連携した介護教育および医師、看護師、言語聴覚士、介護福祉士等と連携した訪問診療教育について紹介され、口腔医学を実践する多職種連携教育のための教育のさらなる充実化についての報告がなされた。

全体討議では、歯科医師が連携に関わる主なものとして「高齢者医療」と「周術期医療」のあることが確認された。「高齢者医療」での多職種連携についての取り組みは、既にほとんどの大学で行われているが、今後この連携は在宅医療の場面が主体になるために、在宅医療に関する教育を充実していくべきであるとの意見で一致した。一方、「周術期医療」への取り組みについては、大学間で大きなバラツキがあり、今後、ある程度共通の認識のもとに教育がなされるべきだとの意見となった。特に、医学部のある大学では積極的に行われているものの、医学部を有していない大学では、あまり取り組まれていない傾向にあることが明らかとなり、口腔医学に関する教育の新たな問題が浮き彫りにされたように思われた。

資料IV

平成27年度戦略的大学連携事業 職員短期研修派遣実施一覧

派遣元大学	派遣者所属	所属部署	派遣者氏名	職名	研修希望業務	派遣時期	派遣先大学	受入可能所属	所属部署	
神奈川歯科大学	法人(歯学部) 医学部・その他	教学部教務係	緒方 亮	事務員	試験に関する業務全般	8/3-5	→	昭和大学	法人(歯学部) 医学部・その他	学事部学務課
神奈川歯科大学	法人(歯学部) 医学部・その他	教学部学生係 (短大担当)	楠 雄治	事務員	学生に関連する業務全般	7/27-29	→	福岡歯科大学	法人(歯学部) 医学部・その他	学務課
昭和大学	法人(歯学部) 医学部・その他	学事部学務課	竹田美弥	係員	授業管理 学生募集(入試) 委員会	7/27-29	→	福岡歯科大学	法人(歯学部) 医学部・その他	学務課
福岡歯科大学	法人(歯学部) 医学部・その他	企画課 企画広報係	長池 淳	事務職員	広報に関する業務全般	7/22-23	→	昭和大学	法人(歯学部) 医学部・その他	総務部総務課 学事部入学支援課

全身の健康を守る 歯科医師になろう。

近年の歯学は、歯や口を見るだけでなく、
全身を診る口腔医学へと
進化・発展しています。

高齢社会を迎え、
いかに豊かな人生を送るかという
Quality of Lifeが重要視されているいま、
人々の健康と生活の質に深く関わる
歯科医療の役割は広がり、
歯科医師に対する期待感も
高まっています。

最新の歯科医療知識と技術、
高い臨床力を身につけた
「新時代の歯科医師”へ。

「歯学」だけにとどまらない、
全身の健康との関わりを考えた
「口腔医学」の重要性にいち早く着目し、
教育を実践してきた福岡歯科大学。
日夜発展する口腔医学の最前線から、
広く人々の健康に貢献できる人材を
育成しています。



歯学から口腔医学へ

近年、医学・歯学領域の進歩によって、むし歯や歯の周辺の疾患は、糖尿病や動脈硬化、心筋梗塞、心内膜炎などのがん病と深い関係があることが分かつてきました。例えばがん摘出手術の際、口腔ケアを施すことによって術後感染症を予防する効果があることが明らかとなってきた。チーム医療の一員として歯科医師が関わることで、治療効果が大きく向上するのです。

また、口腔機能は脳機能の活性化にも関連することが解明されつつあり、高齢社会において口腔医療は人々が健康で幸せな生活を送るうえでますます重要になってきています。

しかし、從来の歯科医学・歯科医療は歯およびその周囲組織を主な対象とし、全身とは切り離された形で実践される場合が多かったです。福岡歯科大学ではこの従来の「歯学」教育の概念を拡大し、口腔疾患の専門的知識、技術に加えて、医学一般的な基本的教育を受けた歯科医師が口腔疾患の予防と治療を担当することが、患者さんにとって大変好ましいことだと捉えています。このことから、口腔は生命維持の基本的機能をもつ臓器であり、口腔領域の疾患は全身疾患と密接な関連があるという「口腔医学」を提唱し、全国に先駆け、從来の歯学に一般医学の要素を取り入れた、より総合的な口腔医学教育を実践しています。



学校法人福岡歯科大学理事長 水田 祥代

医学の基礎を修得した
歯科医師を育てる
福岡歯科大学の5つの特長

① 口腔医学のスペシャリストを育成する
充実のカリキュラム

福岡歯科大学は一般医学カリキュラムを横断的に取り入れています。臨床実習では総合病院、各専門病院実習に加えて、歯科の歯科病院総合病院の内科、外科などでも見学実習を行い、全身の健康を理解していくことを実践しています。

② 海外の大学との連携による国際交流

近年、世界中の歯科医療が国際的に進歩しています。そのため学生時代から一貫して多くの国際会議に登壇するなど、国際的なNEDS 大会など国際交流協定を締結しています。

(福岡歯科大学カナダブリティッシュコロンビア大学、中国・上海交通大学口腔医学院、中華人民共和国解放军軍事医学科学院、中華人民共和国解放军軍事医学科学院、中国・解放军軍事医学科学院、米シカゴ・マサチューセッツ大学)

③ 最新鋭の設備がそろうる学習環境

第2施設浴槽室内には12台の歯科治療ユニットを完備。学生同士のチーム学習を行うことが可能です。このほかにマウスマデアで対応した「総合歯科実習教育実習室」、歯科の最新特許を複数種類体験できる「患者用ホルトム化研究実習室」などを設けています。

④ 医科歯科総合病院をはじめとする充実した臨床実習施設

大学附属の福岡歯科大学歯科病院総合病院は歯科、歯科連携を目的とした全国でも珍しい総合病院。また、施設内には介護老人保健施設「サンシャインシティ」、介護老人保健施設「サンシャインアーバザ」があり、これらからの高齢化社会を見据えた施設運営を行っています。

⑤ 毕業後も最先端を学ぶ研修で
着実にスキルアップ

社会環境の変化や歯科医療技術の進歩に対応するため、卒業後の先輩研修会は毎年開催されています。口腔多用訓練カリキュラムを設けた「院長セミナー」では新規参学者のほか一般の歯科歯科医師や歯科医のニーズや技術の変化に対応できるよう様々な講座を開催しています。

2016年度入試日程

2015年11月2日(月)より推薦・指定校推薦入試の願書受付開始!!

区 分	願書受付期間	試験日	合格発表日	試験会場
推薦・指定校推薦入試	2015年 11月2日(月)~11月12日(木)	2015年 11月14日(土)	2015年 11月16日(月)	福岡歯科大学試験場
一般入試A日程 センター試験利用入試期	2016年 1月4日(月)~1月28日(木)	2016年 2月2日(火)	2016年 2月4日(木)	福岡歯科大学試験場 東京試験場(東京ガーデンパレス)
一般入試B日程 センター試験利用入試期	2016年 2月1日(月)~3月2日(水)	2016年 3月4日(金)	2016年 3月8日(火)	福岡歯科大学試験場
AO入試II期	2016年 3月7日(月)~3月17日(木)	2016年 3月22日(火)	2016年 3月23日(水)	

【お問い合わせ先】福岡歯科大学 学務課入試係 〒810-193 福岡市早良区田村2-15-1
TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427(直通) E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp

福岡歯科大学 検索

「口腔医学」の創設と育成を目指す
福岡歯科大学
FUKUOKA DENTAL COLLEGE



「2015（平成27）年11月8日（日）読売新聞 朝刊」

広告 企画・制作：(株) 読売広告西部

口腔の健康が全身の健康を守る～歯学から口腔医学へ～

監修：水田 祥代

著者

監修

著者

「財界九州 2016年1月号」

Suita Sachiyo

水田 祥代

福岡学園 理事長

KYUSHU
OKINAWA
TOP
FILE

2016

九州・沖縄を担うトップ群像

「総合的な『口腔医学』教育を実践する」

MEMO

- 1942年3月16日生まれ
- 大分県大分市出身
- 九州大学院医学研究科修了
　　英国留学を経て九州大医学部付属病院助教（第2外科）。福岡市立こども病院外科部長、女性初の九州大医学部教授（小児外科学講座）、九州大学病院長、九州大理事・副学長などを歴任。2015年3月から現職。「犬と大きな木が大好き」で公園を散策し、樹木を鑑賞するのが楽しみ。



2015年に田中健藏前理事長の逝去に伴い、学校法人福岡学園の理事長の重責を担うことになったが、約4年間の常務理事の経験を踏まえ、前理事長が提唱されていた「歯学から口腔医学へ」の教育ビジョンを継承し、従来の歯学に一般医学の要素を取り入れた総合的な口腔医学教育に注力していく。

最近では医学・歯学領域の進歩により、歯やその周辺を含めた口腔状態が全身の健康に影響を及ぼすことが分かっており、口腔疾患の専門的知識・技術に加え、一般医学の基本的教育を受けた歯科医師の育成が急務となっている。

西日本唯一の私立歯科大である福岡歯科大や福岡医療短期大における口腔医学教育の推進、医科歯科総合病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどの関連施設を活用した地域社会に貢献できる学園づくりにも努めていく。

看護大学創設や新病院建設の準備も進めており、16年10月には本学が主幹校を務め、九州初の日本歯科医学会総会が福岡市で開催される。相次ぐチャレンジをチャンスとし、将来への基盤固めにつなげたい。



シリーズ・大学を訪ねて

「歯学から口腔医学へ」を掲げ、時代のニーズに対応できる歯科医師を育成



福岡歯科大学長 石川勝之先生

また、日本社会が超高齢社会を迎える、歯科に来院する患者の実態も大きく変化している。歯科診療所を訪れる65歳以上の患者は、1984年には約10人に1人だったのが、2011年には約3人に1人となり、現在も増加傾向にあります。それに伴い、何らかの病気を持つ患者が多く来院するようになり、安心・安全な歯科医療を実施するためには、歯科医師にこれまで以上の全身の理解や医学的知識の修得が必要になってきた。

超高齢社会の進展は、来院する高齢患者だけでなく、来院できない高齢患者もまた増えている。その結果、在宅や介護施設への訪問歯科診療の機会が増えている。

「厚生労働省で最後まで住み慣れた地域で暮らす「地域包括ケアシステム」の構築を推進していますが、その中で歯科医師は医科の先生方や介護スタッフなどと連携しながら地域住民を支えていかなければなりません」(石川先生は)。

超高齢社会の進展など歯科医療を取り巻く環境が激変

開学40年となる福岡歯科大学にとって2013年は特筆すべき出来事があった年だった。学部・学科の名称を専門部・専学科から「口腔歯学部・口腔医学科」に変更したのだ。その理由について、同大学学長の石川博之先生は「歯科医療をとりまく環境が大きく変化したからです」と話す。

これまでの歯科医療はむし歯や歯周病などの治療を主体としていた。しかし近年、むし歯の患者は激減し、その一方で咀嚼や摂食・嚥下などの口腔機能の改善、あるいは口元の審美的な側面も含めたQOL(生活の質)の向上といつたニーズが高まっている。

「歯学から口腔医学へ」を掲げ、時代のニーズに対応できる歯科医師を育成

1学年からキャンパス内にある附属の医療機関や介護施設で実習

同大学のキャンパス内には、福岡歯科大学医科歯科総合病院という歯科12、医科12の診療科を構成する附属病院がある。日本医療機能評価機構から認定を受けた高い水準の総合病院だ。また、介護老人保健施設と介護老人福祉施設もある。同大学ではこうした開運施設を有効活用して、特色あるカリキュラムを組んでいる。

「歯学から口腔医学への基盤となるのは『教育・態度教育』『専門歯学教育』『開運医学教育』の三つの柱だ。中でも目を見張るのが開運医学教育の充実ぶりだ。1学年では解剖や生理の基礎医学、2学年では人全体の基本を形態・解剖・組織学と機能(生理・生化学、3学年で内科学や外科学、小児科学、眼科学、皮膚

科学、産婦人科学などの科目を学ぶ。さらに5学年では、附属の医科歯科総合病院での医科臨床実習が用意される。

「糖尿病や高血圧の患者さんに歯科処置をするときなどは十分な注意が必要です。学生たちは机上で知識を得ていても、実際の糖尿病や高血圧の患者さんと出会う機会がほとんどありません。医科臨床実習では、学生たちがそうした患者さんのベッドサイドに行って歯歴聴取をしたり、どんな治療を受けているかなどを学んだりして、高血圧や糖尿病の理解を深めています」

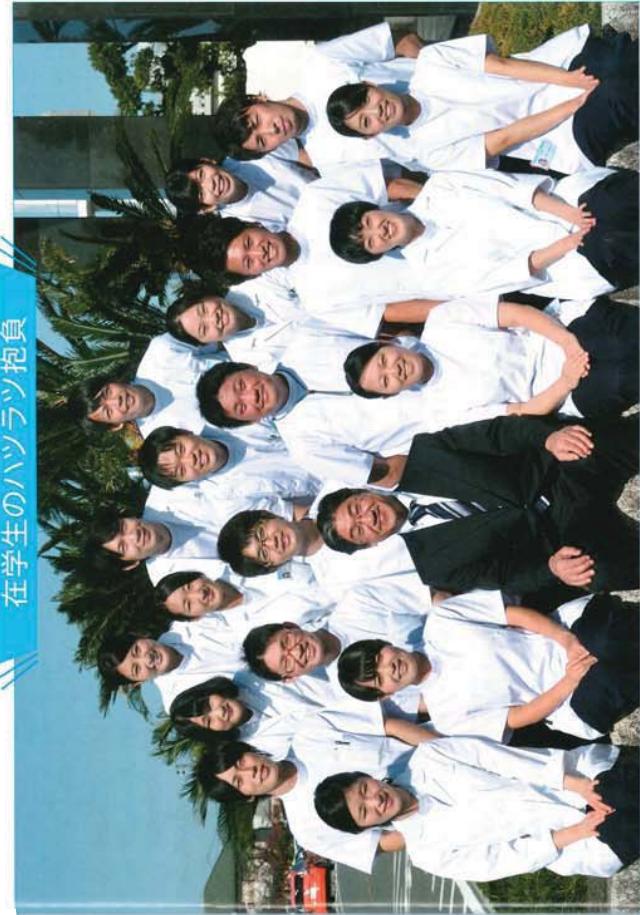


キャンパス内の介護老人保健施設・開運医学教育実習

もう一つ、同大学のカリキュラムの特徴が実習規則だ。先述した5学年の医科臨床実習はその代表例だが、それだけではない。すでに1学年から実習の授業が設けられている。

1学年ではキャンパス内の介護老人保健施設や介護老人福祉施設に出向いてラッシュング体験実習を行つ。3学年では介護施設に宿泊し、高齢者の食事介助などを行つ。5学年では介護施設や学外の協力施設などで訪問歯科実習を行い、口腔ケア、車いす移乗、体位変換などを1日コースでじっくりと学ぶ。

「病院では医科の専任教員や看護師、介護施設では介護福祉士やヘルパーなどと接します。学生時代から他職種と交わる経験をしておけば、将来、他職種との連携の際に心理的なつながりができづらくなります」と石川先生は病院や介護施設での実習のメリットを挙げる。実習重視は学年内の施設設備にも表れている。10年に新設型実技教育実習室を新設。マルチメディアに対応し、実習台がコンピュータと連動して実習が記録される。また、ライター(指



在学生のハラツ抱負

ために、今大学院の教育のリニューアルを推進しているところです」と石川先生は強調する。

担任システムの助言教員制度で学生に細かなアドバイス

アジアのゲートウェイである福岡という地にある大学だけに、国際交流も盛んだ。中国、カナダ、韓国、ミャンマーの4ヵ国・6大学と国際交流協定を締結。毎年、学生・教員の相互交流を実施している。「さまざまな国の人と触れ合って、学生が自分の達成度に合わせて実習を進めることができた」と石川先生は語る。実習室の部屋には、患者型ロボットが置かれており、歯科診療中に全身状態が変更するロボットで、学生が自分の達成度に合わせて実習を進めることができた。実習室には、患者型ロボットが置かれており、歯科診療中に全身状態が変更するロボットで、学生が自分の達成度に合わせて実習を進めることができた。

設備・施設に関しては、各学年が用いる講義室に講義録画システムが完備されている。LANとWi-Fiの環境下で、学生はコンピュータやiPadなどを用いて、学内についても講義を繰り返し見て、自学自習できる環境が整えられている。



コンピュータで質問も安全・便利な実技演習室。各年の学年順度に合わせて実習を進めることができる

研究者とともにリサーチマインドを持つた臨床医を育てる大学院

技術の進化や時代の変化に伴う患者のニーズに対応できる新しい歯科医師を育成する一方で、すでに卒業した歯科医師たちにも新しい知識や技術を身に付けてほしいと、生涯研修を定期的に開き、卒後教育を行っている。

大学院については、最新機器を備えた再生医学研究センターや先端科学研究センターなどで研究活動を支援し、次代を担う研究者の育成に努めている。

「私たちもは研究者の育成と併行して、研究活動を通してリサーチマインドを持つた臨床医の育成に力を注いでいます。初診の患者さんに寄り添って検査を行い、問題を発見し、検査他のデータを解釈して最後に治療法を見つけるというプロセスは研究と全く同じです。研究者となりリサーチマインドを持つ臨床医という2つのアプローチで社会に貢献できる人材を育てたい。そのた

めに、今大学院の教育のリニューアルを推進しているところです」と石川先生は強調する。

◆池田　れい子
●日々の心地よい口腔環境をもつてつづけ技術や知識を伝授し、まずは目にで覚えるところから始め、患者さんが楽しく、最後まで乐んで覚えることを提供できる歯科医師にならたいです。

◆坪島　光希
●福井、父のように地域の方々に信頼される歯科医師にならたいです。患者さんの医療態度の大切さを理解するため、常にコミュニケーションを取ることを心がけています。

◆鶴見　伸哉
●私は、歯科医師として患者さんと一緒に治療したかったのです。また、患者さんとの良好な関係を築くこと、患者さんに対する歯科医のモチベーションを高められる歯科医師を目指します。

◆田中　由美
●私は、歯科医師の父と同僚、患者さんと一緒に治療したかったのです。そのため、神奈川県立歯科医療専門学校で学び、卒業後は、患者さんとの良好な関係を築くことを目指しています。

◆西原　有紀
●私は将来、患者さん一人ひとりに合った治療ができる歯科医師にならたいです。そのため、多くの患者さんと良好な医患関係を築くことを目指しています。

◆山本　繁子
●私は将来、患者さんと一緒に治療したかったのです。そのため、歯科医療専門学校で学び、卒業後は、患者さんとの良好な医患関係を築くことを目指しています。私は将来、患者さんと一緒に治療したかったのです。そのため、歯科医療専門学校で学び、卒業後は、患者さんと一緒に治療したかったのです。そのため、歯科医療専門学校で学び、卒業後は、患者さんと一緒に治療したかったです。

◆西原　有紀
●私は将来、患者さんと一緒に治療したかったのです。そのため、歯科医療専門学校で学び、卒業後は、患者さんと一緒に治療したかったです。

◆上田　政祐
●私は、通院が困難な患者さんのために訪問診療を行なうことを目的に行なっています。研究者として多くの患者さんとのつきあいを大切にしたいと思います。

◆西原　有紀
●私は、地域密着型の歯科医師にならたいです。

総合的な口腔医学教育で 新時代の歯科医師を輩出

水田 祥代 福岡歯科大学 理事長



福岡歯科大学は創立から40余年、西日本唯一の私立歯科大学として約4200人の卒業生を輩出。大学附属の医科歯科総合病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなど医療・保健・福祉が一つのキャンパス内に統合された環境で超高齢社会に対応できる新時代の歯科医師を育成している。今年10月に福岡で開かれる第23回日本歯科医学会総会では主幹校として企画・運営に携わっており、各方面からの注目も高い。

昨年10月、附属の医科歯科総合病院に12科目となる皮膚

科を新設、この2月には関連法人の学而会が特別養護老人ホーム「サンシャインセンター」を開設した。「学生が意欲を持つて学び、卒業生が誇れる母校」をモットーに、一生学べる環境づくりに取り組んでいく」と語る水田理事長。来年4月開学を目指し設置認可申請中の福岡看護大学（仮称）のほか、新病院建設計画など着々と整備が進む。

同大学では、従来の歯学に一般医学・福祉の要素を取り入れたより総合的な口腔医学教育を実践し、「口腔の健康を通して全身の健康を守る歯科医師」を育成している。内科や外科、耳鼻咽喉科などの関連医学を修得し、隣接する各施設で多彩な臨床実習を展開。緊急時の対応を

疑似体験できる患者型ロボットや歯科医療のシミュレーション装置など最新鋭の設備も導入して学び、卒業生が誇れる母校」をモットーに、一生学べる環境づくりに取り組んでいく」と語る水田理事長。来年4月開学を目指し設置認可申請中の福岡看護大学（仮称）のほか、新病院建設計画など着々と整備が進む。

同大学では、従来の歯学に一般医学・福祉の要素を取り入れたより総合的な口腔医学教育を実践し、「口腔の健康を通して全身の健康を守る歯科医師」を育成している。内科や外科、耳鼻咽喉科などの関連医学を修得し、隣接する各施設で多彩な臨床実習を展開。緊急時の対応を

疑似体験できる患者型ロボットや歯科医療のシミュレーション装置など最新鋭の設備も導入して学び、卒業生が誇れる母校」をモットーに、一生学べる環境づくりに取り組んでいく」と語る水田理事長。来年4月開学を目指し設置認可申請中の福岡看護大学（仮称）のほか、新病院建設計画など着々と整備が進む。

同大学では、従来の歯学に一般医学・福祉の要素を取り入れたより総合的な口腔医学教育を実践し、「口腔の健康を通して全身の健康を守る歯科医師」を育成している。内科や外科、耳鼻咽喉科などの関連医学を修得し、隣接する各施設で多彩な臨床実習を展開。緊急時の対応を



診療中の緊急時に取るべき行動を学習する患者型ロボットを導入

平成20年度文部科学省

戦略的大学連携支援事業

代表校

福岡歯科大学

連携校

九州歯科大学
北海道医療大学
岩手医科大学
昭和大学
神奈川歯科大学
鶴見大学
福岡大学

関係自治体等

社会福祉法人「学而会」
 特別養護老人ホーム
 サンシャインプラザ

[更新履歴](#)
[概要\(PDF\)](#)
[概要図](#)

口腔医学シンポジウム



ポスターをクリック(PDF)

トピックス

- 口腔医学シンポジウムを開催しました。
[\(平成28年1月9日 於:福岡大学病院 福大メディカルホール\)](#)
[第11回連携大学学長・学部長および実施担当者合同会議を開催しました。](#)
[\(平成28年1月9日 於:福岡大学病院新館多目的室\)](#)
- 平成27年度FDワークショップを開催しました。[\(平成27年11月18日 TV配信\)](#)
- 平成27年度職員短期研修派遣を実施しました。[\(平成27年7月、8月\)](#)
- 平成26年度口腔医学自己点検・評価報告書が完成
- 口腔医学シンポジウムを開催しました。[\(平成27年1月10日 於:神奈川歯科大学\)](#)
[第10回連携大学学長・学部長および実施担当者合同会議を開催しました。](#)
[\(平成27年1月10日 於:神奈川歯科大学\)](#)
- 平成26年度FDワークショップを開催しました。[\(平成26年11月12日 TV配信\)](#)
- 平成26年度職員短期研修派遣を実施しました。[\(平成26年7月、8月\)](#)
- 平成25年度口腔医学自己点検・評価報告書が完成
- 口腔医学シンポジウムを開催しました。[\(平成26年1月12日 於:福岡歯科大学\)](#)
- 平成24年度口腔医学自己点検・評価報告書が完成
- 平成25年度FDワークショップを開催しました。[\(平成25年11月27日 TV配信\)](#)
- 平成25年度職員短期研修派遣を実施しました。[\(平成25年9月\)](#)
- 平成23年度口腔医学自己点検・評価報告書が完成
- 口腔医学シンポジウムを開催しました。[\(平成25年1月13日 於:北海道経済センター\)](#)
[第8回連携大学学長・学部長および実施担当者合同会議を開催しました。](#)
[\(平成25年1月13日 於:北海道経済センター\)](#)
- 平成24年度FDワークショップを開催しました。[\(平成24年11月22日 TV配信\)](#)
- 平成24年度職員短期研修派遣を実施しました。[\(平成24年8月\)](#)
- 口腔医学シンポジウムを開催しました。[\(平成24年1月22日 於:鶴見大学会館\)](#)
[第7回連携大学学長・学部長および実施担当者合同会議を開催しました。](#)
[\(平成24年1月22日 於:鶴見大学会館\)](#)
- 平成23年度第1回FDワークショップを開催しました。[\(平成23年10月14日 TV配信\)](#)
- 平成23年度職員短期研修派遣を実施しました。[\(平成23年8月~9月\)](#)
- 事業結果報告書が完成
- 「口腔医学国際シンポジウム 開催」として新聞に掲載されました。
[読売新聞\(12月5日付\)](#) [日本歯科新聞\(12月21日付\)](#) [教育学術新聞\(1月12日付\)](#)
- 平成22年度海外視察報告会を開催しました。[\(12月21日 TV配信\)](#)
- 口腔医学国際シンポジウムを開催しました。[\(12月4日 於:アクロス福岡 国際会議場\)](#)
- 各担当者会議を開催しました。[\(12月4日 於:アクロス福岡\)](#)
- 平成22年度第2回SD研修を開催しました。[\(11月19・20日 於:鶴見大学\)](#)
- 平成22年度第2回FDワークショップを開催しました。[\(11月13日 於:鶴見大学\)](#)
- 各担当者会議を開催しました。[\(7月25日、於:ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING\)](#)
- 戦略的大学連携支援事業「口腔医学シンポジウム」を開催しました。[\(7月24日、於:岩手医科大学\)](#)
- 平成22年度第1回FDワークショップを開催しました。[\(7月17日、於:北海道医療大学札幌サテライトキャンパス\)](#)
- 平成21年度口腔医学自己点検・評価報告書が完成

- [平成22年度第1回SD研修を開催しました。\(7月2・3日、於:北海道医療大学他\)](#)
 - 「医歯学連携演習TV共同授業 開講」として新聞に掲載されました。
[日本歯科新聞\(4月20日付\)](#) [教育学術新聞\(4月28日付\)](#)
 - [口腔医学カリキュラム\(医歯学連携演習\)TV共同授業 開講](#)
 - [第4回戦略連携事務会議を開催しました。\(3月26日、於:福岡歯科大学\)](#)
 - [第4回口腔医学自己点検・評価委員会を開催しました。\(3月25日、於:昭和大学\)](#)
 - [第17回口腔医学カリキュラム作成担当者会議を開催しました。\(3月23日、於:福岡大学\)](#)
 - [第4回連携大学学長・学部長会議及び戦略連携事業実施担当者会議 合同会議を開催しました。\(3月6日、於:鶴見大学\)](#)
 - [平成21年度「口腔医学シンポジウム」を開催しました。\(1月9日 於:福岡県歯科医師会館\)](#)
 - [平成21年度海外視察報告会を開催しました。\(1月9日 於:福岡県歯科医師会館\)](#)
 - [平成21年度SD研修を開催しました。\(11月20日 於:神奈川歯科大学\)](#)
 - [平成21年度FDワークショップを開催しました。\(11月13日 於:神奈川歯科大学附属横浜研修センター\)](#)
 - [「第3回戦略連携事務会議」を開催しました。\(10月2日 於:九州歯科大学\)](#)
 - [「第3回学長・学部長会議及び実施担当者会議合同会議」を開催しました。\(9月5日、於:岩手医科大学内丸キャンパス\)](#)
 - [TV授業システム検収を実施\(8月31日\)](#)
 - [平成21年度SD研修を開催\(7月23日、於:福岡歯科大学\)](#)
 - [「平成21年度FDワークショップ」を開催\(7月11日、於:福岡県歯科医師会館\)](#)
 - [「平成20年度口腔医学自己点検・評価報告書」が完成\(7月9日\)](#)
 - [「海外視察報告会」を開催\(3月23日、於:福岡歯科大学\)](#)
 - [「第1回口腔医学自己点検・評価委員会」を開催\(3月23日、於:福岡歯科大学\)](#)
 - [平成20年度SD研修を開催\(2月19日～20日於:福岡歯科大学\)](#)
 - [『口腔医学』シンポジウム、開催 \(平成20年度FD事業\)\(1月22日、於:福岡県歯科医師会館\)](#)
 - [「第2回口腔医学カリキュラム作成担当者会議」を開催\(1月22日、於:福岡県歯科医師会館\)](#)
 - [文科省平成20年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」ポスターセッションへ出展しました。\(平成21年1月12～13日、於:パシフィコ横浜\)](#)
 - [「第2回学長・学部長会議及び実施担当者会議合同会議」を開催しました。\(1月10日、於:昭和大学旗の台キャンパス\)](#)
 - [第1回各担当者会議、開催](#)
 - [『「口腔医学」確立と教育体制整備』として日本歯科新聞に掲載されました。\(11月4日付\)](#)
 - [日本歯科新聞\(PDF\)](#) [歯科通信\(PDF\)](#)
 - [第1回連携大学学長・学部長会議を開催しました。\(9月4日、於:福岡歯科大学\)](#)

お知らせ

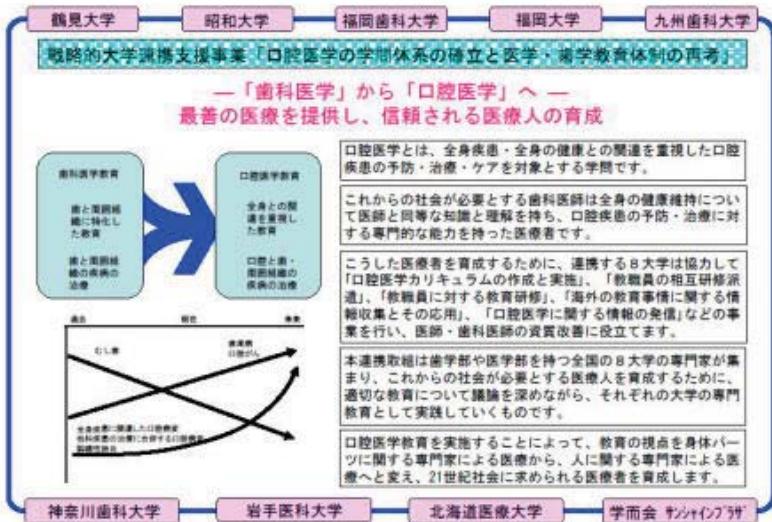
・取組名称「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」

本事業は、次代の患者ニーズ・社会ニーズに対応する医療人の育成を目指すもので、医歯学連携による口腔医学の教育プログラム開発・実施、FD・SD活動、教職員の人事交流、学外実習など多様な連携取組が行われます。また、全国横断的に医歯学系の大学間が連携することで効果的な教育研究活動の展開が期待され、特に歯科医師の資質向上に大きく貢献することになると思われます。

1. 事業の戦略目標

医学、歯学、生命科学等の急速な進歩、少子高齢化社会、国民の生活環境の改善等によって疾病構造は変化し、医療に対する社会のニーズは大きく変化した。時代のニ

ニーズに対応した医療人の育成が医育機関に求められており、口腔疾患の予防・治療を行う医療人の育成には「歯学」から、「医学」の学問体系の中に確立した「口腔医学」によって行うのが最善である。また、高齢者医療における口腔疾患の予防・治療および口腔ケアの重要性は大きくなっています。医学教育における「口腔医学」の重要性も認識する必要がある。本事業は「口腔医学」を創設し、医学・歯学の教育体制を再考し、次代の患者ニーズ・社会ニーズに対応する医療人の育成を目指す。その第一段階として、医歯連携によって「口腔医学」の学問体系を確立し、その教育体制を育成する。本連携取組を核として、より大きな連携形成につとめ、現在の医師・歯科医師育成のあり方、医学部・歯学部の設置形態等について検討し、連携校は協力して法制度等を含めた教育環境の改革を関係官庁および関連諸団体に働きかけ、合理的でかつ効果的な教育環境の整備を図り、次代にマッチする医学・歯学を統合した一体教育を実施する。



2. 密接な連携を担保するための実施体制の在り方

各連携校の学長・学部長、担当代表者、職員による「連携大学学長・学部長会議」、「担当者会議」および「連携事務会議」によって取組を実施し、必要に応じて各大学の審議機関で審議する。担当者会議は高速ネットワークシステムを用いたテレビ会議と通常の会議とによって情報と認識の共通化を行う。事務に関する統括は福岡歯科大学連携企画室が行い、教育プログラムの実施に関する具体的な業務は各連携大学事務部局が担当する。各大学から選任された教職員及び学外の有識者で構成される「口腔医学自己点検・評価委員会」を設置し、本取組の内部評価を行い、評価結果は各連携校の各施設・部局にフィードバックし改善資料とする。

3. その他大学間連携を実施する上で必要な事項

広域連携という本取組の地勢的問題をクリアするため、テレビ会議システムを連携校間に配備する。国内・国際シンポジウムを開催するとともに、歯科医師会、医師会等関係諸団体と協議し、プログラムの深化と社会に対する啓発を行う。口腔医学確立に向けて、協力施設の地域・広域ネットワーク化、連携校専任教職員の人事交流の活性化等を図る。

4. 戦略的大学連携支援事業とは

文部科学省では、平成20年度から、国公私立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的とした「戦略的大学連携支援事業」を実施している。

お問い合わせ

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号

福岡学園企画課

TEL : 092-801-0411(代) FAX : 092-801-3678

MAIL : kikaku@college.fdcnet.ac.jp

資料VI

TV会議・授業システム使用一覧表（平成27年度）

TV会議システム

	月 日	時 間	会議タイトル	福歯大担当課
1	4月2日	18:00 ~ 18:25	第79回口腔医学カリキュラム作成担当者会議	学務課
2	4月9日	17:00 ~ 17:30	第75回戦略連携事業実施担当者TV会議	企画課
3	5月14日	18:00 ~ 17:35	第76回実施担当者・第80回カリキュラム作成担当者 合同TV会議	企・学
4	6月4日	18:00 ~ 18:20	第81回口腔医学カリキュラム作成担当者会議	学務課
5	6月11日	17:00 ~ 17:50	第77回戦略連携事業実施担当者TV会議	企画課
6	7月2日	18:00 ~ 18:20	第82回口腔医学カリキュラム作成担当者会議	学務課
7	7月9日	17:00 ~ 17:35	第78回戦略連携事業実施担当者TV会議	企画課
8	8月6日	17:00 ~ 17:45	第79回実施担当者・第83回カリキュラム作成担当者 合同TV会議	企・学
9	9月3日	18:00 ~ 18:25	第84回口腔医学カリキュラム作成担当者会議	学務課
10	9月10日	17:00 ~ 17:25	第80回戦略連携事業実施担当者TV会議	企画課
11	10月1日	18:00 ~ 18:20	第85回口腔医学カリキュラム作成担当者会議	学務課
12	10月8日	17:00 ~ 17:35	第81回戦略連携事業実施担当者TV会議	企画課
13	11月5日	18:00 ~ 18:30	第86回口腔医学カリキュラム作成担当者会議	学務課
14	11月12日	17:00 ~ 17:30	第82回戦略連携事業実施担当者TV会議	企画課
15	11月18日	17:00 ~ 20:20	戦略連携事業FDワークショップ	企画課
16	12月3日	18:00 ~ 18:40	第87回口腔医学カリキュラム作成担当者会議	学務課
17	12月10日	17:00 ~ 17:30	第83回戦略連携事業実施担当者TV会議	企画課
18	1月7日	17:00 ~ 17:35	第84回実施担当者・第88回カリキュラム作成担当者 合同TV会議	企・学
19	2月4日	17:00 ~ 17:45	第85回実施担当者・第89回カリキュラム作成担当者 合同TV会議	企・学
20	3月3日	18:00 ~ 18:25	第90回口腔医学カリキュラム作成担当者会議	学務課
21	3月10日	17:00 ~ 17:25	第86回戦略連携事業実施担当者TV会議	企画課

TV授業システム

	月 日	時 間	会議タイトル	福歯大担当課
1	4月6日	9:00 ~ 10:20	医歯学連携演習 第1回	学務課
2	4月13日	9:00 ~ 10:20	医歯学連携演習 第2回	学務課
3	4月20日	9:00 ~ 10:20	医歯学連携演習 第3回	学務課
4	4月27日	9:00 ~ 10:20	医歯学連携演習 第4回	学務課
5	5月11日	9:00 ~ 11:55	医歯学連携演習 第5回・第6回	学務課
6	5月18日	9:00 ~ 11:55	医歯学連携演習 第7回・第8回	学務課
7	5月25日	9:00 ~ 11:55	医歯学連携演習 第9回・第10回	学務課
8	6月1日	9:00 ~ 11:55	医歯学連携演習 第11回・第12回	学務課
9	6月8日	9:00 ~ 11:55	医歯学連携演習 第13回・第14回	学務課
10	6月15日	9:00 ~ 11:55	医歯学連携演習 第15回・第16回	学務課
11	6月22日	9:00 ~ 10:20	医歯学連携演習 第17回	学務課
12	6月29日	9:00 ~ 10:20	医歯学連携演習 第18回	学務課